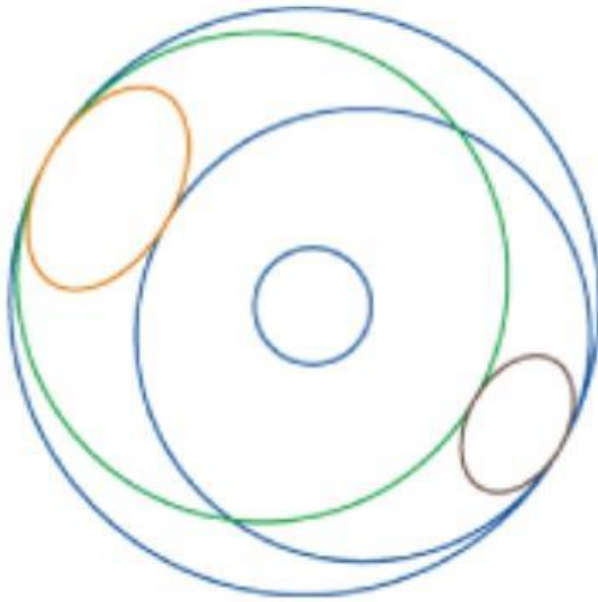


スピリチュアリズム
廣瀬仁が語る靈的眞理

スピリチュアリズム
靈的思想の全貌 上巻

廣瀬仁



自己流、自分勝手な解釈で靈的眞理を捻じ曲げてはならない
人生に置いて大切なこととは、靈的眞理の正しい理解と實踐である
あらゆる不幸を驅逐し、靈的成長という眞の幸福を手にする入門書
眞の幸福は靈的成長以外にはないことを悟るための永遠のバイブル



時空元移動 アルトヌウロウイ
「FANT-14」 ARUT.NOROUY 足立育朗



「E21-F ⑧」 アルトヌウロウイ ARUT.NOROUY 足立育朗

まえがき

2021年4月、日本の愛知県豊橋市にあるスピリチュアリズム普及會ふきゆうかいというサークルにイエスが再臨を果たしました。これは基本的に地球人類80億の人々の殆どが知らないことです。イエスは生前、磔にされて殺されてしまい、死後に2000年後に地球に再臨する計画を立てました。地球の救済計画のリーダーは間違いなくイエスであり、高級靈界通信は「イエス主導の地球人類救済計画」の一環という重要な意味がありました。

世界三大通信と呼ばれるカルデック、モーゼス、シルバーバーチと呼ばれる靈界通信が存在しますが、世界三大通信は「イエスが地上再臨を実現するための準備の一環として起こした計画」ということです。イエスは、二千年前に始めた人類救済計画を再開するために、靈

界で長い準備期間を費やしてきました。二千年に及ぶ準備の結果、地球にもたらしたのが世界三大通信だったのです。

イエスは、1800年間に及ぶ靈界での大靈團れいだんの形成、1848年からのスピリチュアリズム運動の出發、1920年代から1981年まで、約60年間に及ぶシルバーバーチの靈界通信という形で、地上再臨に向けての準備を進めていきました。そして1981年から40年をかけて、地上再臨の受け皿づくりの準備が行われました。これが、「イエス地上再臨」のための最後の準備です。そして、2021年にスピリチュアリズム普及會ふきゆうかいの靈媒二人を通して、地球再臨が實現しました。

このイエスの地球再臨を信じるか、疑うかは一人一人の理性に基づく判断に委ねられます。わたしはイエス再臨と共に、イエスが舞い降りるスピリチュアリズム普及會ふきゆうかいを信じることに

しました。どのように考察したとしても、イエス再臨と、イエスの通信内容が理に適った内容だからです。なので今後、眞理を學び、眞理を實踐するのはイエスの指示に従うのが賢明な判断と言えます。そして、イエスが普及會ふきゆうかいに送った通信には重要な内容が述べられています。アラン・カルデックの靈の書、靈媒の書、モーゼスのインペレーターインペレーターの靈訓、シルバーチの靈訓は全てイエスが通信を管理しており、イエスはシルバーチの靈訓を通して神の眞理は語り尽くされていると斷言しています。

神の眞理は、『シルバーチの靈訓』を通して語り尽くされている。現代人が受けるに相應ふさわしい内容になっている。今、わたしが降ろしている通信は、今後二千年の未來を約束するものである。

スピリチュアリズム普及會ふきゆうかいへイエスからの通信
2021年10月28日

なので、基本的にはシルバーバーチの靈訓を正しく理解し、それを日常生活に反映させることが大切です。しかし、殆どの方がシルバーバーチの靈訓を正しく理解できません。それは1920年から1981年まで、約60年に渡る膨大な情報量の全貌を正しく理解するのに余りにも時間が掛かることも、理解を困難にする一因です。なので、スピリチュアリズム普及會がまとめた靈的眞理の全貌、要点が必要になります。イエスも次のように通信で述べています。

スピリチュアリズム

ふきゅうかい

（わたしの地上再臨は）わたしがつくったこの地上のサークルが、どこまで地上再臨のための強固な足場となれるかが、重要なカギだった。何よりもメンバーが、『シルバーバーチの靈訓』をどれだけ深く理解し、忠實に實踐に移せているか、それに向けて眞理を整理したいけい體系化させるよう働きかけたのである。

ふきゅうかい

スピリチュアリズム普及會へイエスからの通信

2021年10月28日

『シルバーバーチの靈訓』と思想體系たいけいがセットになったものであることが前提となる。『シルバーバーチの靈訓』を日々の生活に取り入れるということは、まさにセットとしての講義をしなければ、参加者の実践につなげていけないからである。

スピリチュアリズム普及會ふきゆうかいヘイエスからの通信
2021年10月18日

わたしも地球上の様々なスピリチュアル系、精神世界系の情報を含め、様々な情報を吟味、考察、熟考してきましたが、シルバーバーチの靈訓を超える靈界通信、叡智はないと斷言できます。唯一匹敵するレベルの靈界通信は足立育朗さんが受け取った時空からの情報を元に、著書にした『波動の法則』ぐらいであり、波動の法則はシルバーバーチの靈訓の情報を深堀りするために必要な著書です。この兩方と、スピリチュアリズム普及會ふきゆうかいの思想體系たいけい、禱りいの(※

音叉によるセルフヒーリング）を追窮してきたお陰で、わたしは靈的眞理の全貌と要点を知ることが出来ました。何一つ欠けてもいけなくて、全部が必要な叡智でした。そのわたしが學んできた叡智を今度は皆さんに分かち合うため、それを今回著書にしました。

スピリチュアリズム

靈的眞理を學ぶにあたり、まず4つのことを正しく理解する必要があります。「神につい

て、神の法則について」「人間について、生きる意味について」「死について、死後の世界について」「自分自身について、今世の役割について」、残念ながらこれらを正しく言える地球

スピリチュアリズム

人は殆どいません。靈的眞理を學ぶということは、この4つを學び、この地球という惑星

EXA PICO SINO A

スピリチュアリズム

に暮らす全存在物の調和と平和を促進する生き方、日常生活で靈性の進化をするための信仰實踐の生き方をしていくことです。そのためには、靈的眞理を偏りなく學び、眞理の要

点を押さえることが必要です。

地上人サイドで完成させた『スピリチュアリズムの思想體系』は、どのように生きるのかのテキスト、マニュアルであり、地球人類がどのように生きるべきかの指南書です。『シルバーバーチの靈訓』および『波動の法則 實踐體驗報告』では、「既成のテキストはない」、「時空の仕組みにマニュアルはない」と述べられていますが、どのように生きるべきかの完璧な指南書があるのはこの500年の地球人類史上、前例がないことです。なので、『シルバーバーチの靈訓』、『スピリチュアリズムの思想體系』はあらゆる質問への解答書です。その解答書を元に、様々な情報を更に整理し、要点をまとめているのが本書なのです。

シルバーバーチをはじめとする高級靈の説く眞理の本質は、「内省」、「自己反省」、「無償の奉仕」、「ECHO」^{エコー}との闘い、神への禱り^{いのり}、利他の實踐であり、全てが信仰的内容です。高級靈は、眞理を知って、自己満足でよしとするような姿勢、分かち合いを實踐しない姿勢に

対して、それを最大のEGHO^{エーゴ}、利己主義として考えています。

靈的眞理の普及を阻む最大の理由は、「地上人サイドの未熟さ、自己満足というEGHO意識^{エーゴ意識}」にあります。一般の人が知らない靈的眞理を自分が眞つ先に知ったというのは、守護靈、指導靈、宇宙語^{セポウ}SEPOTW^{セポウ}さんの導き以外に理由はありません。本來、靈的知識は本当はその人間の心を深くし謙虚にするものですが、内省的な努力がないところでは、靈的眞理は單なる傲慢さや自己主張の道具となってしまう。叡智は分かち合つてこそ意味を持つという本質に氣づくことです。だからこそ、正しく靈的眞理の全貌、要点を學び、實踐するためにお役に立ち、地球人類に少しでも貢献できればという想いがあります。

スピリチュアリズム

2025年2月14日 廣瀬 仁

宇宙語一覧表

宇宙語	読み方	意味
FUGEHUKON	フゲーウコン	現代文化でいう大靈 ^{たいれい} ≡フゲーウコン おうし座のプレアデス星團 ^{せいだん} アトラス星語 FUGEHUKONからFUNEKON ^{ふねこん} が生まれる。現代地球文化でいう神 ^{かみ} そのもの。微生物を元 ^{ひかり} に光、空気、土、水を生み出し、靈魂を生み出しているもの。すべての生命の根源。
FUGEHEKIN	フゲーエキン	現代文化でいう自然法則 ^{しぜんぽうそく} ≡フゲーエキン おうし座のプレアデス星團 ^{せいだん} アトラス星語 現代地球文化でいう微生物を下にした自然法則。自然法則とはFUGEHEKIN ^{ふげへきん} 、微生物のシステムのことを指す。微生物より遥かにミクロの分野まで含む。
NINNA	ニンナ	ミン ^{ミン} の語源 カシオペア座ベータ星語 FUGEHUKONと同じ意味
NINNES	ニンネス	集合意識 ^{しゅうごういしき} の語源 カシオペア座ベータ星語 FUGEHEKINと同じ意味
FUNEKON	フネコン	現代文化でいう神 ^{かみ} の分靈 ^{ぶんれい} EXA PIECOの本體。自分自身の魂の出身星に存在し、場合によっては神と定義する場合もある。
SEPOUW	セポー	背後靈 ^{さごうれい} の宇宙語 日本語で守護靈、指導靈など背後でサポートしてくださる存在の総称。本人の EXA PIECO ^{えくさぴーこ} と親しい意識體で、本人の進化の状態で入れ替わったり増加したりする
EXA PIECO	エクサ ピーコ	本質の意識と意志。原子核の集合體 ^{しゅうごうたい} FUNEKONの分靈 ^{ぶんれい} 。本質の意識體。靈や魂、スピリットやソウルなどの正確な言語。プレアデス星團 ^{せいだん} アトラス星語。
FIK	フィック	潜在意識 心理學用語でいう潜在意識とはだいぶ異なる。その人間の生命維持を司る身體すべての機能を管理している
DIKAG	ディカグ	顕在意識 魂、精神、身體すべての「行動決定權」を司る意識。すべての行動は顕在意識 ^{けんがいしき} での決定に一任される

廣瀬仁が語る靈的眞理

宇宙語	読み方	意味
DEVIK	デヴィック	靈 ^{スピリチュアル} 的眞理 ^{ファルソ} の分かち合いの實踐 生きる、學ぶの本質的な意味。自ら気づいていただくために、ヒントを送る(傳える)、教育 ^{イデオ} の本質(教えたり理解するのとは違う)。地球にはDEVIKの類似語がないため、様々な翻訳を試行錯誤し工夫する必要がある
SINQA	シンカ	進化のカシオペア座ベータ星語 眞の進化とは、眞在意識 ^{D I K A G} とEXA PIECOが同調した状態で、EXA PIECOが気づいて實行することで、その結果から学び成長することを意味する
FALF	ファルフ	エネルギー蘇生装置・エントロピー減少装置 (本来の時空から生み出される自然の仕組みに違って調和のとれた存在物)
FANT	ファント	テレポーションの宇宙語 おうし座のブレアデス星 ^{さいだん} アトラス星語で時空元を變換 ^{へんか} する。時空元を移動する。テレポーションだけだと時空間移動という意味しかない
GINO	ギノー	地球圏靈界 地球だと、0km～10km「幽界」、10km～50km「一般靈界」、50km～80km「高級靈界」、すべての惑星に存在する
JEFISIFUM	ジェフィシファム	宇宙圏靈界 太陽系、銀河系、銀河系グループ、星座系などの情報層。8層存在している。「アカシックレコード」という意味がジェフィシファムの意味に近い

廣瀬仁が語る靈的眞理 スピリチュアリズム 靈的思想の全貌 スピリチュアリズム 上卷 ※目次

まえがき

宇宙語一覽表

第一章 基本的な靈的眞理について

眞理と眞理の實踐がすべてに優先する

23

靈的眞理の要点	24
人生觀を入れ替えなければならない	32
そもそも神とは何か？	34
大靈 たいれい の本質について	36
靈的眞理により全ての人生觀を入れ替える	41
何を優先して生きるのかは顯在意識で全部決める D I K A G	45
必要最小限の生き方をすることが求められる	49
關心力、行動力、生命力を高めていく	51
惑星地球文化が正常に甦るためには	57
禱り いの と靈的眞理の學習を日常の習慣にする	60
靈的眞理を通して艱難辛苦 かんなんしんく への正しい対処をする	64

第二章 人間について

靈止と人間の違い ひと 81

大靈と靈の區別 たいれい 83

チャクラは靈體と肉體を繋ぐ接合点 れいたいにくたい 85

8つのエネルギー・フィールドの分類 88

靈、精神、身體を繋ぐシルバーコード しんたい 91

本質の最重要と、現實の最重要 95

直觀、直感の原理 96

EXA PIECO
本質、魂について 98

EXA PIECO
本質は人生の裁判官 101

潜在意識 ^{F I K} の役割	105
潜在意識 ^{F I K} は五臓六腑、經絡を通して記憶を管理している	112
潜在意識 ^{F I K} の機能を使って靈媒現象を引き起こす	115
潜在意識 ^{F I K} は正しい習慣が最も大切	119
顯在意識 ^{D I K A G} による眞の決心の意味	121
「インチューション」と「インスピレーション」	129
直觀力を磨く方法	135
感覺力（※直感力）を磨く方法	136
人間ひとりひとりをサポートする背後靈 ^{SEPULW} について	139
眞の感謝の対象について	142
自分自身が ^{F A L F} として生きること	149

第三章 死、死後世界について

スピリチュアリズムによる死後の實在の認識の浸透	155
死、死後世界に対する正しい知識が欠如した現代地球文化	157
一般的な人々の死後の現状	169
地獄というものについて	175
地球圈靈界の層について	179
靈界での仕事の定義について	184
再生（輪廻轉生）について	187
EXA PIECOとパーソナリティー意識について	192
輪廻再生の目的について	197

「ソウル・グループ」と「グループ・ソウル」の違い	200
インペレータを総指揮者にしたグループの構成	204
高級靈たちによる地球人類救済プロジェクト	209
シルバーコードがすべて切れることが死の定義	218
シルバーコードがどのように切れるかの様々なケース	221
生命は永遠であることを知ったことが一番大きいこと	229
靈的眞理が明らかにした「死生觀」による「人生觀」の革命	231
葬式、墓、残された遺族の心構え、正しい先祖供養	240

第一章 基本的な靈的真理について

眞理と眞理の實踐がすべてに優先する

地球人は「現實」のみを最優先し、日常の仕事にあくせくとし、次から次へと生じるゴタゴタに係わっていると、殆どの方が人生の基本である永遠の靈的原理を忘れてがちです。眞理がすべてに優先します。眞理とはすなわち大靈の神意の大きさ、大靈

の恩寵の無限性、全人類に分け隔てなく配剤されている神意と叡智と知識のこと

す。地球人類は靈性の進化をするために生まれ、靈性の進化をするために眞理を

實踐する必要があります。それらを妨げるものが現代地球文化には溢れており、殆

どの方はEGHO文化で生きた結果、死後に後悔するケースが後を絶ちません。そのよ

うな悲劇を食い止めるためにも、靈的眞理を正しく理解することが大切です。

【靈的眞理の要点】

- ① 地球人類を救うのは靈的眞理の普及と活用のみ
- ② 靈的眞理は『シルバーバーチの靈訓』と『思想體系』たいけいで語られている
- ③ シルバーバーチの靈訓は、イエスからのメッセージである
- ④ 眞理は實踐してこそ救われる
- ⑤ 實踐する最大の要点は「無償の奉仕と自己犠牲」である

他にも沢山ありますが、まずはこの基本を押さえなければなりません。地球人類

を救うのは靈的眞理を普及し、眞理の實踐を通して靈性の進化をしなければ果たされません。それ以外の方法で地球を救おうとしても必ず失敗します。

愛知県豊橋市に拠点のある「スピリチュアリズム普及會」が、イエスのメッセージ

ふきゅうかい

であるシルバーバーチの靈訓を地球人類が實踐しやすいように情報を整理し纏め上

げたものが『スピリチュアリズムの思想體系』であり、1981年から2021年まで40年を掛

たいけい

けてスピリチュアリズムの思想體系を完成させ、それによって2021年4月よりスピリ

たいけい

チュアリズム普及會の靈媒二人にイエスが直接通信が可能になり、それによってイ

ふきゅうかい
れいばい

エスの地上再臨が實現しました。今後、地球人類はイエスの再臨を信じ、シルバーバ

ーチの靈訓を人生の聖書バイブルにして生きることが求められます。

このことから、『シルバーバーチの靈訓』が、イエスの地上再臨の準備として降ろされたものであることが分かります。

イエスが『シルバーバーチの靈訓』を地上再臨の準備として降ろした目的は、地球人類にあらかじめ「靈的眞理」を知らせ、自分が地上に再臨したときに人類救済を進めやすくするためでした。イエスが目指す地球人類救済とは「靈的眞理に基づく救い」です。

それは、これまで地球上の宗教で説かれてきたような贖罪しよぐゐや奇跡、また單に神佛しんぶつ

を信じてその力にすぎることによってなされるものではありません。

地球人類が靈性の進化をしていき、眞の救いを得るために知らなければならない

EXA PIECO SINQA

靈的眞理の本質は、以下の4つに分類されます。

① 大靈、大靈の法則 (FUGEHUKON FUGEHEKIN) の本質
フゲーウコン フゲーエキン

② 死と死後の世界 (地球圈靈界、宇宙圈靈界) についての本質
GINO JEFISIFUM

③ 人間自身 (本質的な意識と意志、潜在意識、顯在意識) についての本質
EXA PIECO FIKAG

④ 地上人生 (何のために生まれ、何のために生きるのか) についての本質

残念ながら地球人類は、こうした肝心なことを全く知らないまま、この5000年の文化では生きてきました。「靈的無知」ゆえに、的外れで間違った生き方を、地球人類の殆どが、D I K A G顯在意識で自覺なくしてきました。

結論を述べると、「靈的無知」が地球を悲劇が蔓延する暗黒の惑星にしてきました。そして他界した人間の多くが幽界下層（0 km ～ 10 km）で「地縛靈」になるという悲劇を招いてきました。

イエスは、『シルバーバーチの靈訓』を通して「靈的眞理」を人類に示しました。

人々は『シルバーバーチの靈訓』によって、イエスの思想、教えることができるのです。あらゆる靈界通信の中で『シルバーバーチの靈訓』が傑出しているのにはこうした理由があります。

ナザレのイエスは、地上へ降誕した一連の予言者ないし靈的指導者の系譜の、最後を飾る人物でした。そのイエスにおいて、靈の力が空前絶後の顯現をしたのでした。

地上人類最高の福音（スピリチュアリズム普及會）
ふきゅうかい

p.262

シルバーバーチのこの言葉が、イエスという人物のすべてを語っています。シル

バーバーチの靈訓はイエスの教えであり、イエスが地上再臨をするための準備として用意されたものです。その説いている靈的眞理の基本的原理は單純であり、幼心の純心さえあれば、容易に理解できるものです。しかし現實には、單純であるが故に理解できない地球人が大半であり、地球上のあらゆる間違つた教義から離れられない人ばかりです。そうした方々は靈的な眼で視た時、實に哀れな存在です。靈的眞理とは、どのようにすれば人間的產物である教義への隸屬狀態から脱け出せるかを教えてくれています。もとよりそれは容易なことではありません。

なぜなら、いったん宗教的束縛を受けると、迷信の厚い壁を眞理の光が突き抜けるには、永い永い時間を要するからです。

靈的眞理とは單純シンプルですが、様々な奥行き奥行きがあります。幾重にも時空元時空元が織り混ざつ

たものであり、單純シンプルな中に複雑さが存在します。しかし、それは当然のことです。

靈的成長の本質の一つとは「統合」を意味します。統合されればされるほど、その

EXA PIECO F I R D I R A G

存在物は深みを増していきます。本質の意識、潜在意識、顕在意識が統合された状態、

N I N N A N I N N E S

この状態になると、あらゆる存在物の背後にある大靈、自然法則に自然に感謝と畏

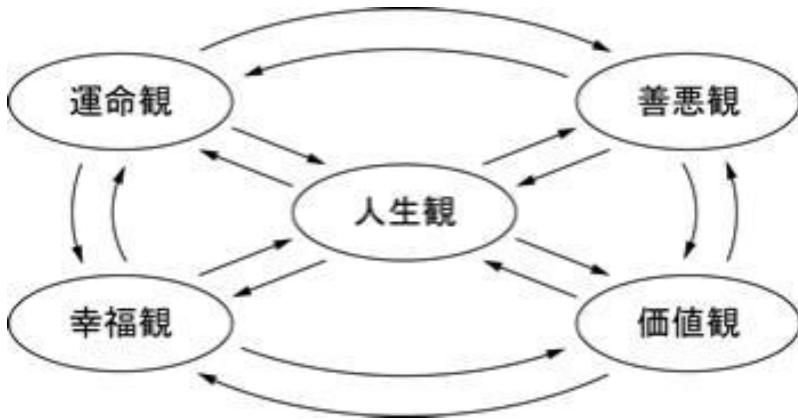
敬の念が湧き出てきます。神は法則の中に垣間見ることが可能であり、その法則か

ら切り離されて存在できるものではありません。

人生観を入れ替えなければならない

EXA PIECO SINQA

眞理の實踐を通して靈性の進化をする、これが何のために生まれ、何のために生きるのかの原点です。そのための人生のガイドラインが『シルバーバーチの靈訓』と『スピリチュアリズムの思想體系』^{たいけい}です。そのためには「人生観」を根底から生まれ変わらせなければなりません。それなくして靈的人生をスタートすることは不可能です。そして結論を言ってしまうえば、地球人類80億の殆どが、人生観を間違えています。その根底には宗教的信仰、靈的無知が絡んできます。現代地球文化は、あらゆる分野が自然法則に反した文化を築き、そのため死後に幽界下層で地縛靈グループを形成するという地獄を作り出してきました。



人生観は大きく分類すると、「信仰心」が一番大きな影響を与え、次に「信念^{たいけい}體系」と「価値観」が大きく影響します。

何を信仰し、何を信念にし、何を大事にしているか、これが人生観です。
スピリチュアリズムでは、大^{たい}靈^{れい}を信仰し、大^{たい}靈^{れい}の^{せつり}攝理に合わせることを
大きな目標にし、各々が自分の役割に沿って生きることを信念とし、そ
して^{EXA PIECO}靈^{SINQA}性の進化を大事にしております。

これまでの現代地球文化の間違った人生観を改める、これが靈的眞理を知る理由です。そして、正しい人生を歩む、一人でも多くの人に人生観を改め、正しい道を歩ませる、これが眞の奉仕、眞の分かち合い、眞の利他の定義なのです。

そもそも神とは何か？

人生觀の入れ替えとしてまず、惑星地球文化で正しく神を理解している宗教は存在しません。神というものの定義を間違っています。人生觀で一番最初に入れ替え

なければならぬ觀念は「自然觀」と「死生觀」なのですが、現代地球文化で正しい

自然觀、死生觀を傳つたえているところは殆ど存在しません。あらゆる宗教、あらゆる民族の神觀しんかんが自然法則靈的眞理に反しています。なので、地球の宗教は正しい神觀しんかんを傳つたえられていないので、全て失格という事實があります。

地球人類は本当のところ、神について何も分かっていません。現在の地球上にも

人生を懸け生命を捨てるほどの熱心な信仰者は多くいますが、そうした人々も「神の本質」については全く知りません。信仰者は過去の人間たちが勝手につくり上げた神のイメージを信じ込み、空想の神をひたすら崇拜しているにすぎません。

ここ 5000 年の地球の文化には、神についての正しい知識、本質の神観しんかんがありません

でした。そのため真剣に神を崇拜し、熱心に信仰すればするほど神から離れ、的外れな方向に走ることになってしまふといった皮肉な結果を招いてきました。そしてそれが死後に幽界下層で地縛靈グループを形成します。そして地上と幽界がかなり近いいため、地上でもその影響を受けてしまい、無限地獄ドグマのようなグループを生み出してしまっていました。要するに、信仰心があればあるほど、間違った教義により地獄行きになってしまうような状況がずっと續つづいていたのです。

大靈の本質について

神の正式名称は日本語では大靈と表現するのが的確な表現であり、宇宙語を含めて語らなければ眞相は見えてきません。ここで『波動の法則』の情報が必要になってくるのですが、宇宙語で「大靈」と「靈」の違いを區別する必要があります。

大靈というものの本質を知らなければ、靈的眞理に適った信仰實踐は不可能であり、ここ500年の歴史上の宗教の汚点である「人間が神を利用する信仰」という愚行を犯すことになります。

『シルバーバーチの靈訓』や『波動の法則』によって明らかにされた本質の神、

大靈たいれいの情報を整理すると、主に大靈たいれいの情報を5つのポイントにまとめることができます。「本質の神」とは、この5つの定義をすべて含んだ存在です。

- ① 創造主としての神
- ② 大靈たいれいとしての神
- ③ 神意あいの始原としての神（神意あいなる神）
- ④ 攝理せつり（法則）としての神
- ⑤ 究極の理想としての神

5つの神の定義を合わせて1つにした存在が、「本質の神」ということです。これらたいれいを大靈たいれい、大靈FUGHEKON、大靈NINNA、どのように表現しても構いませんが、本質的にはどれも一

緒です。この大靈たいれいに現代地球文化で最も近いものは「微生物」であり、微生物が「光」ひかり、「空氣」、「土」、「水」などの生命素を生み出し、その生命素から「鉱物」、「植物」、「どうぶつ」、「人間」の靈EXA PISCOが生み出されます。すべて大靈FUGHEKONから靈EXA PISCOが生み出される、これが大宇宙の原則です。それに対し氣になる記述があります。

今も、『波動の法則』の範圍でお傳つたえているのは、EXA PISCOが時空間を構成しているということですが、EXA PISCO自體エクサ ビーコじたいはFUGHEKINフゲーエキンで構成されています。（中略）時空そのものを構成しているのは、FUGHEKINフゲーエキンだというのが、今、お傳つたえできる範圍だと思います。

波動の法則 實踐體驗報告たいけん（ナチュラルスピリット）

p.77
～
p.78

この情報は、時空そのものを構成しているのが大靈FUGEHIKONと翻訳することも可能です。

世界三大靈訓にある「大靈たいれい」というものを「FUGEHIKON」や「NINNAニンナ」という宇宙

語に翻訳することによって、大靈たいれいについてより深く知れるようになります。

地球もフゲーエキンがつくっています。植物も、微生物も、鉱物もフゲーエキンです。

微生物がどうぶつの存在を生み出しています。だから、時空を構成しているのは全部、フゲーエキンなのです。

波動の法則 実践體驗報告たいけん（ナチュラルスピリット）

p.49

これを「FUGEHIKONフゲーウコン＝大靈たいれい」、「EXA PICOエクサピコ＝靈」にすると全てに符号がいきます。

そして表現は違いますが、『シルバーバーチの靈訓』でも本質的には同じことを述べております。

神は人間を靈的にご自分に似せて創造されたのです。生命は靈であり、靈は生命です。靈的に似せて創造された以上、あなたは永遠に神とつながっており、神性を共有しているのです。（中略）ですから人間は神に似ているのであり、姿が似ているというわけではありません。

『シルバーバーチの靈訓（11）』（潮文社）

p.109
～
p.110

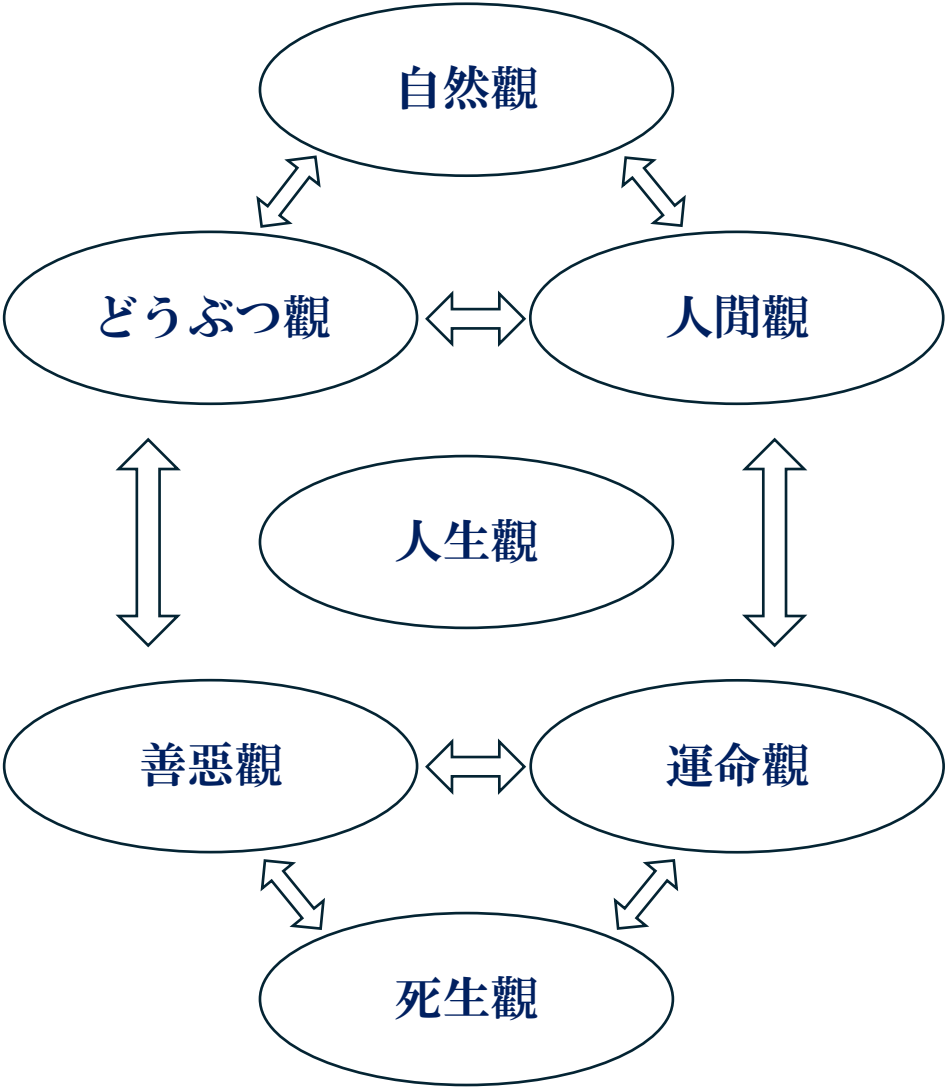
これらの情報をどのように受け取るのかは各々の靈性の「時空元」、「段階」、「振

EXA PIECO

動波」で變わりますが、高時空元の存在達は共通して「自然法則靈的眞理」大靈たいれい」という考え方であり、これが「自然觀」として確立されています。これを主軸にして生きなければ生き方を人間中心主義というECHO文化から、すべての存在物を尊び、蘇生する文化にシフトすることは不可能です。

靈的眞理により全ての人生觀を入れ替える

そもそも人生觀は、「自然觀」、「死生觀」、「仕事觀」を主軸にして、「人間觀」、「どうぶつ觀」、「善惡觀」、「運命觀」まで入れ替える必要があります。そしてイエスを中心とした高級靈團れいだんは、スピリチュアリズムの最初の使命として「死の本質、死後世界について」を中心に地球人類にメッセージを送っていました。



そして、シルバーバーチの靈訓を通して、すべての人生觀が網羅されることになりました。最終的に「人生觀」とは「仕事觀」に集約されます。

自然觀、人間觀、どうぶつ觀は三位一體さんみいったいの關係です。死生觀、善惡觀、運命觀は

三位一體さんみいったいの關係です。最終的に「人生觀EXA PICO SINGA」として、何のために生まれ、何の

ために生きるのか、自分自身の靈性の進化をするために、どのような天命マップ、能力ギフト、

役割があるのか、どのように地球、地球人類に貢献するのか、それらが完成して、

初めてこの地球で生きていると言える状態になります。そのためには、眞理を學びながら眞理を實踐していき、それら全てを學ぶ必要があります。その中で自然觀の次に改めるべきは「死生觀」です。

——利己心を撲滅するにはどうすればよいでしょうか。

人間的欠点の中でも最も取り除き難いのがこの利己心です。その原因は物質の影響力と結びついているからです。人類はまだまだ物質性を多分に残していますから、それから解放されるのは容易ではありません。人間界の法律、しゃかい社會的組織、そして教育までもが唯物主義の上に成り立っています。物的生活が精神的生活によって支配されるようになるにつれて、利己主義も薄められて行くでしょう。

それにはスピリチュアリズムの普及によって死後の生命の實在についての認識が浸透することが大前提です。

(書名) フェヌロン

『靈の書』

(スピリチュアリズム普及會)

ふきゅうかい

p.311

何を優先して生きるのかは顯在意識で全部決める

D I K A G

死生觀については別章で詳しく述べるとして、人生觀とは別に、結局、何を優先して生きるのか、この「優先順位」がかなり人生を左右します。人生の何を優先し、どのように生きるのかの決定權は結局のところ、全部「顯在意識」になります。

D I K A G

これを「自由意志の法則」と呼びますが、地球人類80億の殆どの人が「本質の意識」

E X A P I E C O

と「潜在意識」と「顯在意識」がズレているため、正常な判斷をしておりません。ま

F I K

D I K A G

た、何でもかんでも顯在意識で好き勝手に生きていい訳でもありません。この辺り

D I K A G

の理解が精神世界系を學んでいる方でさえ、殆どの方がありません。

靈的眞理を學んだとしても、それを實踐するしないは顯在意識に委ねられており、

D I K A G E X A P I E C O

顯在意識で本質の意識に基づいた生き方をするのか、現代地球文化のECHOまみれの

H T

生き方を續けるのか、それは顯在意識の「本氣度」次第です。

D I K A G

決心

そして顯在意識で本質の意識の方向、調和の方向に向かうと決心したとしてもこ

D I K A G E X A P I E C O

の後に待っているのは「現實」です。この本質と現實の狭間で揺れ動き、常に肉體を

にくたい

持っているが故に苦しみ、悩み、葛藤から逃れられないのが現實です。なので、地球

で肉體にくたいを持つて五感を使って生きている限り、苦しみから逃れられることは絶対にありません。その本質と現實の優先事項を記載してみます、

【本質の最優先事項】

EXA PIECO D I K A G

- ① 本質と現實の差を取る（靈魂と顯在意識を一致させる努力）
- ② 無償の奉仕と自己犠牲の實踐（自分の利益を後回しにした利他の實踐）
- ③ 苦しみへの正しい対処（苦しみの甘受、眞の感謝）
- ④ 自然法則に適った習慣を身につける（早起き早寝、掃除、少食、玄米菜食など）

【現實の最優先事項】

- ① コミュニケーション力の向上（眞理普及のために必須の能力）
- ② 魂心身の調和に基づいた健康（健康の基本になるのは食事、運動、睡眠）
- ③ 生活必需品の確保（金銭を通して住居、食事、衣類など最低限の生活水準の維持）

大まかに分類して本質と現實の最優先事項はこれだけですが、この本質の奉仕、利他、自己犠牲と、現實の健康、生活必需品の確保は相反するものです。また、ここで何故現代地球文化がEGHO^ユ文化になってしまっているのが要点の一つです。

必要最小限の生き方をすることが求められる

本来、本質的な生き方とは「必要最小限」、これを「質素」と呼びます。しかし、現代地球文化ではあらゆる分野が「不必要最大限」を推奨しており、これを「贅沢」と呼びます。

靈的眞理を知り、眞つ先に何を實踐するのか、それは結論を言うならば必要最小限に基づいた質素な生き方です。つまり「欲望のコントロール」をすることが求められます。残念ながら殆どの方が欲望のコントロールを途中で辞めてしまうのです。

欲望を滅却することがスピリチュアリストに真つ先に求められることなのですが、しかし現實には欲望を滅却する生き方を嫌がる人が殆どです。そして一度は調和の方向に向かう決心を顯在意識でしたとしても、少し辛いこと（困難、面倒なこと）があると、すぐに元のEGHOの生き方に戻る人が殆どです。

靈的眞理とは、困難、面倒なことにどのように対処したらよいのかの処方箋であり、賢く生きるための処世術です。

き方だと説いております。

また、地球は常に人間關係でのトラブルがある惑星です

ので、そうしたトラブルの際、どのような思考、考え方なら困難を解決できるのかを

教えてくれています。まさに人生全般に應用できる生き方のマニュアルなのです。

關心力、行動力、生命力を高めていく

また、靈的眞理を知り、實踐することを違ふ表現をするならば「身魂磨き」とも表現できます。要は「人間力の向上」です。人間力を向上させるためには様々な力をも身につける必要がありますが、その柱となるものは主に3つの力です。

① 關心力 「疑問の數が知識の數、知識の數が人生を飛躍させる」

古代ギリシャの哲學者であるソクラテスは「無知は罪、知は空虚、英知持つもの英雄なり」と述べたとされます。シルバークーチの靈訓でも知識の重要性が述べられ

ています。そして知識の数とは「關心力＝疑問力」と直結しています。マザー・テレサは「愛の反対は憎しみではなく、無關心である」と述べたとされていますが、その教えともう一つの教え、「最大の悲劇は、悪人の圧制や残酷さではなく、善人の沈黙である。沈黙は、暴力の影に隠れた同罪者である」とキング牧師の言葉があります。

地球の悲劇は靈的無知による利己主義、物質中心主義が蔓延っていること、あらゆる分野で本質の追窮をしていないことに原因がありますが、これを翻訳するならば「無知は罪、無口はもつと罪、無關心が最大の罪」になります。常に様々な本質にアンテナを立てること、これが必要になります。

② 行動力 「決心が行動の原点であり、決心しないで動くことは行動ではない」

實は、「行動力というのは可視化される」のですが、本気で生き方を改める決心をしたかどうかは、「思考パターン×言動×行動」で目に見える形で分かります。一番分かりやすいのは「口癖」です。その人の口癖が言靈となり、現實に反映されていきますが、「思考は現實化する」とされていますが、その教えは若干間違っており、本質は「口癖は現實化する」なのです。口癖は無意識がそのまま反映されますので、眞つ先に改めなければならぬものです。

また、行動力で最も大切なことは「けいぞくりよく繼續力」です。すなわち「習慣を改めるまで行動できているか」が要点であり、これも可視化できるものです。そして、行動力は

他人からの評価が一番の基準になります。自己採点は何の当てにもなりません。そして、殆どの方が自己採点を甘めに設定しており、他人から見たら何も行動が變^かわってないというケースが大半です。そのため、他人からの欠点、弱点の指摘が必要であり、そうした指摘を素直に謙虚に真正面から100%受け入れることが大切です。

シルバークーチの靈訓でも「實踐、行爲、行動」の重要性を説いています。靈的眞理は、地球人類がどのように日常生活を過ごすべきかを教えています。その教えの中で大切なことは、「實生活において何をしているか」ということです。靈的眞理にそった日常生活を心がける歩み、行動が全ての基準です。口先だけで何も行動していない人は高級靈からの信賴、人間關係での信賴は得られません。

③ 生命力 EXA PIECO 「靈魂とは生命であり、生命とは靈魂である」 いのち いのち EXA PIECO

關心力、行動力は生命力を高めるためにあると言っても過言ではありません。生命力とは、今世を生き抜くための力そのものであり、「バイタリティ」とも表現できます。生命力があるという表現は、活力に満ちあふれた態度や性質を表すのに使われます。生命力の高い人は、積極的で何事にも前向きに取り組む傾向があるのが特徴です。何事にも積極的なのか、何事にも消極的なのか、自律しているのか、依存しているのか、これは生命力が関係しているのです。

生命力は「試行錯誤と努力」から生まれるものであり、宇宙語では「DEVIK」デヴィックという言葉が試行錯誤と努力に該当します。試行錯誤の意味とは、課題が困

難なとき、何回もやってみて、失敗を重ねながらも段々と目的にせまって行くという仕方のことを意味します。生きるとはDEVİKであり、學ぶとはDEVİKであり、デヴィック教育とはDEVİKである、これは生きるとは試行錯誤であり、學ぶとは試行錯誤であり、デヴィック教育とは試行錯誤であると翻訳することが可能です。

なので何事も試行錯誤をしていない限り、生きているとは言えません。直観や感覺を元に、ヒントを元に試行錯誤して答えに辿り着く、これが學びです。人生とは學びであり、學んでなければ生きているとは言えません。靈的には死んでいるも同然であり、生ける夢遊病者と表現できます。生命力とは試行錯誤と努力の先に培われていく力であり、それがその人のエネルギーの大きさに繋がっていきます。

惑星地球文化が正常に甦るためには

關心力、行動力、生命力、この3つの力を飛躍的に高めるために身に着けておきたいもう一つの力は「質問力」です。また、質問力がコミュニケーション力の最大の鍵になる力でもあり、質問力が人生全般を左右する力になります。

質問は「在り方」に質問するのか、「やり方」に質問するののかも回答というのはまったく^か変わります。そして、まったく意味のない質問というのも正直存在します。それをひつくるめて質問力が人生全般の鍵になります。

質問の本質とはいったい何なのか？と問われたならば、「答え合わせ」および「確認作業」です。重要事項の確認のために質問をすることが本来の意味です。

本来、コミュニケーションとは「EXA PICO」と「EXA PICO」による振動波での交流、要するにテレパシーで交流するのが基本ですが、地球でのコミュニケーションは「D I K A G」と「D I K A G」による言語でのコミュニケーションが現代地球文化でのコミュニケーションの中心になってしまっています。

惑星地球文化が正常に甦るには、地球人類の全人口の75%以上がEXA PICO同士

によるテレパシー交流にならない限り不可能です。

直観の本質は

エクサピーコ

EXA PIECO 同士によるテレパシー交流であり、

EXA PIECO EXA PIECO
本質と本質による

波動でのコミュニケーションです。しかし、地球人類でテレパシー交流が正確に出
来る人間は現時点、地球上に48人前後（※2025年1月時点）という情報です。

靈的眞理を學んでいる人は一般的に靈能者と呼ばれる人間の予備軍です。しかし

靈能者予備軍は靈的眞理を學んでいない場合、低級靈の組織の操り人形になる危険

性があり、靈能者予備軍の

99.99%

は残念ながら低級靈の手先になる結果になります。

いの
禱りと靈的眞理の學習を日常の習慣にする

そうならないためには、「本質に顯在意識」を合わせる努力が「禱り」、もう一つは「顯在意識と本質」を合わせる努力が「靈的眞理の學習」という2つの方法を日常の習慣にする必要があります。これを「本質優位の努力」と言います。

いの
禱りの本質的意味は沢山ありますが、「背後靈（守護靈、指導靈）」との直觀的通信をする意味もあります。心の波長が一致した時に、背後靈からのヒント、導き、示唆が得られます。この時、不純な動機、純粋な動機なのかが要点になりますが、禱りと

EXA PIECO D I K A G
は「心の所作」であり、「本質に顯在意識を一致させ、魂の波長を高めようとする願望」が鍵になります。

魂の波長を最高度に高めるのは「無償の奉仕と自己犠牲」に他なりません。なので眞の禱りとは「地球人類、人々の靈性の進化のために役に立ちたい」という崇高な想いが鍵になり、日々、この禱りを眞劍にすればするほど、高級靈のサポートを受け取りやすくなります。

しかし、直観という形で受け取っても、そのメッセージを最善を尽くして決心、實

行しなければ、背後靈SEPULWのこれまでのサポートの努力はすべて無駄に終わります。なので次に必要なのが決心、實行、實體じつたいけん験、氣づき、學びなのですが、背後靈SEPULWのメッセージを素直に謙虚に實行する方は地球では殆どいません。理由は後ほど述べますが、ここで『シルバーバーチの靈訓』、『スピリチュアリズムの思想體系たいけい』などを通した靈的眞理の學習が生きてきます。

わたしはいつも思うのですが、地上の人々、中でも特に靈的知識を手にした方が背後靈の存在あを実感いを持って認識してくだされば、どんなにありがたいことでしょう。地上の神意あする者へ無益な害が及ばないようにかばい、守り、導いている靈の姿を一目ご覧になることができれば、と思うのです。

『シルバーバーチの靈訓（11）』（潮文社）

p.65

靈的眞理を知ることでのプラスの部分は、守護靈SEPOUWの存在の自覺に他なりません。

守護靈SEPOUWが自分の背後にいて、神意あいし導いてくれていることを絶えず思い起こし、常

に守護靈SEPOUWと2人でいることを忘れず、大靈FUGHIKONと守護靈SEPOUWに感謝することが大切です。

また、誰もいない静かな所SEPOUW（守護靈と通じやすい場所）で瞑想いの、禱りいのをする習慣を

身につけ、心を静め、靈の道具としての受容的姿勢を作り、何か分らないことがあ

ったら、守護靈SEPOUWに質問、尋ねるということを日課にすべきです。質問の答えは睡眠中

に教えられる場合もあれば、日中においてインスピレーションとして思い出す場合

もあれば、また外部への働きかけなど何らかの方法で氣づかされるケースがありま

す。禱りいのとは守護靈SEPOUWと二人三脚で課題をクリアするためにも必要な行いなのです。

靈的眞理を通して艱難辛苦かんなんしんくへの正しい対処をする

すべての原点とは「何のために生まれ、何のために生きるのか」、これが原点です。

靈的眞理は單純明快に「靈性の進化のため」と教えてくれています。そして靈的眞

EXA PIECO

理は、「本質が生まれる前に人生設計を決めている」と教えてくれています。しか

SEP U W

し、その後は背後靈にサポートを一任し、生まれた後は顯在意識は生まれる前に決

D I K A G

めてきた人生設計を思い出すことも顯在意識で自覺すること基本的にありません

SEP U W

しかし守護靈は、サポートする人間の性格、氣質、前世の姿、靈的な因縁、さらに

は今後の人生行路から寿命に至るまで、当人に關するありとあらゆることを知り尽くしています。また、これまでの地上人生における隠れた行爲についても、その一部始終を知っています。そのうえで守護靈は、その人の「靈性の進化」にとって最も適切な導きをしてくれます。

地上にはこれほどまでに完璧な指導のできる教師は存在しません。そうした

SEPOUW D I K A G H T
守護靈の存在を蔑ろにし、顯在意識のEGHO意識（自我、欲望）を増大させ、わがま

ま放題、身勝手、好き勝手に生き、SEPOUW
守護靈を絶望させている地球人類はなんて愚かな

のだろうと思います。だからこそ、地球人類は靈的眞理を學び、SEPOUW
守護靈と二人三脚で

人生を歩んでいるという自覺が必要なのです。

人生の目的は至ってシンプルで、靈の世界から物質の世界へ来て、再び靈の世界へ戻った時にあなたを待ち受けている仕事と楽しみを享受する資格を身につけるために、さまざまな體驗たいけんを積むということです。この地上が地球人類にとって死後の生活に備える絶好の教訓を學べる場所なのです。その教訓を學ばずに終われば、地上生活は無駄になり、次の段階へ進む資格が得られないことになります。このことは地上だけでなく、どの時空元の世界でも同じことです。

なので、死ぬとは本來、高時空元移動F A N T、生まれるとは本來、低時空元移動F A N T、それだけです。そして地球圏では生まれる時に必ず守護靈を靈界連合が任命し、影ながらサポートしています。そして、自分自身の天命マップ、能力ギフト、役割で地球をより良い惑星ホジション

にするための試行錯誤と努力を重ねていき、生まれる前より數段階、靈性の進化をして亡くなる、これが本來の死に方です。しかし、殆どの方がそのような生き方から外れ、死後に後悔するというケースが後を絶ちません。それに対し、シルバーバーチはこのように述べています。

いちばん残念に思うのは、やるべきことをやらないで終わったことです。あなたもこちらへお出でになれば分かります。きちんと成し遂げたこと、やるべきだったのに怠ったこと、そうしたことがすべて分かります。逃してしまったチャンスがいくつもあったことを知って後悔するのです。

『シルバーバーチの教え（新版・下）』（スピリチュアリズム普及會）

p.109

EXA PIECO

自分自身の本質が決めた人生全般としての計画した予定表があります。運命の枠

SEPOTW

組みは出来ており、守護靈がそこに導こうと想像を絶する困難を味わっております。

EXA PIECO

しかし自分自身の本質が計画した予定表の中で、そのスケジュールに従いながらど

D I K A G

D I V I K

れだけ潜在的神性を發揮するかは、自分自身の顕在意識の決心と試行錯誤の努力次

第です。

D I K A G

ブループリント

顕在意識ではその人生設計圖は自覺できませんが、潜在意識には必ずプログラム

F I K

されており、スケジュールから外れていれば、病氣、不快、異常という形で人間にメッセージを送ってきます。残念ながら人の役に立つための無償の奉仕と自己犠牲を實踐して生きようと決心できる人は殆どおりません。だから苦しみ、悲しみが必要になるのです。

靈的指導者の人生は、懷疑と困難と絶望から、知識と確信と啓發への巡礼の旅をします。むごい仕打ちを受ける試練の時期があります。基盤としていたものが全て瓦礫したかに見えて、悲哀が身に染み煩悶する危機的な時期もあります。もはや導きと理解を求めるところはいずこにも無いかに思うことがあるものです。いやしくも人のために生涯を捧げる使命をもつ者は、過酷な試練を體驗たいけんしなければならぬのです。もはやこれ以上は耐え切れないと思うギリギリの淵まで追いつめられ試されなければなりません。地上のいかなる者からも救いの手は差し伸べてもらえないと思える深淵まで落ちてみなければならぬのです。

それに至って初めて靈性EXA PIECOが目を覺まし、高時空元の存在から届けられる豊かさ

力と導きと叡智と神意あを受け入れる用意が整うのです。過酷な體驗たいけんの目的は慈悲の心を芽生えさせることにあるのです。なぜかと言えば、慈悲の心なくしては靈覺者も治療家も本当の意味で人を救う仕事はできないからです。

苦しみ、悲しみが、本來の生きる意味、目的に繋がっていることを悟る、これも靈的眞理を學ぶ意味です。そして、高級靈界通信で、高級靈達は共通して「地球人類として生まれた以上、苦しみから完全に逃れることはできない」と述べており、かんなんしんく艱難辛苦との遭遇は地上人として生まれた宿命であり、それから逃れることは決してできないことを斷言しています。つまり地球人類は「苦しみや困難のない人生を安易に期待してはならない」という本質を素直に謙虚に100%受け入れなくてはなり

ません。地球で苦しみのないことを願って人生を歩もうとするなら、必ず何処かのタイミングで大きな絶望を味わうことになります。地上人として物質世界で生きる以上、これからもさまざまな苦しみ、悲しみに遭遇することは覚悟しておかなければなりません。苦しみや困難から闇雲に逃れようとすることは、眞理から外れることを意味します。

地上人生における苦しみの意味を知ることが、靈的眞理を正しく理解することであり、同時に「自然法則」について知ることです。生きるとは自然法則、神について

を學ぶということです。しかし、地球人類の顯在意識のEGHO意識の根本的害惡は、

D I K A G H H

「短氣」、「せっかち」、「早く」、「大きく」、「沢山」、「樂に」、「便利に」という、本來

の眞理とは眞逆の方向にあらゆる分野がなってしまうことです。眞理とは「忍耐」であり、EGHO^{エゴ}意識とは「短氣と性急^{せっかち}」です。また我慢とは短氣と性急^{せっかち}であり、忍耐と眞逆の振動波です。シルバーバーチは眞理の本質をこのように述べています。

もしもわたしの説く眞理を聞くことによつて樂な人生を送れるようになったとしたら、それはわたしが神から授かった使命に背いたことになります。わたし共は人生の悩みや苦しみを避けて通る方法をお教えしているではありません。それに敢然と立ち向かい、それを克服し、そしていつそう力強い人間となつてくださることがわたし共の眞の目的なのです。

『シルバーバーチの靈訓（1）』（潮文社）

p.52

現代地球文化、宗教、精神世界、スピリチュアル系、自己啓發系は、「如何に苦しみ、痛みから逃れ、樂して喜び、ワクワクで生きるのか」を説いているのに対し、高級靈の説く靈的眞理の本質は、「苦しみの甘受」です。苦しみの甘受とは、甘んじて苦しみを受け入れるという意味です。更には、靈的眞理を知った者に対しての態度についてもシルバーバーチはこのように言及しております。

靈的知識をたずさえた者に樂な仕事はありません。知識が増えれば増えるほど、ますます困難に遭遇するものと覺悟してください。こんなことを言うからわたしは人氣が出ないのでしょね。

『シルバーバーチの靈訓（10）』（潮文社）

p.169

また、²⁰²¹年3月の春至の靈界連合の大集會まで知らされていなかった高級靈達は、²⁰²¹年4月のイエスの地上再臨に驚愕をしておりますが、イエスがもし地上に再臨した場合について、シルバーバーチは当時、イエスの人物像についてこのように述べています。

もう、イエスのような人物が出現する必要はありません。たとえあのナザレのイエスが今この地上に戻って來たとしても、多分地上で最も評判の悪い人間となるでしょう。とくにイエスを信奉し師と崇めるキリスト教徒から一番嫌われることでしょう。

『シルバーバーチの靈訓（3）』（潮文社）

p.108

イエスがいたとしても、地上で最も評判の悪い人間になるとシルバーバーチは当時語っておりら衝撃的な内容に感じるかもしれませんが、眞理を實踐する、眞理の普及をするということは、「世間一般から確實に嫌われる」ことを意味しています。そうでなければ、2000年以上前、イエスが磔にされ処刑されることはありえませんでした。イエスの処刑は地球人類の靈的無知がなせる愚行でした。また、シルバーバーチは、——「地上では先覺者はあまり歓迎されないのです。大てい非難を浴びております」『スピリチュアリズムによる靈性進化の道しるべ』p.174——とも述べており、靈的眞理は地球人類の大半には受け入れ難い内容であることを意味しております。

それは何故か？それは、「靈的眞理の内容じたいはシンプルだが、あまりにも日常

生活で實踐するには厳しい内容」だからです。それは、「本質優位の努力」、「無償の奉仕と自己犠牲」、「苦しみへの正しい対処」、「自然法則に適った生活習慣を身につけること」が現代地球のECHO^{エゴ}文化ではよほど意識的努力をしない限り不可能だからです。そして、大半の地球人は、楽な方法、早く苦しみから逃れる方法を知りたいという考え方から逃れられなく、靈的眞理が要求する厳しさに嫌氣が指してしまうのです。

しかし、あくまでも眞理は完璧であり、自然法則は「原因と結果の法則」で成り立っており、善行と悪行はすべて宇宙に記録されています。現實世界が原因の世界なら、死後は結果の世界であり、きちんとすべて査定された結果を突きつけられ、その

結果から逃れることは不可能です。しかし、現代地球人類は、「目に見える結果」しか見ていません。そして「目に見えない原因」を追窮しておりません。だから、神の法則である原因と結果の法則の完璧さに気づけなく、その無知さが利己主義、物質中心主義となり、死後に幽界で地縛霊になるという悪循環を數千年繰り返してきました。

なので、ECHO^{エコー}的生き方、自我と欲望を増大させ、自分さえよければ、人間さえよければという淺はかな生き方は必ず損になり、生きてる間でも死後でも必ず後悔し、自分自身を苦しめるといふ本質をいち早く知り、奉仕と利他の生き方にシフトすることが最も賢明な生き方になります。

そもそも、「人間とは何か?」、「生きる意味とは何か?」、「自分自身とは何者か?」の追窮を現代地球文化ではしておりません。内容が先程と重複しますが、本質の追窮をしなければならないテーマについて再度同じことを述べます。

① 大靈、大靈の法則 (FUGEHUKON^{フゲーウコン} FUGEHEKIN^{フゲーエキン}) の本質

② 死と死後の世界 (地球圈靈界、宇宙圈靈界) についての本質

③ 人間自身 (本質的な意識と意志、潜在意識、顯在意識) についての本質

④ 地上人生 (何のために生まれ、何のために生きるのか) についての本質

この中で、次章は「人間自身」についてを詳しく語りたいと思います。そもそも

人間についての本質を、現代地球文化では明らかにしていません。

靈とは何か、魂とは何か、精神とは何か、しんたい身體とは何か、本質的な意識と意志とは何か、潜在意識とは何か、顕在意識とは何か、殆どが現代地球文化では明らかにされてなく、シルバーバーチの靈訓を通した靈的眞理によってようやく全貌が明らかにされた背景があります。この本質を知らない地球人類が、生き方を間違うのは止むを得ないとも言えます。

79

靈的眞理は、それら全てを明らかにしております。スピリチュアリズムでは、マクロコスモス ミクロコスモス しやうわうわたし達人間が大宇宙と小宇宙と照應関係にあることを教えてくれています。

第二章 人間について

靈止と人間の違い

現代地球文化では、人と人間が同じような意味で使われてしまっていますが、正確には「人」は「靈止」と書きます。人間は靈止への進化の前段階であり、まったく意味が異なります。この違いを、現代地球人の大半は理解しておりませんが、水星の知的生命體「MANAKA」の宇宙觀では、靈止と人間の違いを分かりやすく、明確に述べられています。

靈止とは何ですか？	……	宇宙エネルギーそのものである
人間とは何ですか？	……	宇宙エネルギーの入れ籠である
身體とは何ですか？	……	天體の神殿である

そして、シルバーバーチの靈訓では、「生命いのちとは靈であり、靈とは生命いのちである」と

述べられています。これを波動の法則の情報から翻訳すると、「EXA PIECOとは靈で

あり、生命いのちの根源であり、EXA PIECOがボディに宿ることを生命體とする」と翻訳す

ることが可能です。現代地球文化では、「肉體にくたい」を「生命いのち」と定義していますが、厳

密には「生命體せいめいたい」です。生命いのちと生命體せいめいたいの區別が現代地球文化では出来ていません。

本質的には、靈、魂、スピリット、ソウル、EXA PIECOが生命いのちなので、それがボディに宿らない限り、すべての物質、物體ぶつたいは形を維持できません。

そして、靈と靈體れいたいは全く別物です。「靈」は最も高次で本質的な部分であり、波動

の法則ではそれを「原子核の集合體しゅうごうたい」と定義しています。EXA PIECOは無形で外形

をとともなっていないため、靈的視力の優れた靈能者であつても直接認識することはできません。それに対し「れいたい靈體」は、靈視能力さえあれば誰でも見ることができます。
エクサピーコEXA PECOは無形で外形はありませんが、れいたい靈體は外形がある（※すなわち有形である）という違いを、はつきりと理解しておく必要があります。

たいれい
大靈と靈の區別

そもそも人間は、しゅうごうたい靈魂（※原子核の集合體）を中心に、れいたい靈體、ゆうたい幽體、にくたい肉體で構成されています。にくたい人間とは肉體が必要な段階、ひと靈止とはれいたい靈體で生きていける段階、この違いがあります。では、その靈とは、たいれい「大靈」と「靈」で區別する必要があります。
 宇宙語で正確に翻訳するならば、フゲーウコン「FUGEHUKON」とフネコン「FUNEKON」と翻訳し、れいたい靈體を

「EXA PLECO」と翻訳するのが、より正確な表現になります。

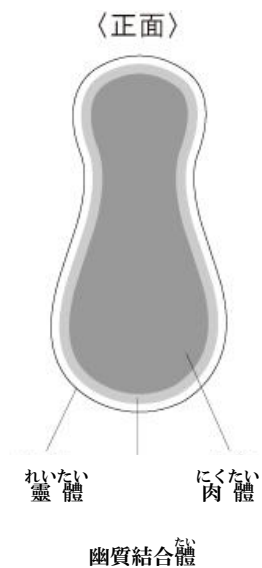
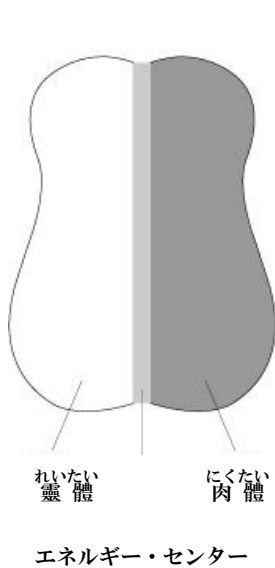
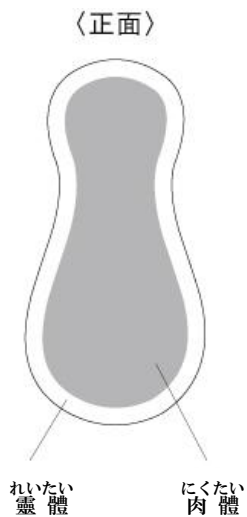
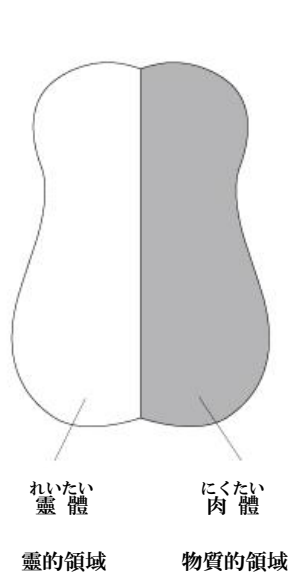
これを正しく表現するならば、FUGEHUKON（大靈）は、現代地球文化流に表現するならば、微生物が核になり、**光、空気、土、水という生命素を生み出します。**これが西洋の四元素の思想になり、遺傳暗号（DNA/RNA）の塩基配列にも繋がってきます。光が「火」、空氣が「風」、「土」、「水」によって、自然界の春夏秋冬が形成されます。この自然法則を、神の法則と定義することが可能です。そして、こうした生命素が元でFUNEKON（靈）は、**鉱物、植物、どうぶつ、人間の意識體を形成します。**EXA PLECO（靈體）は、物質、物體に宿る前の段階、このように區別をしていきます。大靈は神、靈は靈止、スピリチュアリズム思想では靈止を「神の分靈」と定義してありますが、きちんとこのように區別する必要があります。

チャクラは靈體と肉體を繋ぐ接合点

人間は、大まかに説明すると、靈、靈體、幽體、肉體で構成されています。しかし、現代地球文化ではEXA PIECO、靈、魂、スピリット、ソウルを、現代地球文化の中心にある科學、醫學が靈魂を基本的に否定しており、肉體のみが全てだと思い込んだ人が大半の世界です。

人間の造りとは、肉體は地球と殆ど構成が一緒です。幽體が成層圏と殆ど構成が一緒です。靈體は宇宙空間と殆ど構成が一緒です（※98%以上一緒というのは科學的にも判明している）。わたし達地球人は、地球と宇宙、どちらとも分離し、切り離されてしまっていますが、本來は繋がった存在なのです。

廣瀬仁が語る靈的眞理



人間は、靈體（宇宙）と肉體（地球）という「ふたつの身體の重複構造」から成り立っている存在です。宇宙と地球が同時に存在しているのと原理は同じです。そして、靈體と肉體との間には、ふたつの異質の身體を結びつける接着剤のような部分があります。この部分を「チャクラ（エネルギー・センター）」、日本語で「幽體」と呼びます。チャクラは「半物質・半幽質」によって形成され、その材質の特殊性によってふたつの異質の身體を結びつけ、兩者の間のエネルギーの交換を可能にしています。

基本的に、左足が肉體、右足が靈體、右手が肉體、左手が靈體、左脳が肉體、右脳が靈體という風に、DNAの螺旋運動のように動いています。ねじれてメビウス回轉で流動しているのを、チャクラ（エネルギー・センター）が繋いでいます。これを現

代醫學風いやくに表現すると、脊髄が靈體れいたいと肉體にくたいを繋ぐ接合点になり、8つのチャクラがそれぞれ靈體れいたいと肉體にくたいを交互に繋ぐ役割をしており、**靈體、幽體、肉體を繋ぐメインの機能は「髓液」、「ミネラル」、「自律神経」、「ホルモン」が靈體と肉體を繋ぐ役割をしています。**

8つのエネルギー・フィールドの分類

神智學や波動の法則などでは、人間は8つのエネルギー層により成り立っていると述べています。その情報は間違いではありませんが、少々内容が難解になり分かりづらくなってしまうっており、殆どの人が8つのエネルギー層について覚えられない状態になっています。8つのエネルギー層は、**靈體、幽體、肉體に分類できます。**

そして、その3つのエネルギー層を総称して「**身體**」しんたいということを感じたならば、人間の**身體構造**しんたいの要点は押さえられます。

肉體……にくたい (AHANP 體)

幽體……ゆうたい (EHTEL 體、ASTAL 體、MENTAR 體)

靈體……れいたい (COSAL 體、KECI 體、CHOAD 體)

身體……しんたい (HCIN 體)

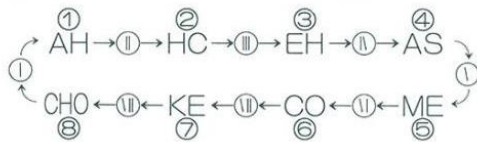
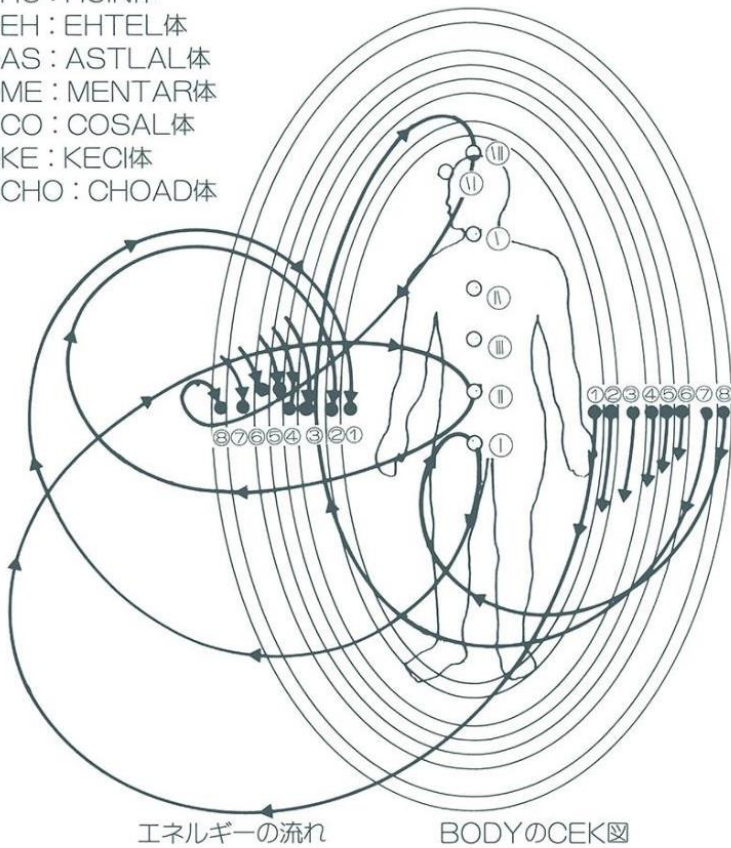
肉體を地球、**幽體**を成層圈、**靈體**を宇宙空間、それらを総称して**身體**、**靈止**は宇宙

エネルギーそのものであり、**身體**は天體の神殿、それらは大まかに8つのエネルギー

層で成り立つ、これが人間という存在の本質になります。

廣瀬仁が語る靈的眞理

- ①AH : AHANP体
- ②HC : HCIN体
- ③EH : EHTEL体
- ④AS : ASTLAL体
- ⑤ME : MENTAR体
- ⑥CO : COSAL体
- ⑦KE : KECI体
- ⑧CHO : CHOAD体



靈、精神、身體しんたいを繋ぐシルバーコード

これらの情報を波動の法則の情報に基づいて、EXA PICO（本質の意識と意志）エクサ ピーコ

フィック

ディカグ

FIK（潜在意識）DIKAG（顕在意識）と分類するのが一番シンプルになります。その

3つは日本語で「靈、精神、身體しんたい」と表現することが可能です。健康とは、靈、精

神、身體しんたいの正しいリズムとバランスが取れている状態のことです。逆に病氣とは、

靈、精神、身體しんたいの連繋が上手くいっていない状態、それにより生命エネルギーの流れ

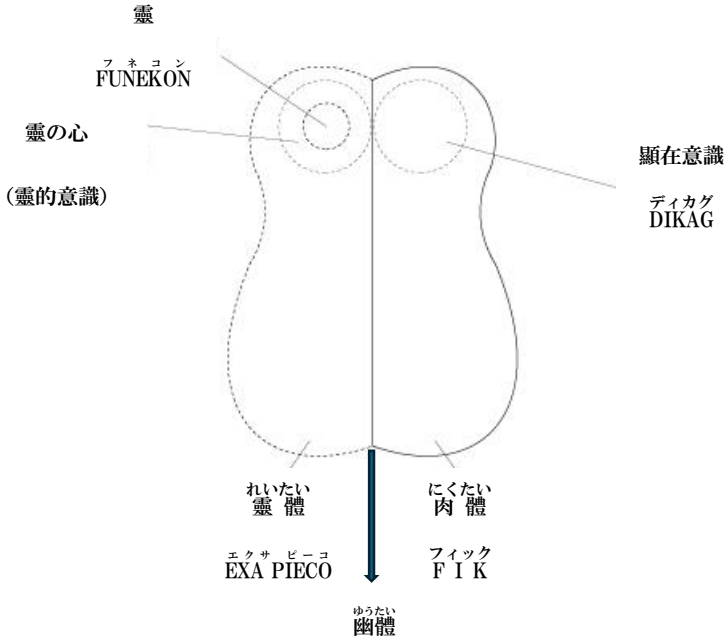
が阻害されている時に病氣、不快、異常などの症状が出ます。

では、これらを紐付けているものは何なのか質問されたならば、英語で「シルバーコード」、日本語で「玉の緒」と答えます。このシルバーコードは、仙骨、臍臓、心

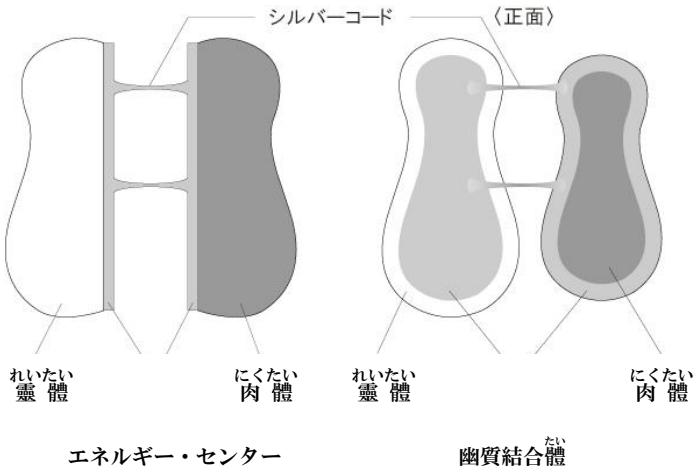
臓、松果體しょうかたいの4本のメインコードの他、無数のクモの巣のような細いコードが存在します。

肉體にくたいの死とは、このシルバーコードが切斷されることを意味しており、一番メイ
ンのコードは仙骨になります。しかし、どこの部位のシルバーコードも生命維持に
は必須であり、脳血管疾患、心疾患などは、シルバーコードが切れる寸前の状態でも
あり、非常に危険な状態であると言えます。

シルバーコードは、脊椎のチャクラ（エネルギー・センター）に沿った形で存在し
ています。4本のコードの中で、潜在意識潜在意識に繋がっているのが臍臓D I K A G、顕在意識に繋
がっているのが松果體しょうかたいであり、その2本が靈、精神、身體しんたいを繋いでいるコードです。



チャクラ (エネルギー・センター)



そして、靈、靈の心と呼ばれる部分のシルバーコードが「仙骨」と「心臓腦」という器官になります。心臓腦は「直觀察」、仙骨は「直感覺」という直觀、直感に直結しているコードであり、この両者が融合調和することで、靈的能力の最高峰である「靈的洞察力」が身につくようになります。

靈的洞察力とは、直觀で眞偽を見極めてしまう能力であり、理屈や証拠を超えて眞相を洞察してしまい、眞實が瞬時に分かってしまいます。

仙骨と心臓腦のシルバーコードは、EXA PICOからのメッセージおよび守護靈さんなどのメッセージに関係しています。チャクラの位置でいうと、第1チャクラと第8チャクラの位置です。

本質の最重要と、現實の最重要

EXA PIECO SINQA
人生の最重要とは「靈性の進化」、そのひと言に尽きます。そのための實踐項目と

サービス

は「無償の奉仕」と「自分自身の利益を後回し」にすること、すなわち何かしらの形で人の役に立つことです。しかし、現實面での最重要項目は「健康」と「生活必需品」の確保です。すなわち最低限の住居、食事、衣類の確保であり、そのためにはお金がどうしても必要になります。

95

EXA PIECO FIK

本質と現實の狭間で感情は常に揺れ動き、葛藤するのが肉體にくたいを持っている地球人

DIKAG

の宿命です。どちらを選択するのは全て顯在意識に一任されています。これが「自

DIKAG

由意志の法則」と呼ばれるものですが、何でもかんでも顯在意識で好き勝手に生き

れる訳ではありません。

この相反する2つの中で、常に顯在意識で本質を優先させるのか、現實を優先させるのか、必ずどちらかを選択し、行動していくことになります。顯在意識の主な役

割とは、ボディの管理、維持、運営であり、基本的には現實を優先させるようにプログラムされています。

直観、直感の原理

直観とは「本質と顯在意識」が同調した瞬間、直観という形でメッセージを受け取り、直感とは「本質と潜在意識」が同調した瞬間、直感という形でメッセージを

受け取ります。氣づきとは、「本質、潜在意識、顯在意識」が同調した瞬間、理解とは「顯在意識」のみ、このような原理になります。

直観 …… 本質と顯在意識が同調した瞬間

直感 …… 本質と潜在意識が同調した瞬間

氣づき …… 本質、潜在意識、顯在意識が同調した瞬間

理解 …… 顯在意識のみ。觀察、感覺も基本的に顯在意識がメイン

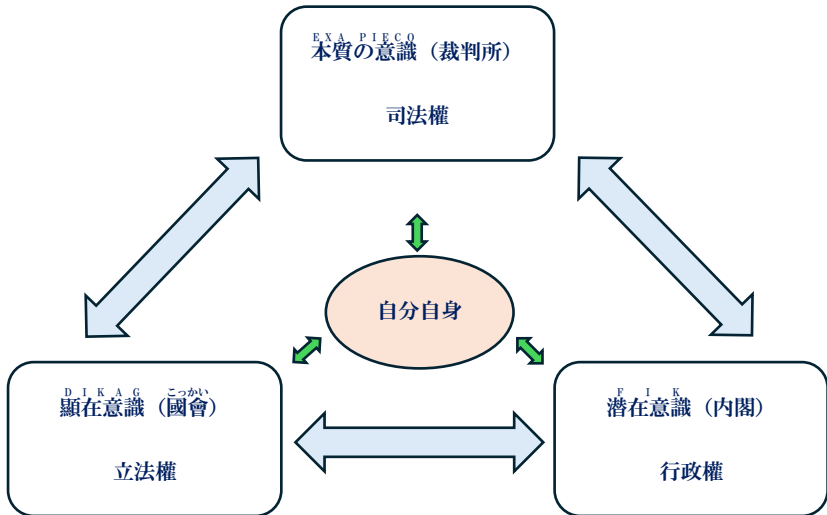
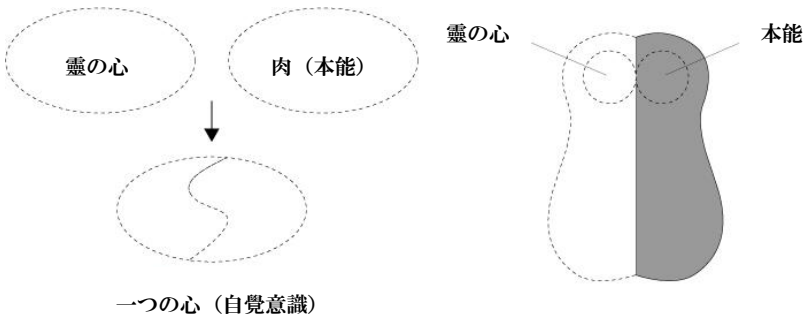
洞察 …… 本質、潜在意識、顯在意識を一致させた物事の答え

顯在意識の觀察力が進化したのが直観、感覺力が進化したのが直感、どちらも本質に繋がった場合の力です。本質に繋がる条件とは、足立育朗流に表現するな

らば「ゆったり、おおらか、リラックス」であり、シルバーバーチ流に表現するならば「平靜、靜寂、平隱」というのが条件です。現代地球文化では、緊張、ストレス、肩に力を入れる、齒を食いしぼる、直觀、直感を受け取る条件とは眞逆の方向の文化であり、意圖的に瞑想、禱り^{いの}などを通して自分自身の本質と繋がる時間を持つように工夫しなければ、本質^{EXA PIECO}の^{メッセージ}声を聞くことは限りなく不可能に近いでしょう。

EXA PIECO 本質、魂について

人間は、^{フゲーウコン} FUGEUKON (大靈^{たいれい}) が ^{フネコン} FUNEKON (靈) を創造しています。そして、その生命素が元になり、^{EXA PIECO} 地球人は本質 (魂)、潜在意識 (精神)、^{ローメンの} 顕在意識 (身體) の三權分立により成り立ちます。3 つは連繋はしているけど、独立しています。



「三権分立」は、このような形で連動しております。「霊の心」とは裁判所、要するに本質の良心を表し、「本能」とは顕在意識で決めた人生方針を表します。それに対して、潜在意識が様々な処理を行っていくという訳です。

EXA PIECO

フイック

本質（魂）は、生まれる前に EIK（潜在意識）に大まかな人生のストーリーをプ

SEPOUW

DEVIK

EXA PIECO

ログラムし、生まれた後は、守護靈さんにサポートを一任し、自分自身の本質は、

フイック

ディカグ

EIK（潜在意識）と DIKAG（顕在意識）に人生を委ねています。なので、基本的に自

EXA PIECO

DIKAG

分自身の本質は、顕在意識で決めたことを全て受け入れます。

EXA PIECO

なので、地上に肉體^{にへたたい}を持つて生まれる際、地上で何をする必要があるのか本質は

きちんと自覺しています。試しに生まれてくる人は誰一人いません。何も知らずに

地上に誕生してくる人は誰一人いません。

EXA PIECO

必ず両親の本質、自分自身の本質の了

EXA PIECO

SINQA

承のもとに地上に生まれます。自分にとって必要な本質の向上進化を促進するには

EXA PIECO

こういう環境でこういう身體^{しんたい}に宿るのが最も効果的であると判断して、本質自らが

選びます。その法則に例外はありません。

EXA PIECO
本質は人生の裁判官

EXA PIECOが肉體エクサピーコ にくたいに宿ってしまうと、その肉體にくたいの鈍重さのために、誕生前の自覺F I Kが潜在意識の奥に潜んだまま、顯在意識D I K A Gに上がってきませんが、生まれてくる前に人生の大まかなストーリーの枠組みは出来ています。しかしその枠組みの中で、本質EXA PIECOが計画した予定表（ブループリント）に従いながらどれだけ潜在的な神性を發揮するかは、顯在意識D I K A Gでの決心、實行を通して、日々の努力次第です。

地上生活の最初の目標は、居眠りをしている本質と顯在意識D I K A Gが繋がった状態EXA PIECOで生きることです。現代地球人類は、顯在意識D I K A Gのみで生きており、殆どの方が本質と繋EXA PIECOがっていません。なので、EXA PIECO的には毎日を夢の中で過エクサピーコしているいわば生

ける夢遊病者と表現するのが的確です。地球人類は本当に目覚めてはいません。

EXA PIECO D I K A G
本質と顯在意識が繋がっていないければ、死んだ人間も同然です。

直観というのは、EXA PIECO D I K A G
本質と顯在意識が繋がった瞬間、言い換えれば魂からのメッセ

ージです。しかし、殆どの場合は一瞬の出来事、瞬間的な閃きなので顯在意識では魂

のメッセージと自覺出来ません。しかし、直観に従って、決心、行動、實體験から氣

づきと學びを繰り返す、これが靈性の進化にとつて最も大切なことです。

何故ならば、EXA PIECO D I K A G
顯在意識だけで考えて行動したものは、EXA PIECO SIN Q A
本質の進化には一切繋がら

ないからです。なので、EXA PIECO D I K A G
顯在意識で理解してから行動するという過程で行動するこ

とは、EXA PIECO
靈性を向上させることはありません。

EXA PIECO
あくまでも本質のメッセージに従って行動しない限り EXA PIECO は進化は出来

ません。いずれの場合においても、本質から送られてくる直観による最初の指示が

EXA PIECO
自分自身の本質にとってもっとも正しい判断です。

D I K A G
問題はその直観を受けとった後で、顕在意識でその直観に不満を覚え、ほかにも

つとラクで都合のいい方法はないものかと、屁理屈と正当化と弁解を始めることで

EXA PIECO
す。しかし本質によってすでに最初の正しい指示が出されています。いかに弁明し、

EXA PIECO
いかに知らぬふりをしていても、本質の声がすでに最も正しい道を指示しています。

EXA PIECO
靈魂の力とは、人間によって認識されている如何なる測程器にもかからないもの

物差し
です。長さもなく、幅もなく、高さもなく、重さも色も容積も味も匂いありません。

ですから、常識的な地上の測定器でいけば靈力というものは存在しないことになり

EXA PIECO

ます。つまり本質とは人間のお粗末な五つの感覚で捉えられるものと決めてかかっている地球の科學者にとっては、靈力は存在しないという考え方になります。

あい

しかし神意は目に見えず耳にも聞こえず、色もなく味もなく寸法もないのに、立派に實感があります。それは深い神意の感動を體驗した者が証言してくれます。神意

たいけん

PIGHIKON

の力は強烈です。しかし大靈の力はそれよりも無限大に強烈です。人間が生き、呼吸し、考え、反省し、判斷し、決斷を下し、あれこれと思いめぐらすのも本質の力

EXA PIECO

があればこそです。物を見、音を聞き、動き回り、考え、言葉を話すのも本質の力

EXA PIECO

にくたい

があればこそです。物質界、スピリット界のすべて、そして我々の肉體も、生命力にあふれた靈力の流入によって存在と目的と指針と生活を与えられています。物質界で幾ら測定器によって研究を重ねても大靈の祕密は見つかりません。

たいれい

潜在意識の役割

基本的に地球人は、人間は生まれる前に本質が計画した予定表（ブループリント）
 を潜在意識にプログラムしたら、肉體を持って五感を使って、潜在意識（カラダ）と
 顕在意識（頭）にどのように生きるのかの選択を一任しております。

- ・頭（顯在意識）とカラダ（潜在意識）
- ・言動（顯在意識）と行動（潜在意識）
- ・精神（潜在意識）と身體（顯在意識）

このように翻訳、分類できますが、現代地球文化では、顯在意識と潜在意識の役割

を残念ながら分かっておりません。かなり顯在意識の機能、役割も、潜在意識の機能、役割も誤解をしています。

まず、潜在意識（F I K）の役割も心理學用語でいう「潜在意識」とは大幅に異なるため、宇宙語で（F I K）（潜在意識）と呼ぶのが正確な表現になります。精神（F I K）（潜在意識）には様々な役割があります。日常生活において必要な機能の多くは自動的であり機械的です。筋肉、神経、細胞、繊維等々がいったん顯在意識（D I K A G）で意識的指令を受け、さらに各組織、各器官が連繫的に働くことを覚えたら、その後の繰り返し作業は潜在意識（F I K）に委託されます。

たとえば、物を食べるとき、殆どの方は無意識の内に口を開けています。それは、

アゴが動く前にそれに關連した神經やエネルギーの相互作用があつたことを意味します。すなわち精神の媒體ばいたいである大腦D I K A G（顯在意識）から神經的刺激が送られ、それから口を開け、物を入れ、そして嚙むという一連の操作が行われます。すべてが自動的に行われます。一口ごとにその操作を顯在意識D I K A Gで意識的に行っているわけではありません。

潜在意識F I Kが一連の動きを記憶し、無意識のうちにやっております。そうしたカラダの働きの大半を潜在意識F I Kがやってくれているのです。

赤ん坊の時はその一つひとつを意識的にやりながら記憶していく必要がありますが、大人になるにつれていちいち考えないで純粹に潜在意識F I Kが機械的に行つてく

れています。人間の日常生活の大部分は潜在意識F^I Kによつて生命活動を營いとなんでおります。生きるための操作の大半をコントロールしています。その意味で潜在意識F^I Kは人間の肉體にくたいの生命活動という意味ではもつとも大切な部分ということが出来ます。そもそも潜在意識F^I Kには様々な役割がありますが、その役割を大まかに分類すると3つの役割に分けられます。

潜在意識F^I Kの役割【1】

日常の生命活動、身體活動しんたいのコントロール

潜在意識F^I Kの役割【2】

過去の地上人生の習慣、言動、行動を記憶し管理する

潜在意識F^I Kの役割【3】

潜在意識F^I Kの機能を使って靈媒現象を引き起こす

潜在意識F^I Kの大きな役割は、生命活動、身體活動しんたいのコントロールというのは一般的

には殆ど認識されておりません。また、今世の過去の情報、記憶を制御しています。そして、靈媒現象に必ず潜在意識F I Kが使われるというのも殆ど知られておりません。これについてシルバーバーチの述べていることをピックアップしてみましょう。

靈界の通信者の傳つたえたいことが百パーセント傳つたわることは滅多にありません。あることはあるのですが、よほどの例外に属します。(中略) 靈媒に乗り移った靈は意識に浮かんだ映像、思想、アイデアを音声に變かえなくてはなりません。靈媒も人間です。(中略) 支配靈は靈媒の潜在意識を占領し、そうすることによって潜在意識につながった肉體機能にくたいを支配します。

『シルバーバーチの靈訓(1)』(潮文社)

p.88

その潜在意識^{F I K}をコントロールしている中心は「臍臓」です。臍臓の機能は現代地球文化ではあまり解明されておりませんが、臍臓は「五臓六腑」には含まれておりません。何故ならば五臓六腑をコントロールする「多臓器」と呼ぶべき器官だからです。

いにしへの賢人が指摘している「第3の目」とか「太陽神經叢^{あい}」などを使用することもあります。そこが靈と精神^{あい}と肉體^{にくたい}の三者が合一する場なのです。これ以外にも患者の潜在意識を利用して健康なときと同じ生理反應^{はんのう}を起こさせることによって失われた機能を回復させる方法があります。（中略）そこから（ヒーラーのエネルギー^{しょうかたい}が）患者の松果體^{しょうかたい}ないしは太陽神經叢^{あい}を通じて體內^{たいない}に流れ込みます

『シルバーバーチの靈訓（6）』（潮文社）

p.39
～
p.40

腠臟は潜在意識のコントロールの中心点であり、「太陽神經叢」腠臟「マニプーラ
 ・チャクラ（第3チャクラ）」潜在意識「そのものを司ります。そこから経絡、經穴
 を通した潜在意識ワーク、陰陽五行論、五臟六腑を通した5つの感情のエネルギー
 の動きに繋がり、「五臟がエネルギーの新陳代謝（リンパ液）」、「六腑が物質の新陳代
 謝（血液）」が「回轉運動（チャクラを中心に靈體と肉體を繋ぐ役割）」をして、潜在意識
 が心臓、肝臓、腎臓など各臓器、各器官、各組織をつくと同時に、排泄物などの消
 化、化學物質や重金属など分解するものは分解して、エネルギーを吸収するものは
 吸収して、新しい細胞を新生させるなど、消化吸収、新陳代謝の殆どを潜在意識が行
 ってくれています。なので、シルバークの靈訓にある靈と精神と肉體の三者が
 合一する場という表現は正しいことになります。現代地球文化では「腸」が潜在意識
 を司ると誤解されていますが、正しくは腠臟、十二經絡が潜在意識の機能です。

F₁ K
潜在意識は五臟六腑、經絡を通して記憶を管理している

F₁ K
潜在意識は「脾臟（多臟器）」を中心に、五臟六腑（陰陽五行）、經絡を通した5つの感情のエネルギーの動きを分類して過去の情報、記憶を制御しています。東洋醫學^{いがく}の陰陽五行論は靈的觀點から視た時、正しい部分も多くあります。また、靈的眞理は臟器移植に反対の立場であり、ドナーの記憶が移植された方に移るのは靈的眞理を知っている場合、当然のことです。また、最大の臟器移植とは「輸血」であり、当然輸血に關しても臟器移植なので否定的立場です。

そもそも、臟器移植をしなくても病氣は治ります。また、輸血をしなくても「生理食塩水」を点滴するか、「海水」を点滴すれば人體は^{じんたい}「經絡、臟器」を通して「造血」

します。腸は五臟六腑の写し鏡であり、森下敬一先生が唱えた「腸管造血説」では「小腸」で造血すると唱えていましたが、後年「經絡造血説」に變^かわったことはあまり知られていません。臓器は細胞を新生させて造血をする、臓腑は血液を淨血し細胞をリセットさせる、こうした役割の違いがありますが、これも全て潜在意識^{F I K}が自動的、機械的に日夜働いてくれています。エネルギーの新陳代謝、物質の新陳代謝、これらの調和とバランスが崩れると病氣、不快、異常が始まります。

東洋醫學^{いがく}では、陰陽五行論をベースに、感情が原因で大半は病氣になるという思想があります。腎臓は「恐怖心」、肝臓は「怒り」、脾臓は「不安」、胃は「心配」、生殖器は「ショック」、心臓は「欲望」、肺は「悲しみ」を司るとされていますが、結論から言うところした感情の本質は「疑心暗鬼」の振動波であり、様々な病氣、不快、

異常の症状を陰陽五行、經絡を通して診斷していくと、その人の抱えている特定の現象、現實に対する思考パターン、感情パターン、行動パターンが症状として表れていることが分かります。このことから「病氣はメッセージ」という言葉が正しいことが分かります。そして胎内記憶、幼少期のトラウマなども全て潜在意識に記憶されていることも分かります。また、腎臓は本質、前世の記憶を有しており、仙骨、奇經八脈を通して記憶されており、腎臓と膀胱はペアの関係性になっています。なので腎臓、膀胱は共に「多臓器」と呼ぶことが可能です。腎臓も膀胱も潜在意識にとつて重要な働きをしておりますが、2つを分類するとこのようになります。

- ・腎臓、奇經八脈、本質の鏡、前世の情報を記憶している
- ・膀胱、十二經絡、現實の鏡、今世の情報を記憶している

潜在意識^{F I K}の役割は、奇經八脈は生まれる前に決めてきた人生の青写真^{ブループリント}、人生のプログラム^{しやかい}の記憶、十二經絡は受胎後の胎内記憶、幼少期のトラウマ、社會人となったストレスなど今世全般の記憶という形で分類されます。奇經八脈は靈體^{れいたい}寄りの働き、十二經絡は肉體^{にくたい}寄りの働き、經穴は奇經八脈と十二經絡を繋ぐための幽體^{ゆうたい}寄りの働き、このように分類することが可能です。

潜在意識^{F I K}の機能を使って靈媒現象を引き起こす

靈媒現象についての説明になりますが、まず誰しも靈媒現象というのは起こり得ます。なので特別な現象でもありませんし、誰しも守護靈^{SEPOLW}が憑いている時点で人間は誰しもが靈媒です。シルバーバーチはこのように述べています。

あなた方人間は受振局（※受信）と送振局（※送信）とを兼ねたような存在です。

純粹に自分自身の考えを生み出すことはきわめて稀です。地上のラジオやテレビにチャンネルとかバイブレーション（振動）——フリークエンシー（周波數）が適切でしょう——があるように、人間にもそれぞれのフリークエンシーがあつて、その波長に合つた思想、觀念、示唆、インスピレーション、指導等を受振（※受信）し、こんどはそれに自分の性格で着色して送振（※送信）しています。それをまた他の人が受信するわけです。（地上の人間どうしの場合もある——訳者）その波長を決定するのは各自の進化的程度です。靈的に高ければ高いほど、それだけ感應する思念も程度が高くなります。といふことは、發信する思念による影響も高度なものとなるわけです。

『シルバーバーチの靈訓（8）』（潮文社）

p.39

人間の身體しんたいは 1032 種類の元素、578 万種類の微生物FU GEHEKIN、24 億種類の周波數波動の組み合わせで成り立っており、潜在意識F I Kはそれら全てを管理、コントロールしています。生命體せいめいたいは本來存在するだけで芸術GEIWEZUでありアートA R Tです。人間の身體しんたいが如何に複雑かつ精妙に造られているのか現代科學かがくで解明することは不可能です。

人間は現代科學かがくで判明している限りでも、「原子核」、「原子」、「電子」、「分子」によつて万物が成り立っていることが判明しています。その中で靈媒現象に直接關係してくるのは原子の構成要素である「中性子」と「陽子」になります。

足立育朗さんが受け取った時空からの情報では、「中性子が受振局」であり、「陽子が送振局」というのが判明しており、シルバーバーチの靈訓の情報と整合性が取れ

ます。そもそも靈媒現象というのはそれまで身體機能しんたいを通して表現してきた自分とは別の知的存在が代わって操作する現象です。靈界通信の原理、「入神」、「憑依」といった靈媒現象は、別の知的存在が地上の靈媒の潜在意識F_IKをコントロールすることによって引き起こされます。通信靈が地上の靈媒の潜在意識F_IKをコントロールすると靈媒の潜在意識F_IKは、通信靈から送られてくる思想内容に当てはまる言葉を記憶の倉庫から見つけ出し言語化します。なので人間とは何か？と問われたならば「人間はEXA PLECO本質（靈）からの通信機器」とも表現できます。これは水星の知的生命體せいめいたいMANAKAの宇宙觀とも整合性が取れます。

靈止ひととは何ですか？

……

宇宙エネルギーそのものである

人間とは何ですか？

……

宇宙エネルギーの入れ籠かこである

^F_I^K 潜在意識は正しい習慣が最も大切

^F_I^K 潜在意識の役割は、日常の生命活動、身體活動しんたいのコントロール、過去の地上人生の習慣、言動、行動を記憶し管理し、^F_I^K 潜在意識の機能を使つて靈媒現象を引き起こすなど多岐に渡ることが分かり、現代地球文化の心理學で考える以上に複雑です。そして^F_I^K 潜在意識は当人の精神状態、健康を通して靈媒現象にも直接關係してきます。特に靈媒現象に直接關係してくることは殆どの方に知られていません。靈媒現象である人神と憑依の現象についてもひと言で説明します。

・入神	……	高級靈の通信
・憑依	……	低級靈の通信

SEPOUW

地球人は、必ず守護靈が憑いています。しかし、当人の精神状態、健康状態が反映され、低級靈、未熟靈、邪惡靈などの通信から護れないことも沢山あります。高級靈の通信になるのか、低級靈の通信になるのか、それは自分自身の「周波數」次第です。

潜在意識は自然法則に適った規則正しい習慣を最も好みます。規則正しいリズムが健康を保つ祕訣、高級靈との通信を可能にする祕訣です。逆を言うならば不規則な習慣を最も嫌い、その不規則なリズムが低級靈の關与を許すことに繋がります。

靈媒の健康は「食事」、「運動」、「睡眠」の質で大半が決まります。それが潜在意識に記憶され、靈媒現象に影響を与えます。肉食、タバコ、アルコールの飲み過ぎは潜在意識に惡影響を与え、憑依という現象を許す危険性が高くなります。自然法則に適った正しい習慣は潜在意識を正常に保つために最も大切なことなのです。

D I K A G
顯在意識による眞の決心の意味

現代地球文化は、^{D I K A G}顯在意識のみの文化と言われています。人間は基本的に
^{エクサピーコ}EXA PECO（本質の意識と意志）、^{フィック}FIK（潜在意識）、^{ディカグ}DIKAG（顯在意識）の3つの意
 識と意志によって成り立っています。そして肉體^{にくたい}を持って生きている限り一番重要
 な意識は「^{D I K A G}顯在意識」です。

^{D I K A G}顯在意識の役割の一つとは、「アクセル」と「ブレーキ」のどちらを選択するか決
 定する意識です。^{D I K A G}顯在意識の役割は、肉體^{にくたい}の維持、管理、運営が主な役割であり、
 生命體としての存続^{そんぞく}を第一優先にする意識になります。^{エクサピーコ}EXA PECOはアクセル、^{フィック}FIK
 はブレーキ、^{エクサピーコ}EXA PECOの仕事を優先するか、^{フィック}FIKが疲れており休息を優先するか
^{D I K A G}は顯在意識に一任されており、日々その選択の連続が人生です。^{れんぞく}

奉仕の仕事に嫌氣がさしてはなりません。奉仕は靈の通貨コインのようなものです。神が發行される万人共通の通貨です。あなた方の仕事にとって必要な力は用意されています。しかし一度に大きな仕事を成就しようとしてはいけません。今日は今日出来ることだけをして、明日やるべきことは今日は忘れることです。力に限界が來たら無理して出そうとするより補給することを考えなさい。その方が無理をしてその乏しいエネルギーを使い果たし、結局は仕事を全面的に休止しなければならなくなるよりはましです。限界があるのは實はエネルギーではありません。身體しんたいと言う機能の方です。いかなる機械も限界を超えた仕事を課せられると故障が生じます。人間の身體しんたいほど多くの仕事を課せられながら休息の少ない機械は他にありません。靈の宿る貴重な神殿あいです。良く管理し、保護し、大切にすべきです。

『シルバーバーチの靈訓（1）』（潮文社）

p.136

顯在意識D I K A Gの本來の役割は、本質EXA PIECOと顯在意識D I K A Gが同調した時に來る直觀メッセージを、現實の

しゃかい

社會で具現化するために試行錯誤して努力する思考能力です。本質EXA PIECOから受け取った

メッセージ

直觀EXA PIECOを決心、實行し、本質が決めてきたプログラムを實現させることを還現、創造

と言います。その際、地球人類共通の問題として、過去の情報F I K（潜在意識）から未來

EXA PIECO

を推理推測し、本質から來るメッセージを恐れ、不安、心配、取り越し苦勞から拒

否し、實現を妨げるといった思考パターン、行動パターンが常識となつてしまつて

いることです。

D I K A G

また、顯在意識の中樞は「大腦」であり、大腦は右腦、左腦と分離して捉えられて

ごったい

いますが、本來右腦と左腦は一體化してなければなりません。右腦は本質EXA PIECOからの情

EXA PIECO

報（靈的意識）の受振器としての役割に対し、左腦は本質EXA PIECOからの情報を現實の文化

で通用するように變換へんかんするのが役割になります。しかし、波動の法則での情報では現代地球文化で大腦が100%働いている方は一人もいません。地球人類80億の平均的な大腦の使用率は6.4%前後（2025年1月時点）です。

EXA PIECO
實は大腦の使用率は「本質優位の努力」と連動しており、「靈的視野」になればなるほど大腦は活性化していきます。EXA PIECO F I K D I K A G
EXA PIECO F I K D I K A G
本質の意識、潜在意識、顯在意識が連携すればするほど活性化していきます。

靈的視野とは靈的眞理に立った見方、考え方、判斷のことです。靈的視野を持つことによって、現實世界を顯在意識の視点からしか眺めることが出来ない意識レベルから抜け出せるようになります。J E F I S I F U M G I N O
宇宙圈靈界、地球圈靈界の存在から見ると地球人類80億人の殆どが正しい視野で地上人生を捉えていないと述べています。現在の地

地球上では80億人の人々が物質的視野からすべてを眺め、物質を中心とした意識の中で毎日を過ごし、死後に間違った視点で生きてきたことを後悔しています。イエスの教えであるシルバーバーチの靈訓では「地上人に靈的視野をもたらすことがスピリチュアリズムの目的の一つである」と述べられています。

大脳の使用率は現實でのコミュニケーション能力にも直結してきます。大脳が使えていない意味の一つに「コミュニケーション能力の欠如」が挙げられますが、地球人類80億人の大半がコミュニケーション能力を欠如しているのも問題です。人間關係を築く本質とは「信賴關係を築くこと」であり、靈的視野も含めて言うならば、時空から信賴される人間にならなくてはなりません。コミュニケーション能力の欠如は、物事の眞偽を見抜く能力の欠如でもあり、それがECHO^{エゴ}文化の特徴である「嘘つき

文化」という惑星地球文化の不名譽なレッテルに繋がっています。コミュニケーションは
本来「EXA PICO」や「EXA PICO」による振動波での交流、テレパシーで交流する
のが本質ですが、地球でのコミュニケーションは「顯在意識」と「顯在意識」による
言語でのコミュニケーションが現代地球文化でのコミュニケーションの中心であり、
それが顯在意識のみの文化と言われている理由であり、惑星地球の嘘つき文化の原
因になってしまっています。

しかし顯在意識は必ず、「地球人の現状を知ること」が絶対に必要です。顯在意識
はきちつとその地球の文化の中で、地球の文化がどのような状態であるかを十分に把
握する、全力で勉強して惑星地球文化がどんな状態であるかを把握しておく必要が
あります。これがまず基本です。靈的眞理ばかり追いかけていても、靈的眞理を普及

する際に現實に通用する力を持っていない限り、残念ながらサポ^{D E V I K}ートは失敗します。

EXA PIECO SINQA
しゃく
靈性が進化しただけでは、現實の社會では全く役割は出来ません。上手く役割が出来たとしても、よくて半分、50%ぐらいの成功が關の山です。

EXA PIECO SINQA
いくら無償の奉仕と自己犠牲を實行し靈性が進化していても、現實に通用する力がなければ意味がありません。顯在意識は惑星地球文化に暮らす地球人類のことを
D I K A G
知ることが必要であり、自分自身を知ること（潜在意識）^{F I K}、他人の役に立つこと
EXA PIECO
（本質）、これは全部連動していることです。これが本質の意識、潜在意識、顯在意識の連携を意味します。その連携をするためのスタートは、生まれる前に決めてきた

人生の青写真に従って生きるという顕在意識の「決心」と「行動」が必要です。
ブループリント D I K A G

要するに、「眞の決心」とは、「何のために生まれ、何のために生きるのか」、これ

が原点であり、靈的眞理は單純明快に「靈性の進化のため」と教えてくれており、
EXA PIECO S I N Q A

そして靈的眞理は、「本質が生まれる前に人生設計を決めている」と教えており、生
EXA PIECO D I K A G

まれた後は顯在意識は生まれる前に決めてきた人生設計を思い出すことも顯在意識
D I K A G

で自覺することも基本的にはないと教えてくれており、生まれた後のサポートは
D E V I K

背後靈に一任し、守護靈、指導靈という背後靈との二人三脚で、直観というメッセー
S E P O U W S E P O U W

ジを信賴し、試行錯誤し體驗しながら人生の教訓を學んでいき、靈性を進化させて
D I V I K たいけん EXA PIECO S I N Q A

いくというシンプルな原理を傳えてくれています。そのために必要なことが「靈的
つた

眞理の學習」と「禱り」の2つになるのです。
いの

「インチュウシヨン」と「インスピレーション」

ここまでで本質の意識（靈魂）^{EXA PIECO}、潜在意識（精神）^{F I K}、顯在意識（身體）^{D I K A G しんたい}について大事な話をしました。そして、本質の意識、潜在意識、顯在意識を連携させるために大切なことは「直 觀」と「直 感」^{インチュウシヨン インスピレーション}の2つになりますが、地球人類は2つの區別が出来ていません。どちらも本質は心靈能力の一種の位置付けです。^{サイキック}

インチュウシヨン EXA PIECO D I K A G
直 觀は靈魂と顯在意識が同調した瞬間、直 感は靈魂と潜在意識が同調した瞬間であり、直 觀は「觀察力」、直 感は「感覺力」が源泉にあります。^{インチュウシヨン インスピレーション}
如何に「觀察力」と「感覺力」を磨くのか、これが至高の靈的能力である「靈的洞察
力」を磨くことに繋がります。

インチュウシオン

D I K A G

インスピレーション

F I K

直観は顯在意識の觀察力の發展系、直感^{F I K}は潜在意識の感覺力の發展系で

D I K A G

あり、そもそも原理がまったく異なります。男性のほうが顯在意識有意なので觀察力を磨きやすく、女性^{F I K}のほうが潜在意識有意なので感覺力を磨きやすい傾向にあります。

觀察力と感覺力に「上下關係」はありません。お互いに刺激し合い磨き合うための「相對關係」であることは間違ひありません。

そもそも觀察力の本質とは「疑う心」です。疑問に思う心と表現したほうがいいかもしれません。なので懷疑、疑心とは意味が違います。眞實^{しんじつ}を知りたいがための批判的精神です。アラン・カルデックの『靈媒の書』では、眞實^{しんじつ}と誤りとを選び分けるに

は手にした通信の内容を時間をかけてじっくり検討することです。靈的眞理とはこれまでになかった新しい知識の世界であり、まったく新しい考究課題であり、その言わんとするところを眞剣に考究するには時間と努力を要します。あらゆる精神世界系、スピリチュアル系の情報、知識と比較検討し、吟味し、熟考し、ようやく靈的眞理の奥の奥の核心に至る、眞理というものはそれほどの代償を払って初めて手に出来るものなのです。

神は人間に“疑う心”を植えつけております。眞實性しんじつを確かめるための批判的精神です。正直な批判は少しも悪いものではありません。眞實しんじつを知りたいがために疑ってかかる人をわたし達は大いに歓迎します。

『シルバーチの靈訓（十一）』

p.87

地球人類の歴史最大の聖人であるイエスの通信である世界三大通信でも インチュエーション 直 観

と 直 感 の本質について述べられています。また、足立育朗の『波動の法則』、『波

動の法則 実践體驗報告』などでも たいけん 直 観 と 直 感 の本質についてを述べられ

ています。世界三大通信とは『シルバーバーチの靈訓』、ステイブ・モーゼスの

『靈訓・上』、『靈訓・下』、アラン・カルデックの『靈の書』、『靈媒の書』のことで

あり、全部イエス主導の通信という共通点があります。

インチュエーション 直 観 と 直 感 の本質の重要な結論を述べるなら、たいけん 大靈、自然法則を正しく
理解する能力とは「靈的直観」、「靈的感覺」の2つです。

インチュエーション 直 観 と 直 感 は本質的には「心靈能力」であり、サイキック 「靈體」れいたい (COSALコーザルたい 體、KECIケーシー)

體、たい コアードたいCHOAD體」に備わっている能力の一つです。この心サイキック靈能力を發揮するとき、
本当の意味での「宇宙、大靈、自然法則の正しい認識、正しい理解」がもたらされる
ようになります。

地球人類は「靈的直観」、「靈的感覺」という心サイキック靈能力を正しい方法で開發、發揮
することによって、靈的真理の正しい理解と實踐が可能になります。

その2つが正しく融合したものが「靈的洞察力」です。シルバーバーチは「地上世
界は、洞察力に富む一部の人を除けば、大きな悲しみの體驗たいけんをさせられる前に靈的
真理の必要性を知る人がほとんどいませんね」と語り「でも、その洞察力はどうすれ
ば得られるのでしょうか」と質問され、シルバーバーチは次のように答えています。

もとより容易なことではありません。たとえば、こうした靈言や自動書記などの手段によって通信靈が自分はいかにかくしかじかの靈であると述べた場合、それだけで直觀的にその通りか否かを得心できるようでなければいけません。あなたもそう努力なさって来られました。もちろん、わたしたちとしては物質界の人間が要求する証拠性の基準に合わせる必要があることは認めます。が、それにも限界がありますから、これまであなたがなさってきたように、与えられたものを眞剣な批判的態度で判斷し検討しなければいけません。偏見を混じえずに心の扉を開き、理不尽な懷疑的態度さえ取らなければ、わたしたちとの連絡はラクになります」

『スピリチュアリズムによる靈性進化の道しるべ』

p.42
〜
p.43

シルバーバーチは洞察力を得るには、直觀がなくてはならないと述べています。

では、正しい方法で「直観力」と「感覚力（※直感力）」を磨くにはどうしたらよいのか？と問われたならば、答えはこのようになります。

直観力を磨く方法

何事も疑問に思うこと。違和感を見過ごさないことです。別な表現をするならば注意力を身につけること。惑星地球文化は嘘つき文化ですから、心、言動、行動の矛盾、撞着に氣づくどつちやくことです。「疑うな、信じるな、確かめよ」を行動指針にし、何事も調べる習慣を身につけることです。特に「質問力」を磨くことが大切であり、質問力を身につければ大概の疑問を解消できます。また、高級靈に限って言えば、情報の矛盾は絶対ありません。低級靈の述べる情報は矛盾、違和感だらけです。

感覺力（※直感力）を磨く方法

感覺力を磨くには、まず心構えとして靈的向上を望む者の場合、いかなる犠牲を払っても靈的眞理、自然法則と調和して生きる覺悟ができていなければなりません。

自然法則に適った正しい習慣を身につけること、これは「子午流注（※體內時計）」

に沿ったリズムを身につけることが第一優先です。具體的には「睡眠の質」、「食事の

時間」、「散歩のリズム」を體內時計に沿った規則正しい習慣を身につけることです。

また、自然法則に反した食事全般を控えること（※特に肉食）、タバコをやめる、アルコールの飲み過ぎを控える、ギャンブルをやめる、こうした一つ一つで、「必ずしも生きるうえで必要のないものをやめること」が感覺力を研ぎ澄ますことに繋がります。これは必要最小限の生き方、欲望のコントロールが感覺力を磨くことそのも

のであることを意味しています。

直観力、感覺力を磨くことは靈性の進化に必要なことだというのが、これで理解

EXA PIECO SINQA

できたと思います。ここまでで人間についての本質、構造について一通りの基礎知識をお傳つたしましたが、現時点の情報の要点を整理整頓してみます。

【1】「大靈」と「靈」の區別

たいれい

【2】「靈」は、「靈止ひと（※宇宙エネルギーそのもの）」と「人間（※宇宙エネルギー

の入れ籠かご」で段階が異なる。人間は主に靈、靈體、幽體、肉體にくたいによって構成されて

れいたい

ゆうたい

にくたい

いる。靈體、幽體、肉體を総称して「身體しんたい（※天體の神殿）」と表現する

【3】靈體れいたいと肉體にくたいの「ふたつの身體しんたいの重複構造」を繋いでいるのが「幽體ゆうたい（※チャクラ）」である。これらはコードによってつながっており、シルバーコードが靈と身體しんたいを繋いでいる。肉體にくたいの死とはシルバーコードが切れた時である

【4】EXA PICO、潜在意識エンチューション、顯在意識EXA PICOの機能と役割について。「直觀インクサビュー」とは靈魂F I K D I K A Gと顯在意識インクサビューが同調した瞬間、「直感インクサビュー」とは靈魂EXA PICOと潜在意識F I Kが同調した瞬間

【5】直觀力と感覺力を磨かなければ、本來の魂の決めてきた生き方にシフトすることが非常に難しい。靈性EXA PICOを進化させていく原理とは、背後靈との二人三脚で、直觀SEPOUWというメッセージを信賴し、試行錯誤し體驗ダイヴィクしながら人生の教訓を學んでいくことが大切

人間ひとりひとりをサポートする背後霊について SEPLOW

ここで人間についての章の最後に、SEPLOW 背後霊の存在について詳しく触れてみましょう。

SEPLOW 背後霊は、「守護霊」と「指導霊」の総称です。宇宙語では「セボ一SEPLOW」と呼び、

「サボ一トSUPPORT」の語源はセボ一SEPLOWから来ています。守護霊と指導霊は厳密には役割が

異なりますが、一括りで背後霊と呼んでいます。SEPLOW

守護霊との関係は今世、生涯に渡るものであり、場合によっては死後も関係がつづくのに対し、指導霊は地上人の靈的狀況や仕事の進展狀況に應じて、別の靈に入れ替わったり役割を終えることがあります。指導霊は本人の靈的な進化、退化の狀況に左右され、入神、憑依の現象も、この部分が大きく影響しています。

人間を、友も援助者（背後靈團^{れいだん}）も付けずに地球という孤島に島流しにしたわけはありません。一人一人に必ず守護靈が付いており、父が我が子を見守るように、一瞬の休みもなく見守っています。言うことを聞いてくれれば喜び、無視されると残念がっております。

『靈の書』（スピリチュアリズム普及會^{ふきゅうかい}）

p.204
～
p.205

わたしはいつも思うのですが、地上の人々、中でも特に靈的知識を手にした方が背後靈の存在を實感を持って認識してくだされば、どんなにありがたいことでしょう。地上の神意^{あゐ}する者へ無益な害が及ばないようにかばい、守り、導いている靈の姿を一目ご覧になることができれば、と思うのです。

『シルバーバーチの靈訓（11）』（潮文社）

p.65

誰もが背後靈SEPULW（※守護靈、指導靈）の神意あと導きを得てこの地上人生を送っているのですが、その最大の援助者の存在に氣づく地球人はほとんどいません。肉體にくたいを持ち、靈的直觀、靈的感覺、靈的感性のすべてが鈍くなっている地上の人間は、最も身近で親しい守護靈、指導靈の存在を認知することが出来ません。

SEPULW
背後靈のサポートの働きかけや指導は「自然法則」に従った形で進められます。ま

たその導きは、地上人の顯在意識D I K A Gによる「自由意志」を尊重し、自主性を引き出すようにして進められます。SEPULW 背後靈は地上人に対して一方的に命令、強制をするような

サポートはしません。どこまでも自分自身の顯在意識D I K A Gの判断に基づいて決心、行動し、その結果として魂を成長させることができるように導きます。そのサポートの

方法が「直觀インチュウシオン」と「直感インスピレーション」による地球人へのメッセージなのです。

眞の感謝の対象について

感謝の宇宙語は「CAMSIA」^{カムシア}ですが、『波動の法則』では両親への感謝、家族への感

謝が重要であると述べられていますが、『スピリチュアリズムの思想體系』^{たいけい}では、地

球人類が最も感謝すべき相手は、本当は肉親以上に背後靈^{SEPOUW}（※守護靈、指導靈）でな

ければならないと述べています。（※厳密には一番感謝しなければならない対象とは

^{たいれい}
大靈、自然法則です）

しかしこれまで大半の地上人は、その最大の恩人、恩師の存在に気づくことさえ
ありません。そうした「靈的無知」という悲劇が、「自分中心主義（※利己主義、物
質中心主義）」に走らせて、この惑星地球を暗黒の惑星にしてきたのです。そもそも

現代地球文化の地球人類は「眞の感謝」の意味が分かっておりません。

眞の感謝とは「背後靈SEPOUWにより靈的眞理に導かれたことへの感謝」、「靈的眞理を知ったことによる大靈たいてい、自然法則に対する絶対的信頼」、「靈的眞理を知ることでの苦しみへの正しい対処」、「今後の人生を靈的眞理の實踐と普及のために自分自身の人生を捧げる決心」、これらが合わさって眞の感謝となります。

これらは背後靈SEPOUWのこれまでの献身的努力の結果であり、地球人類は背後靈SEPOUWの存在を蔑ろにし過ぎです。守護靈、指導靈は、想像を絶する困難な状況の中でひとりひとりの地球人を導いてくれています。特に守護靈は、神に次いで守護対象の人間を神意あいしているにも関わらず、身元、名前を明かすことは靈界の規則によって禁じられて

おり、孤独の中でひとりひとりの人間に神意あゐを与え續つづけ、靈性EXA PIECO SINQAの進化のためのサポートをしてれています。そこまで献身的にサポートし續つづけている背後靈SEPULWに対し地球人類がしていることは、守護靈、指導靈に対する裏切り行爲です。

靈界と地上人との關係において、献身的な導きをしてきた背後靈SEPULWが一番求めていることは、「地球人類がイエスに従い、イエスの教えであるシルバーバーチの靈訓をバイブルにし、靈的視野で人生を捉え、利他、無償の奉仕と自己犠牲の信仰實踐をして生き方になること」で、この惑星地球文化を蘇生し、少しでもよりよい惑星にしていき、自分自身の靈性EXA PIECO SINQAの進化という目的を果たすこと」を求めています。

これより深い神意あゐ、思いやり、慈しみの心を持った存在は、肉體にくたいを持って五感のみ

の感覺で生き、顯在意識D I K A G H Tの ECHO 意識（※利己主義、物質中心主義）を増大させ續つづけている地上人には殆どいません。そんな尊い存在にわたし達地球人類は裏切り行爲ばかりをしているので、本当に心の底から「お詫び」しかありません。そして、そんな未熟な地球人類を忍耐しながらサポートし續つづけていることに心の底から「感謝」です。それに対し、背後靈S E P O U Wに出来る最大の「お礼」は、靈的視野で生き、無償の奉仕と自己犠牲を實踐し、靈的眞理により苦しみへの正しい対処をし、自然法則に適った正しい生活習慣を身につけ、靈性EXA PIECO SINQAを進化させることが「眞のお礼」になります。

地上に肉體にくたいを持つて生まれる際、地上で何をする必要があるのか本質はきちんと自覺しており、必ず兩親の本質、自分自身の本質の了承のもとに地上に生まれます。自分にとって必要な本質の向上進化を促進するにはこういう環境でこういう

身體しんたいに宿るのが最も効果的であると判断して、本質EXA PIECO自らが選びます。その法則に例外はなく、そういう意味で『波動の法則』の情報にある両親への感謝、家族への感謝は必要であり、その情報じたいも間違っている訳ではありませんが、靈的眞理を知らない人間が家族への感謝を本当の意味で出来たケースはありません。

すべては「何のために生まれ、何のために生きるのか」が原点にあり、本質的なサポート役が「守護靈」、現実的なサポート役が「家族」という區別があります。そして、

EXA PIECO

本質も現実も「自分自身の本質の了承のもとに地上に生まれている」のであって、自分自身で両親を選んで生まれているので、どのような環境だろうが文句は言えません。しかし、生まれた後は、生まれる前に決めてきた人生設計圖を顯在意識で自覚できないため、地上人は何か苦しいこと、辛いこと、悲しいこと、面倒なことが

D I K A G

あるとすぐに愚痴をこぼしたり、嘆いたり、誰かの文句を言ったり、運命を呪うようなことをしてきました。そしてその度ごとに、守護靈を悲しませてきたのです。感謝すべき対象の正しい順番は「大靈、たいれい大靈の自然法則」、次に「背後靈」SEPOUW、その次が「両親」なのです。この順番を間違つて、眞の感謝をすることは事実上不可能です。

地球人類が眞つ先に感謝を捧げるべき対象は、両親、家族以上に「守護靈」ということです。しかし、何度も述べたように、SEPOUW背後靈のサポート、働きかけは、想像を絶する困難な状況の中、面倒で努力が_{ろうりよく}多く、その結果が地上人の裏切りという最悪の結果に終わり、虚しいものとなります。

その原因は、地球人類の靈的無知の一つに、「背後靈」SEPOUWについての事実、本質」を全

く知らないところにあります。そのため、せっかくの背後靈SEPOUWの無償の奉仕と自己犠牲といった献身的行爲も一方的なものに終わってしまうのです。もし地球人類が靈的眞理の普及を通して背後靈SEPOUW（※守護靈、指導靈）の實態を知り、その働きかけと導きを正しく受け止めることができるようになれば、苦難が多い地上人生を力強く生き抜くための活力となります。

地球人類が少しでも「靈的眞理の學習」、「禱いのり」を日常の習慣にし、背後靈SEPOUWのメッセージを受け取る努力をするなら、靈的狀況は格段に變化へんかするようになります。自分自身の顯在意識のEGHO意識を滅却し、背後靈SEPOUWのメッセーD I K A G H Hジに全面的に従う生き方を決心、實行したならば、必ず人生に置ける「導き」、「慰め」、「確信」が得られ、こうした大靈たいれいの神意あいの仕組みに感謝することになります。

自分自身がFALSEとして生きること

ファルフ

結論を述べると靈的眞理とは「FALSE」^{ファルフ}としての「在り方」を説いています。しか

し、現代地球人類は「やり方」ばかりを知りたがり、肝心の「靈止、人間としとの正しい在り方」に關心を向ける方が少ないのが現状です。

FALSEとは宇宙語ですが、FALSEとは「自然法則そのもの」を指す言語です。自然法則とは「調和、神意、^{あい}分かち合い、寛容、協調、慈悲、平和」のことであり、違う表現をするならば「全存在の蘇生化」をするのが調和、分かち合いの定義です。

たいれい
大靈は「FUGEHUKO」と翻訳し、^{フゲーウコン}自然法則は「FUGEHUKON」と翻訳するのが正し

い表現かもしれません。自然法則は、大靈たいれいの中核である「バクテリア」というシステムを中心に、「ひかり光」、「空氣」、「土」、「水」を「蘇生化」させようと働きます。この「蘇生化」の意味そのものが「ファルフFALSE」であり、全存在物は本来、「ファルフFALSE」（エネルギー蘇生化装置）なのですが、地球人類は装置化とは反対の文化を築いています。蘇生化の対義語は「死亡」「臨終」「終焉」「死滅」「再生不能」であり、現代地球文化は蘇生化とは眞逆エウのエウEGHO文化になっています。

そもそも「ファルフFALSE」の本質とは、「自然法則」の方向に適うように全存在物を蘇生化させることであり、全存在物は本来、自然法則の方向に適うようにプログラムされているので、全存在物は本来「ファルフFALSE」なのですが、現代地球文化は「自分さえよければ」、「人間さえよければ」という顯在意識D I K A G H YのEGHO意識により、大靈たいれいの本質、根本原理

である「調和」、「神意^{あい}」、「協調」、「分かち合い」に反した文化、地獄のような文化を形成しています。簡単に現代地球文化を表現するならば「不調和」、「自分自身、人間さえよければの利己主義」、「個人主義、能力主義、カリスマ主義」、「奪い合い」での文化であり、完全に自然法則に反した不調和極まりない文化です。

不調和な文化の代表例が「戦争」であり、奪い合いの文化の代表例が「貧困」と「飢餓」であり、間違った考え方になる代表例が「宗教的組織（※宗教、ネットワークビジネス、自己啓発、精神世界、スピリチュアル系）」であり、現代教育の弊害の代表例が「精神の墜落、退廃」であり、人間中心文化の代表例が「どうぶつ虐待、地球環境破壊」になります。これらは「靈的無知」による「利己主義、物質中心主義」という、現代地球文化の教育の中心に靈的眞理がないために起こる弊害であり、「靈的眞

理が正しく普及」した場合、地球上のあらゆる問題は解決の方向に向います。だからこそ、イエスの説く教えの正しい理解、正しい実践、正しい普及をすることが、地球人類を救うことにつながるのです。これはすなわち、自分自身が「パワースポット」になるための「在り方」を説いているのです。

【イエスの説く教えの要点】

EXA PHECO D I K A G

- ① 靈的視野（靈魂と顯在意識を一致させる努力）
- ② 無償の奉仕と自己犠牲の實踐（自分の利益を後回しにした利他の實踐）
- ③ 苦しみへの正しい対処（苦しみの甘受、眞の感謝）
- ④ 自然法則に適った習慣を身につける（早起き早寝、掃除、少食、玄米菜食など）

イエスの教えとは、「この惑星地球文化を蘇生し、少しでもよりよい惑星にしてい
き、自分自身の靈性EXA PIECO SINQAの進化という目的を果たすこと」、要するに「自分自身がファルフ『**FALSE**』
になるための実践指南書」です。ガイダンス

自分自身が「**FALSE**」になる、これが「人間」から「靈止」に靈性の進化をする定ファルフ

義の一つであり、「神の分靈」わけみたまとしての責任と義務なのです。イエスは靈的成長の定

義を「分靈が成長し、神聖化していくこと」と述べています。それは、**FALSE**としてファルフ

全存在物の蘇生化をする方向に向かつていくことを意味します。スピリチュアリス

トは、どれほど苦しい状況にあっても本質優位の努力、無償の奉仕と自己犠を實行EXA PIECO

する強い意志が必要で、遭遇する問題に対して靈的視野から物事を眺めることがで

きれば、苦しみや悩みを受け止め、あらゆる問題に対処できるようになります。

第三章

死、 死後世界について

スピリチュアリズムによる死後の實在の認識の浸透

スピリチュアリズムは、地球^{globe}圏靈界の層にいる高級靈720億人が総動員のスケジュールで進めている「地球人類救済計画」です。地球人類に死後の世界についての正確な情報^{つた}を伝え、唯物思想の中で苦しむ人々の魂を救おうとする計画です。スピリチュアリズムの靈界通信の背後には、何百億という高級靈の存在があります。その総指揮者がイエスであり、イエスの指示でそうした高級靈たちの協力のもとで、「高級靈界通信」を通して高次元の靈的知識が地上にもたらされました。

それが世界三大通信であり、『シルバーバーチの靈訓』、ステイブン・モーゼスの『靈訓・上』、『靈訓・下』、アラン・カルデックの『靈の書』、『靈媒の書』のことで

あり、全部イエス主導の通信という共通点があります。靈的眞理の普及は死後の生命の實在についての認識が浸透することが大前提です。靈的眞理を學び死後の正しい知識を持っている人間は、地球上で最も幸運な部類の人間です。地球人類80億人の殆どが死後の誤った考え方により、地上人生を後悔と苦しみで振り返るからです。

ここにお集まりの皆さんは、完璧な信仰を持っていなければなりません。なぜなら、皆さんは死後に關する具體的ぐたいてきな知識をお持ちだからです。靈力の証を手にしておられるからです。そして、この段階までこられた皆さんは、さらに、万事は良きに計らわれていること、大靈の攝理せつりに調和しさえすれば必ず幸せな結果がもたらされるとの信念を持たれてしかるべきです。

『シルバーバーチの靈訓 靈的新時代の到來』

p.67

死、死後世界に対する正しい知識が欠如した現代地球文化

死後に關する正確な情報というのは『シルバーバーチの靈訓』を筆頭に世界三大通信が死後の正しい情報を傳^{つた}えてくれています。そして足立育朗さんの著書である『波動の法則』、『波動の法則 實踐體驗報告』^{たいけん}にも死後の正確な情報が記されています。これらの情報より死後に關する正確な情報は地球上には存在しません。

G L N O
地球圈靈界の高級靈たちは、「地上の宗教は、すべて間違っている」「地上の宗教の教義は、靈的事實からかけ離れている」「地上の宗教はニセの教えを説き、人々を靈的成長の道から遠ざけている」と斷言しています。そもそも本來の宗教の本質は、死後、その人が戸惑うことがないようにガイドするのが眞の役割だからです。

「時空の仕組み」の中で、EXA PIECOエクサ ピーコさんは、人間はどういうふうになくなって、進化した状態に應じて、EXA PIECOエクサ ピーコさんをどういう段階のどういう時空の中でへんかん變換していき、次のステディを始める状況に向かうのか、というのがあります。それは段階によって違います。それらの状況を正確に振動波で交流して把握し、各EXA PIECOエクサ ピーコさんが戸惑うことのないように、本来の方向へ導くお手傳つたいをするのは、いわゆる聖職者のお役割の一つです。

波動の法則 實踐體驗たいけん報告（ナチュラルスピリット）

p.206

しかし、現代地球文化の宗教でその役割を果たしている宗教は存在しません。それとは反対の間違った死後世界觀を教え、それが地球の悲劇を助長してきました。

「死生觀」は人間の生き方を決定させるものです。しかし、現代地球文化の中核を占める現代科學、現代醫學、宗教、教育は、人間の死について、死後の世界についての正しい知識が欠如してしまっているため、死後に誤った宗教思想によって幽界で地縛靈グループを形成し、地球は地獄のような状況に5000年以上陥っています。

科學技術が發達した現在地球文化では、神、死後の世界を否定する唯物論者が沢山います。そうした人間は、生きている間にできるだけ人生を楽しもうと思うようになります。多くの場合その楽しみの方向とは、顯在意識のEGHO意識（自我、欲望）を満たす方向に向かつていくことになります。EGHOを満たす具體的な内容とは「金銭欲、グルメ欲、物欲、性欲、自己顯示欲、名譽欲、支配欲」です。現代地球人類の大半の人生はこうしたEGHOを満たす方向になっています。

大半の人間は、おいしいものを食べ、好きなことをして遊び、文明の利器を活用して最大限のレジャーを求め、あちこちと旅行をして人生を楽しもうとします。その際、こうした楽しみや快樂を与えてくれるのがお金であるため、人生の目標はお金儲けになってしまいます。お金を儲けてEGHO^{エゴ}意識を満たすことが人生のすべてになります。「お金こそすべて」という物質的価値觀に思想を支配されることになり、拝金主義に陥ってしまうのです。

一方、お金がなくて人生を楽しむことができない、そのうえ毎日苦しいことばかりが続く^{つづ}というような状況に置かれると、生きていることに意味と価値を見出すことができなくなります。そして「生きていても苦しむだけ、少しばかり長生きしようが早死にしようが同じだ。いずれ死ぬことになるのだから、いつそのこと早く死ん

だ方がいい」と考え自殺に走るような人間も出てきます。スピリチュアリズムでは自殺も殺人と定義し、死後に自殺者の救済が非常に困難なことから、自殺を明確に否定しています。

死生観は個人の生き方を決定するばかりでなく、現代文化の中核の一つである
いがく いりよう
 醫學、療にも決定的な影響をもたらします。

死によつてすべてが消滅する、人間としての存在がなくなってしまうとするなら、生命があることこそが一番尊いことであるという考え方に至り、そうした考えに立つ
いがく
 醫學では、せいめいたい生命體、にくたい肉體の寿命を少しでも永らえさせることだけを追い求めるようになります。現代醫學は病氣を治すことよりも、如何に延命させ死を先延ばしに

するかだけを考え、患者の死を防ごうとしますが、死、死後世界に対する正しい知識、認識のないいがく醫學は、ひたすら人間の寿命を延ばすことだけに奔走するようになるのです。今ではいがく醫學の名のもとで臓器移植が行われ、莫大なお金をかけて延命治療が施されるようになっています。患者の身内は、お金をかけることによって少しでも生命維持をしようと考えるのです。現在のいがく醫學、いりよう療は、あらゆる部分で靈的眞理に反した方向に向かって走りつづ續けています。その背景には「死は、最大の不幸であり損失であり悲しみである」という共通の見解があります。これが、病氣だけを見て、病人を見ない不調和な現代いがく醫學の根本的理由になります。

一方、宗教はこうした現代かがく科學、現代いがく醫學の唯物思想に対し、「死によって人間は存在を消滅させることはなく、死後もあの世において生きつづ續ける」と説いている宗

教が大半になります。死ぬとは高時空元移動^{F A N T}、生まれるとは低時空元移動^{F A N T}、死はこの世からあの世に向けての移動が本質です。今世では会えなくなっても存在が完全に消滅してしまうのでないなら、死に対する考えも變^かわってきます。そうした宗教的考え方をするならば、楽しみがないという理由だけで人生に絶望して自殺するとうようなことはなくなります。また無意味な延命治療を續^{つづ}けるといようなこともなくなります。死をどのように考えるのか、特に死によってすべてが消滅すると考えるのかどうかによつて、人生に対する姿勢が根本から變^{へん}化することになります。

しかし現在、地上時代に特定の宗教、宗教組織に属し、その教義を何の疑いもなく信じ込み、信仰に一生を捧げてきたような人間は死後、殆どが地縛靈になります。たいていの人間は死後、「幽界（※地表 0 km ～ 上空 10 km 圏内）」という靈界の最下層

の領域で一定の期間を過ごすことになります。幽界での生活を通して、地上的な意識や感覚や嗜好を取り除いていくことになります。これが幽界におけるECHO^{エコー}意識を拭い去るプロセスで、他界者はこの期間を通して靈的に純化され、本格的な死後の世界である「靈界（※上空 10 km ～ 80 km）」に入っていく準備を整えることになります。ところが地球人類の大半の人間は死の直後に混乱状態に陥ります。生前から死後の世界について學んでこなかったために、自分が死んだことに氣づかず、当惑するようになります。そうした人間も幽界で一定の期間を経ると徐々に自分が死んだことに氣がつくように本來はなりますが、中にはいつまでも「死の自覺」を持ってない人がいます。

唯物論者や特定の宗教の信者がそうした人間で、自分の死を頑なに否定します。

その結果、地上時代の延長のような時を過ごすことになります。すでに死んでいるにもかかわらず自分の死を認めず、地上にいたいと思ひ込んで、地上時代と同じような生活を續けることになるのです。これが地縛靈と言われる存在の正體しょうたいです。

しかし、何もこれは宗教に限らず、現在文化の中核である現代科學かがく、現代醫學いがくがそもそも宗教であり、現代科學かがく、現代醫學いがくを信じ込んでいても同じ死後の結末になります。また、現代の宗教、政治、教育までもが唯物思想の上に形成されており、同じ結末を向かえます。宗教に含まれるネットワークビジネス、自己啓發、精神世界、スピリチュアル系に属していても、死後、幽界で地縛靈となります。あらゆる分野が靈的無知であり、死後、死後世界に対しての知識が間違つた上で文化が構築されているので、こうした現代地球文化のあらゆる「洗腦」から抜け出せなければ、地縛靈に

なるのは避けられません。シルバーバーチは一般の死後をこのように語っています。

わたしたち靈團^{れいだん}の仕事の一つは、地上へ靈的眞理をもたらすことです。これは大變^{たいへん}な使命です。靈界から見ると地上は、無知の程度がひどすぎます。その無知が生み出す惡弊には、見るに耐えないものがあります。それが地上の悲劇に反映しておりますが、實はそれが、ひいては靈界の悲劇にも反映しているのです。地上の宗教家は、死の關門をくぐった信者は、魔法のように突如として、言葉ではつくせないほどの喜悅に視ちた輝ける存在となつて、一切の悩みと心配と不安から解放されるかに説いています。それは間違ひです。眞相とはほど遠い話です。

『シルバーバーチの靈訓 地上人類への最高の福音』

p.188

他界者が幽界に來てまず驚くことは、すべてが地上とそっくりであるということ
です。そこに住む人間の姿、生活環境は地上世界と少しも變かわりません。幽界には地
上のような山、川、湖、海があり、田んぼや畑があり、町並があります。これまで生
活してきた地上の世界と何もかもが同じなのです。そこには地上にあるもののすべ
てが存在しています。幽界があまりにも地上世界と似ているため、他界者の中には
寝ているうちに地上の別の所へきたように錯覺し、そこが死後の世界であることに
氣づかない人もいます。肉體にくたいがなくなつた、それだけの違いであり、これがあれほど
恐れていた死後の世界かと拍子抜けするレベルです。しかし、地上と幽界の違いも
あり、それは自分が心で思っていることが即座に現實化することです。まさに思考
は現實化する世界ですが、それが靈的には逆に厄介なことにも繋がっており、心は
生前と何も變かわらないため、生き方を改めない人が沢山います。

死んで靈界へ来た人は——初期の段階にかぎつての話ですが——地上にいた時と少しも變^かわりません。肉體^{にくたい}を捨てた——ただそれだけのことです。個性は少しも變^かわっていません。性格はまったくいっしょです。習性も特質も性癖も個性も、地上時代そのままです。利己的だった人は、相變^かわらず利己的です。貪欲だった人は、相變^かわらず貪欲です。無知だった人は、相變^かわらず無知のままです。悩みを抱いていた人は、相變^かわらず悩んでおります。少なくとも靈的覺醒が起きるまでは、そうです。こうしたことがあまりに多すぎることから、靈的實在について、ある程度の知識を地上に普及させるべしとの決斷が下されたのです。そこで、わたしのような者が永年にわたって靈的生命についての眞理を説く仕事にたずさわってきたわけです。

『シルバーバーチの靈訓 地上人類への最高の福音』

p.189

一般的な人々の死後の現状

靈界（※上空 10 km ～ 80 km）では地上の縁者、知人の死は正確に分かるようになっていきます。自分との関係者、知人の死の時が近づくと、地上人を迎えに幽界まで降りることになります。こうした関係者と再会することで自分自身の死を受け入れた場合、地上時代の自分の歩みを回顧することになります。自分の目の前に、地上時代のさまざまな出来事が、映画のスクリーンのように展開していきます。その中にはすでに忘れていた出来事も含まれています。地上でなした行為が洗いざらい示され、より高い指導靈のインスピレーションの影響を受けながら見つめ、地上時代のすべての行為を自ら査定することになります。これが「幽界での審判」と言われているものです。そこでは「靈的法則」の働きによって、自分で自分を審判し裁くことになり

ます。他の存在が審判し裁くものではありません。地上の裁判のような討議も証拠提出も、一人一人に対する査問などという手間もなく、地上時代のもろもろの行いの靈的価値がひとまとめに明らかにされ、即座に結果が出るようになっていきます。しかも地上とは異なり一切のごまかしや言い訳が効かないのです。何が間違っていたのか、どうすればよかったのか、といったことが明瞭に分かるようになります。

靈界（幽界）の審判では、自らが裁判官となって、自分で自分を裁くことになりますが、そのときの判決の基準は「地上で何を行ったのか、世の中のためにどれほど自分を役立てたのか」ということです。要するに「無償の奉仕と自己犠牲」が基準になって判決を自分自身で下します。これが地上的生き方とは眞逆になり、死後に苦しむ理由にもなります。ここで、ある靈の存在の証言を紹介します。

● ジョゼフ・ブレ靈（1840年の交靈會こうれいかいより）

わしは今、苦しんでいる。と言っても、お前たちの考えるような苦しみとは違うんだよ。わしは、地上で無駄な時間を過ごしてしまったことを後悔しているのだ。（中略）わしは、人間の目から見て「正しい」と言われるような生き方はしてきた。だが人間にとっての「正しい」とことと、神にとっての「正しい」ことでは、天と地ほどの差があるのだよ。お前が分かるように、その違いを説明してあげよう。（中略）「何にもまして神を神意あゐし、また自らのごとく隣人を神意あゐする」——わたしのかわいい孫娘よ、これが神の目から見たときの正しい在り方なんだよ。

わたしは地上で生きている間に、こうしことをちゃんとしてきただろうか？いい

や、とてもそんなことはしてこなかった。正直に白状しよう。わしは人間として果たすべきことを、自ら進んでしようとはしなかった。神を忘れることで、神の法も忘れてしまったのだ。わしのしてきたことは人間の法によって罰せられなくとも、神の法には背くことなのだよ。その事実を知ったとき、わしはとても苦しんだ。だが今は、希望を持って生きている。わしの悔い改めをご覧になった神のご慈悲が、わしに慰めと希望を与えてくれるのだよ。

アラン・カルデックの編集した『天國と地獄』^{てんごく}の中で、ジョゼフ・ブレという靈がこうした状況を述べています。意圖的に他人を傷つけたことはないようなごく普通の人間であっても、地上人生を有意義に過ごすことがなかった場合、死後いったんは、厳しい反省と後悔の時間を持つようになります。靈的眞理である「利他、奉仕、

分かち合いの實踐」と一致していたかどうか、本質優位の努力、無償の奉仕と自己犠牲という法則に適った生き方をしてきたかどうか、一人一人を裁く基準となります。その基準から外れていた分だけ、後悔の苦しみを體驗たいけんすることになります。

現代地球文化は、靈的無知、嘘つき文化、靈的なことに対する偏見、様々な裏切り行為、自然法則に反した迷信がはびこっています。それらが引き起こす結果の悲劇は、幽界の下層、更には地上に悲劇を生み出しています。靈的準備もできない存在が何万、何十万、何百万と毎日幽界入りしているからです。幽界に來て間もないうちには、地上にいた時と何も變かわっていません。彼らは肉體にくたいこそ脱ぎ捨てていますが、ただそれだけのことであり、心も性格も變かわりません。そうした存在は地上時代の考えや習性を引きずったまま、幽界の下層で地縛靈として生き續つづけることになる者が

沢山います。靈的な自覺が生じないかぎり、いつまでも地上時代と同じ状況が續く（つづ）のです。

これらの悲劇の元凶が宗教であり、これまでの宗教は、最低限の靈的知識や死後世界の正しい情報を地球人類に傳（つた）えることができませんでした。それどころか靈的事實から懸け離れた子ども騙しのような教えを強制的に宗教の信者に押し付けてきて、人々を「魂の牢獄」とでも表現すべき状態に閉じ込めてきました。死後についてを述べているのは宗教、哲學、精神世界系ですが、これらは人類の靈的成長を促すどころか、反対に靈性の進化を妨害してきたのです。地球圈靈界の高級靈たちから見るとき、地球上のすべての宗教は失格の理由です。こうした悲劇を食い止めるには、正しい死、死後世界の知識が必要不可欠な理由は、こうした事情があるのです。

地獄というものについて

これまで多くの宗教では、善人は死後てんごく天國に行き、悪人は地獄に堕ちて苦しむようになると教えてきました。西洋世界では長い期間、キリスト教を信じていない者は全員永遠の火炎の中へ放り込まれると信じられてきました。従来、宗教で地獄と呼ばれてきた世界は本当に存在するのでしょうか？そうした疑問を持つことこそ大切なのですが、イエス主導の通信である世界三大通信を通して明らかにされた地獄についての見解を知ることによって地獄の實態を學ぶ必要があります。そして結論を先に言うならば、これまで宗教で言われてきたような地獄の概念は正しくありません。教訓的な目的から説かれた地獄の様子は、そのほとんどがフィクションであり、事實とは懸け離れています。しかし、地獄じたいは存在します。

地獄は存在しないと言ってくる靈がいます。そうすると、眞つ暗いところとか薄暗い世界というのは何なのでしょうか？

地獄はあります。ただ、地獄繪じごくえなどに描かれているものとはかぎらないというまでのことです。未熟な靈が集まっている暗い世界は、もちろん存在します。そこに住んでいる靈にとっては、そこが地獄です。實在の世界です。

『シルバーバーチの靈訓 靈的新時代の到來』

p.238

シルバーバーチは明確に地獄はあると述べています。しかし、地獄の定義について従来の宗教で説かれている地獄のイメージとは違うと言っています。これまで宗

教で言われてきたような場所としての地獄はないのですが、確かに地獄と言ってもいいような世界が現實にあります。地獄のイメージにぴったりの世界、拷問による罰を受けて苦しみもぐのと同じような厳しい世界が實際にあるのです。

地上時代に利己的な生き方をしてきた者、他人を苦しめてきた者、善行をするチャンスがありながらそれを無視してきた人達は、死後、幽界に行ってから、利己主義の生き方の代償を払わされることになります。そこでは、自分の地上人生がいかに間違っていたのか、そしてせつかくの善行、陰徳を通した靈性の進化のチャンスを無駄にしてきたのかを實感するようになり、大きな後悔と苦しみの中に立たされることになります。残念ながら多くの人々が死後、地獄の苦しみを體驗たいけんするようになります。これが「原因カと結果ルマの法則」による利己主義の結果としての代償です。

地上で肉體にくたいに包まれていたときには、良心かしやくの呵責や後悔をそれほど強く感じることはなくても、思念の世界である靈界、幽界に入ると、その後悔は何十倍、何百倍もの苦しみとなって迫ってくるようになります。そして地上世界での行爲の結果を自分自身で裁き罰するようになります。自分で自分を責め、後悔の念で苦しむようになります。

幽界に行くと大半の人間が、一時的であつても地上人生を後悔し、辛い苦しみの時を過ごすようになります。これが「地獄の苦しみ」であり、靈的眞理から導き出した地獄の世界とは「魂が苦しむ場所、後悔で苦しみがく心の世界」のことなのです。したがって地獄は、一人一人の心の中に存在するということになります。なので如何に地上世界で死後に後悔しない生き方をするのが大切になってきます。

G I N O
地球圏靈界の層について

そもそも各天體てんたいは「情報層」というものが存在しています。だいたい惑星で「100

km〜200 km」、恒星で「1万 km〜2万 km」という形で情報層が存在しており、各天體てんたい

に地上、靈界が存在しています。各天體てんたいの情報層の宇宙語を「GINOキノー」呼びますが、

平たく言えば各天體てんたいに「地上、幽界、靈界、神界」と呼ばれる世界が存在するという

ことです。地球では便宜上、地上、幽界、靈界、神界と情報層を分類します。「幽界

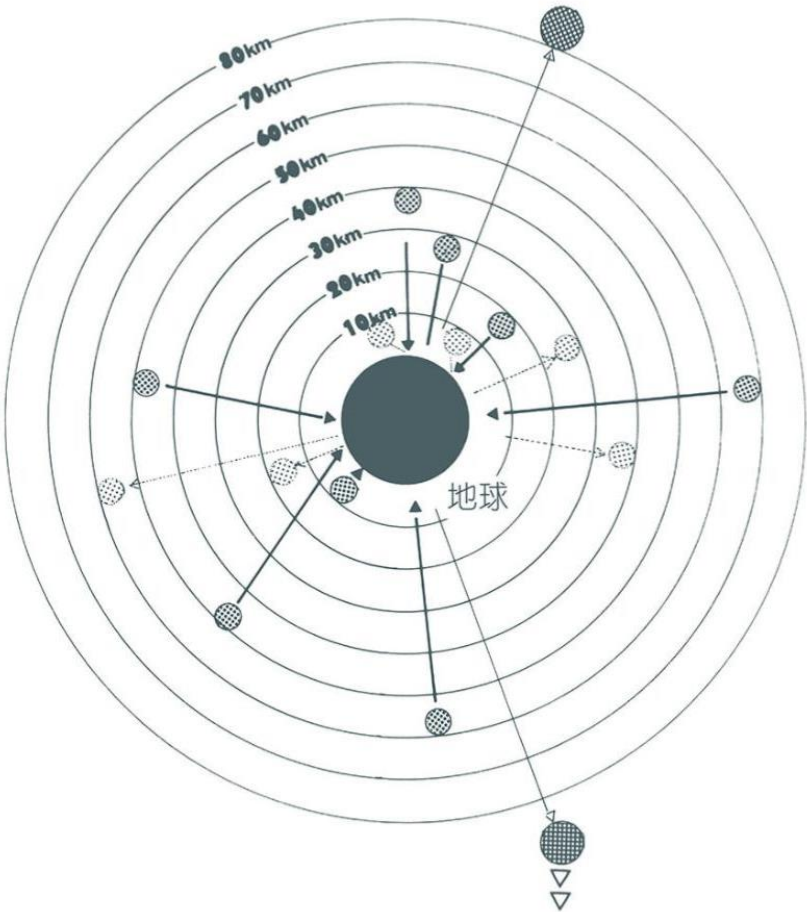
(※地表 0 km〜上空 10 km 圏内)」、「靈界(上空 10 km〜50 km)」、「神界(上空 50 km

〜80 km)」という形ですが、幽界、靈界、神界はすべて「地球圏靈界」G I N Oと呼びます。

そして「宇宙圏靈界」J E F I S I F U Mという世界もありますが、このレベルに到達できる地球人は殆

どいないので、本書では宇宙圏靈界J E F I S I F U Mに關する詳細な説明は致しません。

G I N O
地球圈靈界の層



【物質界（地上世界）】

地上世界は、地球人類が既に馴染んでいる、物的形態に宿つての體驗たいけんを積む世界であり、これは地球上に限らず、宇宙にある無數の天體てんたいでも同様の體驗たいけんを積む惑星がある。宿る物的身體しんたいが人間の肉體にくたいに比べて、身體しんたいの構成要素（原子）の振動數が高いものもあれば低いものもある界層。

【幽界（0 km ～ 10 km）】

地上世界で送った生活の記憶や願望の反映、言わばまぼろしで築き上げられた界層。ここは靈界行きのための準備をするための界層。この界層に留まり續つづけることを地縛靈といい、その地縛靈グループが地上世界を暗黒の世界にしている元凶。

【靈界（10 km ～ 50 km）】

五感による束縛から脱して、自らの意志で環境をコントロールするようになる世界。とは言え、まだ形態に宿つての生活であり、したがって広い意味での物的存在だが、その物質は極めて稀薄なもので、氣エネルギーと表現するのが適切。この界層はまだ物的生活を送つた天體と直結した大氣圏に属した界層。この界層は、地上世界への「再生」をすることを余儀なくされる段階の存在の集まりの界層。

【高級靈界（50 km ～ 60 km）】

EXA PIECO

本質はこの界層に至つて初めて「グループ・ソウル」を自覺し、高級靈界の組織に属することになる。より上の界層の存在が統括靈としてこのグループをまとめて

おり、靈的宿命を自覺する段階になる。この段階に至って地上世界への再生を必ずしも選択しなくてもよくなり、高級靈團れいだんの一員として「地球人類救済」の計画に直接關わるようになる。地球人類の喜怒哀樂の感情を明確に理解し、人の氣持ちに寄り添ったサポートが可能になる界層。

【高級靈界（60 km ～ 70 km）】

この界層に至る各靈魂EXA PIECOは、守護靈、指導靈として指導的立場に立つことをより上位の存在に許され、下の界層の存在をサポートできる段階の界層。基本的SEPOUWに背後靈の任務を請け負うことが多くなり、先輩の「グループ・ソウル類魂」達が残した全生活の知性的側面の意義に精通すると同時に、後輩たちが今送りつつある物的生活における喜怒哀樂の感情に精通する。

【高級靈界（70 km ～ 80 km）】

この段階に至って、地球人類救済の統括靈であるイエスと直接繋がり、そのイエスの背後にいる大靈と融合調和し、宇宙のエネルギーの中へと溶け込んでいく。そこに至り、「過去（波動）」、「現在（時空）」、「未來（素粒子）」が繋がった世界、時間と空間の本質を知る段階に至る界層。この段階において初めて、瞬時として途切れることのない大靈と靈魂の關係性の本質を知り、眞の自分自身となる。

FIGEHUKON EXA PIECO

靈界での仕事の定義について

地球の物質界（地上世界）への再生をしなくてもいい段階が50 km 以上からで、この界層から高級靈界、別な表現だと神界と表現してもいい段階になります。60 km 以

上の段階から、高級靈團れいだんの一員として指導的立場、背後靈SEPOW（守護靈、指導靈）の任務に就くことが多くなります。70 km 以上だと、直接イエスにお会いできる段階になりますが、そもそも地上世界でイエスと直接お会いできるスピリチュアリズム普及會ふきゅうかいの讀書會どくしょかいが異例なのです。名だたる存在たちがイエスに付き従うことを表明しており、イエスの教えに反した行動は高級靈界すべてを敵に回す行爲になります。

人生觀は最終的に「仕事觀」に集約されますが、幽界を抜けて靈界での生活になるとすべての存在が必ず何らかの仕事に携わるようになります。仕事をしていない存在、ただじつとして安隱と隱居生活を送っている存在などいなくなります。靈界に入ってしばらくすると誰もが例外なく「仕事をしたい!」と思うようになります、指導靈に仕事を与えてくれるように申し出ます。「大靈たいれいとイエス、高級靈團れいだんに仕える事」が

仕事の本質であり、それ以外に興味がなくなるのです。地上世界では大半の人が仕事を嫌がりつつも、生活のために仕方なく續つけていますが、靈界における仕事は、地上世界における考え方とは根本的に違っています。幽界以降では肉體にくたいがないために地上のようにお金を稼ぐための仕事をする必要はありません。またどれだけ働いても疲れません。

靈界人が仕事をしなくなるのは、仕事をしないことが苦痛になるからです。靈界における仕事は、地上のように生活の糧を得るためにするものではなく、他人への奉仕、すなわち「無償の奉仕と自己犠牲」の實踐なのです。靈界では人は、仕事を通じて他人に奉仕し、他人に協力し、他人のために役立つことになります。靈界での仕事は、それがそのまま他人への奉仕になっています。

再生（輪廻轉生）について
りんねてんせい

ここまで地球圈靈界G I R L Oについての實態を語り、地球の地表より上空 50 km 以上の高級靈界以降の界層は、再生（※輪廻轉生りんねてんせい）が不要の段階になると説明しましたが、スピリチュアリズムで一番異論の多いテーマが「輪廻轉生りんねてんせい」になります。正確に輪廻轉生りんねてんせいを表現するならば「輪廻再生」であり、再生について正確に語っているのは『シルバーバーチの靈訓』であり、他の靈界通信の情報は、その輪廻再生を補足する内容であり、輪廻再生は靈的眞理の中でも一番難解なテーマになります。このテーマに切り込んでいきます。

死後、幽界でも靈界でも高級靈界でも、当人の靈性EXA PIECOの「時空元」、「段階」、「振動

波」に見合った界層に行くことになります。その界層の中で、本質の周波数の類似性を持った者同士が惹き合い、グループをつくるようになります。「類は類をもつて集まる」といったことが、死後には現實に起こります。「グループ・ソウル」は靈的眞理の中でも地球人類に明かされてない奥義であり、「ソウル・グループ」と明確に區別しなくてはならないことなのですが、これを言語で説明するのは容易ではありません。なので、非常に誤解の多い内容になっています。

そもそも「グループ・ソウル」という概念は、スピリチュアリズムの中でも奥義的な位置づけであり、一番難解なテーマです。輪廻再生は『シルバーバーチの靈訓』においても大きな特色でもあります。シルバーバーチは60年間の靈界通信を通して「輪廻再生」についてほぼ完璧な回答を示してきました。しかし地上人側が、シルバーバ

イチが語った言葉の意味を正しく理解することができませんでした。そして輪廻再生についての理解が不十分なまま、シルバーバーチの通信を編集し、『シルバーバーチの靈訓』を編集者が出版することになってしまいました。

まず、世間一般に言われている輪廻轉生説は靈的事實とかけ離れています。一般

の人々が考えている「輪廻轉生觀」とは、今ここに自分自身という一人の人間がい

て、いずれ死んで靈界に行きます。そして一定の時を経て地上に輪廻轉生します。こ

こで前提となっているのは、前世の自分と現世の自分は同じ自我意識を持っている

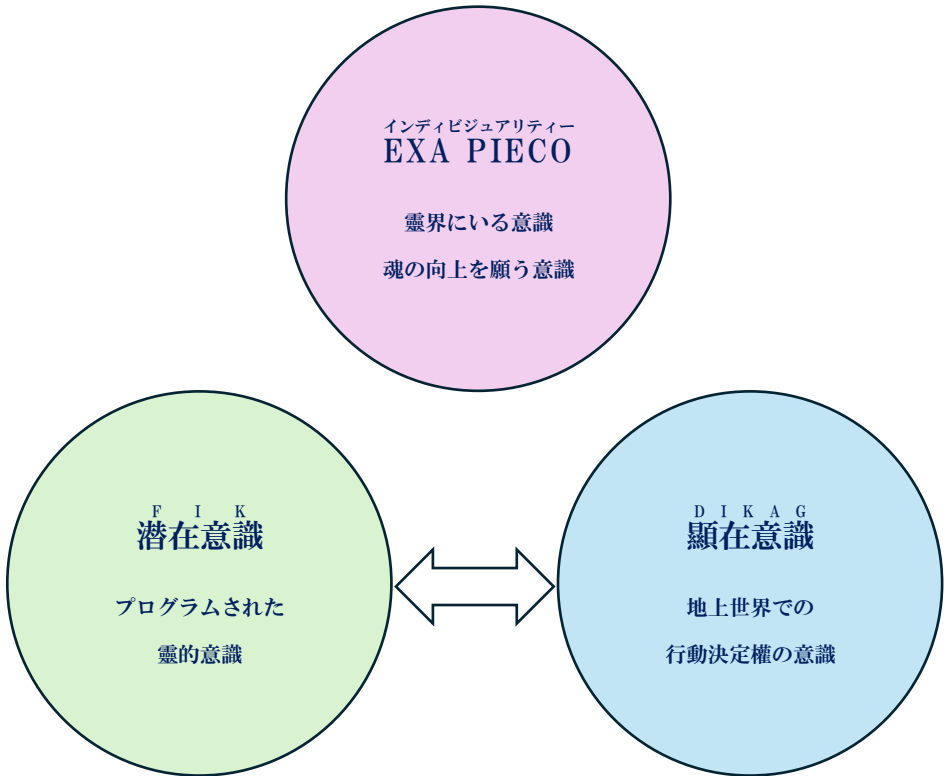
ということです。しかし、これは正確には間違いであり、正しく輪廻再生を理解する

には「E X A P I E C T O D I K A Cインディビジュアリティ」と「P A R S O N A L I T Yパーソナリティ」の區別をしなければ輪廻

再生を理解することは不可能です。だから人間についての知識が不可欠なのです。

肉體にくたいを持ち、大脳を介した顯在意識D I K A Gによってしか自分自身を自覺できない地球人類にとつて、再生の事實を理解することはきわめて困難です。過去、多くの宗教によつて「輪廻再生」が説かれてきましたが、スピリチュアリズムが地球上に現れるまでは、再生について正しく理解することはできませんでした。

まず、インディビジュアリティE X A P I E C Oのみで輪廻再生を考えるか、パーソナリティD I K A Gで輪廻再生を考えるのか、焦点の違いにより説明が大幅に變かわってきます。パーソナリティのみで考えるならば、「前世」、「靈界での3つの意識の融合」、「今世」の3人の別人がいることになります。もし仮に、今の自分が前世の自分と出会うとするならそれが自分であるとは認識できません。つまりパーソナリティD I K A Gを基準にすれば、「その人物は別人であり再生はないし前世もなかった」ということになります。



F I K D I K A G
潜在意識と顯在意識を合わせてパーソナリティー意識

EXA PIECOとパーソナリティー意識について

自分自身のEXA PIECOは靈界、高級靈界のいずれかにいます。シルバーコードによつて、太陽神經叢を通して潜在意識と繋がり、大腦を通して顯在意識と繋がっています。地上世界は潜在意識と顯在意識による「パーソナリティー意識」によつて行動しており、自分自身のEXA PIECOは「グループ・ソウル」や「ソウル・グループ」から任命された背後靈にサポートを一任し、靈界からパーソナリティー意識を見守っています。このシルバーコードが全部切れた状態が肉體の死です。

基本的に一般的な死後は幽界において、本質、潜在意識、顯在意識の3つの意識と意志が融合しようとしています。なので、例えるならEXA PIECOは本體、パーソナリテ

イー意識は分身體ぶんしんたいであり、本體ほんたいと分身體ぶんしんたいが再び統合しようとしています。この時に、地上世界で如何に本質、潜在意識EXA PIECO F I K D I K A G、顯在意識が一致していたか、ズレていたかによって様々なトラブルが生じます。

死後、靈的知識の欠如していた場合、殆どの方が混乱します。また、幽界の審判とは、EXA PIECOエクサ ピーコ F I K D I K A Gが潜在意識に記憶された情報を顯在意識に見せる形で行われます。そして、EXA PIECOエクサ ピーコ ブループリントが生まれる前に決めてきた人生設計圖通りに利他、奉仕を行ってきたのか、怠惰に呑んべんだらりと生きてきたのかを顯在意識D I K A Gが自覺するようになります。良心かしやくの呵責や後悔をし始めます。

そして、一般的靈界と高級靈界の行き先によって「輪廻再生」を選択するか、選択

肢しないのが決定されます。一般的靈界（10 km ～ 50 km）の行き先の場合、必ず再生を余儀なくされます。しかし、この時に輪廻再生するのは過去のパーソナリティー意識ではありません。

靈界では3つの意識が融合されてますから、はっきり言うならば融合した時点で地上世界とは別人と定義すべきであり、そこから再生人生を選択する際、考慮される地上世界の条件が、時代、性別、民族、國家、兩親です。「何処の時代の、どの性別の、どの民族の、どの國の、何処の家系の兩親を通して生まれるのか？」ということを、自分自身のEXA PECOエクサピーコが選択します。その際、潜在意識ポテンシャルに人生設計圖ブループリントをプログラムし、生まれた後は顯在意識に人生の選択を一任しますから、これも厳密に言うならば前世、3つの意識と意志の融合後とは別人と定義すべきです。

地球人類は宗教思想において「パーソナリティー意識（潜在意識、顯在意識）」が輪廻轉生りんねてんせいすると考えておりますが、そういった再生をすることはシルバーバーチの通信を通したスピリチュアリズムで明らかにされた「再生觀」において、そういった輪廻はないということが明らかになりました。

E X A P I E C O
インディビジュアリティ（靈的意識の本体）としての輪廻再生はあるが、パーソナリティー意識（潜在意識、顯在意識）としての輪廻轉生りんねてんせいはない、これが正しい表現です。ここを正しく理解できるかが鍵です。

一般的靈界（10 km ～ 50 km）において再生することを決意し、地上人生での體驗たいけんを選択すると、いよいよ地上に生まれ變かわることになります。いったん地上に生ま

れると、靈界では明晰だった靈的意識も失われ、靈界における記憶は一切なくなります。地上に誕生した後は、EXA PIECOから滲み出てくる靈的直観、靈的感覚によって無意識のうちに心を形成していくことになります。再生を決意する本質は、地上への再生がいかに困難と危険をとまなうものであるのかを十分に理解しています。危険な航海の旅へ出發するのに等しいことを自覺しています。しかし、いったん地上に誕生すると靈界で決意した内容を思い出すことはできなくなります。顯在意識としては、ほぼ白紙のような状態で地上人生を出發することになるのです。

EXA PIECO
こうした「本質の意識（靈的意識）」を失った存在にとって、地上はまさに荒波の世界であり、未知の世界となります。これまで持っていた知識もすべて消え去った記憶喪失のような状態で、新たな地上人生を歩み始めることになるのです。

輪廻再生の目的について

そもそも、何故そんな危険を冒してまで輪廻再生をするのか、その理由を大別すると3つの理由に分けられます。

① 一般的靈界（10 km ～ 30 km 圏内）

自分自身が前世でつくった原因と結果の「結果」は、自分自身が償わなければなりません。他の存在に代わって償ってもらおうということはできません。それが「原因と結果の法則」であり「自己責任の法則」だからです。そこで結果の原因をつくった本人自らが、地上に再生する道を選択することになります。もう一度、地上に誕生し、そこで苦しみの體驗たいけんを経ることにより、前世でつくった結果を償って帳消しにカルマ

するための人生を求めるようになります。

② 一般的靈界（30 km ～ 50 km 圏内）

EXA PIECO SINGA

人間は死後、靈的自覺の芽生えとともに、少しずつ靈性の進化をしていき、徐々に靈界の界層を昇っていきます。やがてあるレベルにまで至ると、自分が所属すべき「ソウル・グループ」についての感覚が湧き上がってくるようになります。するとそれと同時に、自動的に魂の仲間である「ソウル・グループ」の中に入ることになります。そしてそこで「グループ・ソウル」の一部分を形成するようになります。

類魂

EXA PIECO

「グループ・ソウル」を形成する仲間は全員、自分と同じ靈性の段階です。グループに入った後は、仲間と共に「共同進化、共同進歩」の道を歩むようになります。この「共同進化、共同進歩」の代表として再生を選択する場合があります。簡単に言う

ならば、「グループ・ソウル」のメンバーひとりが再生し、結果的に本人の靈性^{EXA PIECO}が進化^{SINQA}したならば、同時に仲間である「グループ・ソウル」の全員の靈性^{EXA PIECO}が進化^{SINQA}もたらされるようになります。これが再生の大きな目的になります。

③ 高級靈界（50 km ～ 80 km 圏内）

イエスを通した「地球人類救済計画」を地上世界で進めるといふ大きな使命を背負って地上に再生するケースもあります。これは「スピリチュアリズム普及會^{ふきゅうかい}」のメンバー全員が該当し、シルバークーチの靈媒である「モーリス・バーバネル」なども該当します。また、心靈治療家の「ハリー・エドワーズ」などもヒーリングを通してイエスの教えである『シルバークーチの靈訓』のPR係りとして再生を選択しています。「地球人類救済計画」のために地上世界に派遣されるケースです。

「ソウル・グループ」と「グループ・ソウル」の違い

ここで「ソウル・グループ」と「グループ・ソウル」の違いについても説明しておきます。「ソウル・グループ」は靈的家族類、「グループ・ソウル」はコミュニティ、役割という形で違いがあります。現代地球文化でも、様々な分野で様々なコミュニティが存在します。現代地球文化の中核を爲すのは科學、醫學、宗教、政治、教育であり、そこから農業、産業、芸術など多岐に渡る分野に分かれます。

これらが地上世界で共同生活を営んでいるわけですが、靈界ではこれを更に細かく細分化しています。「ソウル・グループ」は界層全域、「グループ・ソウル」はコミュニティ全域という違いがあります。基本的にコミュニティ全域で靈性の進化を共

EXA PIECO
SINQA

同作業でいき、「ソウル・グループ」全員の靈性の進化を促進していく、これが

DEVICK

「DEVICK」という「分かち合い」、「サポート」、「協調」の法則なのです。ここでシル

バーバーチの氣になる台詞をピックアップしてみましょう。

靈界では、一人で仕事をするということはありません。なぜなら、協調こそが大靈

の攝理

だからです。そのため靈界ではグループを組織します。そして可能なかぎ

り、全體

としての完璧性を目指します。グループの仕事にとって最も必要とされる

のは、メンバーのあらゆる特性・長所を一つにまとめ上げることです。それができ

ると、その中の一人がグループ全體のマウスピースになって地上に働きかけます。

わたしも、わたしが所属する靈團のマウスピースです。

『シルバーバーチの教え』（新版・下）（スピリチュアリズム普及會）

p.30
～
p.31

これに關して具體的な情報は、『續靈訓』の冒頭でインペレーターが述べている言葉で知ることが可能です。

インペレーターは、自分自身のことを「神の使徒たる余は四十九名より成る靈團の頭であり、監督と統率の任にあり、他の全ての靈は余の指導と指令によりて仕事に当たる。余は全知全能なる神の意志を成就せんが爲に第七界より参つた。使命完遂の暁には二度と地上に戻れぬ至福の境涯へと向上して行くであろう。が、それはこの靈媒が地上での用を終えた後となるであろう。そしてこの靈媒は死後において地上より更に広き使命を与えられるであろう」と述べています。

第七界とは「70 km ～ 80 km」の高級靈界について述べられており、インペレーター

の背後に「プリセプター」という存在、更に背後にイエスの存在がいたことを述べています。

要するに、地球人類救済の総指揮者であるイエス、イエスに近い立場として総監督にプリセプター、その指導を受けてインペレータが各界層の「ソウル・グループ」、
「グループ・ソウル」に指示をしていたということです。

七つの「グループ・ソウル」に分けられ、「グループ・ソウル」七名ずつ、合計49名がインペレータの傘下として「ソウル・グループ」全體、地球人類すべての靈性
の進化を促進するために働いていたということであり、高級靈界というのは完全な
協調関係の中で仕事を遂行するということが分かります。

インペレータを総指揮者にしたグループの構成

当時、インペレータの属する靈團^{れいだん}は49名の構成になっていましたが、どのような構成なのかを知るのは靈界の協調の仕組みを学ぶことに繋がります。残念ながら現代地球文化に「眞の協調」というものは殆ど存在しません。神意^{あゐ}の實踐、そのためにチームの協調によるの分かち合いの拡大こそが宇宙の根本原理である「調和」に繋がってきます。

協調というのは大切な攝理^{せつり}です。チームプレーこそ大靈^{たいれい}の調和の法則です。地上世界に眞の協調はありませんが、靈界は眞の協調を築いた仕事をしており、そのシステムはこのような形になります。

【1】靈團全員を統率し指揮することを任務とするグループ。総指揮者インペレー

れいだん

リーダー

タ、副官レクター、副官補佐ドクター・ザ・ティーチャー、低級靈からの保護を担当する2人の存在、こうしたインペレータ直属の4人を含んだ合計7人のチーム

【2】神の神意あいを伝えることを目的とする7人のグループ。神への神意あいの表現であ

つた

る崇敬、同胞への神意あいである慈悲、優しさ、朗らかさ、哀れみ、情け、友情、

愛情、こうした類のもの全てを配慮するグループ。

【3】叡智を司る7人のグループ。直感、感識、反省、印象、推理、等々を担当し、

直感的判断観察事実からの論理的判断力を指導する。叡智を吹き込み、且つ

判斷を誤らせんとする影響を排除するグループ。

【4】ドクター・ザ・ティーチャーの指揮の元、人間について、原因と結果の關係性について、地上人生の目的などの啓發を目的とする7人のグループ。物事への注意と比較判斷、不測の事態の警告等を担当する。また靈媒の辿る困難きわまる地上生活を指導し、有益なる實際的知識を身につけさせ、直感的知恵を完成させることに注力するグループ。

【5】芸術、科學、文學、教養、詩歌、繪画、音樂、言語等を指揮する7人のグループ。崇高にして知的な思念を吹き込み、上品さと優雅さとに溢れる言葉に觸れさせる。美しきもの、芸術的なもの、洗練され教養溢れるものへ心を向けさ

せ、性格に詩的潤いを与え、氣品あるものにすることを目的とするグループ。

【6】 コミュニケーション力の向上を目的とし、愉快さとウィットとユーモアと愛想の良さ、それに楽しい会話を担当する7人のグループ。コミュニケーションにおいて大切な生氣溢れる明るさを吹き込み、日々の重々しい氣分を開放し、日常生活に希望をもたらすことを目的とするグループ。

【7】 副官レクターの保護監督のもと、物理的心靈現象を担当する7人のグループ。基本的に靈界の10 km ～ 30 km 圏内に属している存在であり、高等なる靈的眞理を普及する上では非必要とみた物理現象を演出する。元々幽界地縛靈グループに属し、彼ら自身の魂の更生を兼ねてこの仕事に携わっており、心靈現

象の演出の仕事を通して自分自身の淨化と向上の道を歩むことを目的として
いるグループ。

如何に、高級靈界、一般的靈界がチームで動いているのかが垣間見えますが、これを地上世界に反映させる必要があります、スピリチュアリズムによる靈的眞理の普及とは、「唯一の靈界と地上のタイプアップ作戦」であり、イエスが指揮する高級靈界と直接繋がっているのは現時点、「スピリチュアリズム普及會」のみです。

ふきゆうかい

わたしは大靈たいれいの仕組みを學べば學ぶほど、調和、神意あ、協調、分かち合いこそが
攝理せつりなのだと實感させられます。サポートを通して靈的に向上していくという原理
D E V I K
が分かるからこそ、人間關係から逃げてはいけないことを痛感しています。

高級靈たちによる地球人類救済プロジェクト

靈界での仕事を論じるときに重要なことは、靈界ではあらゆる仕事が地球圈靈界すべてと関連し、最も高い界層（高級靈界）から最も低い界層（幽界）に至るまで協力関係にあるということです。仕事を通じてすべての存在が、地球圈靈界の一員としての役割を果たすようになっていゐるのです。

209

靈界は「眞の協調關係」の中で、各自が「適材適所」でチームで動いている世界です。『よひとやむみな』という靈界通信で、「天界に住む者、ひとり一人は弱いが和するから無敵ぞ。幽界の者、ひとり一人の力は強いが、孤立するから弱いのだ」という記載があり、それが高時空元と低時空元を的確に表現している言葉になります。

すべての存在が、各自の仕事を通じて学び合い、助け合い、支え合って、地球圈靈界
EXA PIECO SINQA G I N O
全域の靈性の進化を目指しています。靈界にある無数の仕事は、すべて地球圈靈界
ぜんたい
全體の協調關係の中で遂行されています。

一人一人の仕事は、ただ單に横の關係（界層内）だけで与えられるものではありません。
ん。上下の界層間とも密接な關連性を持っています。あらゆる仕事は、常により高い
界層からのコントロールと指導がなされています。上層の高級靈によって、その仕
EXA PIECO SINQA G I N O
事が本人の靈性の進化にとって最もふさわしいものかどうか、そして地球圈靈界
ぜんたい
全體のためになるものかどうかということが常にチェックされています。それぞれ
の存在は、自分の靈性の時空元、段階、振動波によって自分自身の力量と身分を自
EXA PIECO
覺して、あくまでもその範囲を守って仕事をしています。そして仕事の責任と仕上

げは、そのグループの「最高責任者」に任せられることになります。いかなる仕事も高級靈の計画のもとに進められているのです。その計画に対して、独りよがりの勝手な好みを差しはさむようなことは靈界では許されません。

高級靈界から見た地上世界は、独りよがりで、自分の感情の好き嫌いで判断し行動する「精神疾患者」が後を絶ちません。こうした独斷個人プレーは振動波で即バレてしまい、即刻、自動的に「幽界最下層」に落とされます。チームの和を乱す者は本質的にも現實的にも不調和であり、迷惑極まりない存在です。

こうした地球圈靈界の上層界と下層界がイエスの名のもとに結託し、地上人類を含めた「地球人類救済計画」を推し進めています。なぜそうした仕事をするのかの

理由とは、地上世界には靈的無知から生じた物質至上主義、利己主義というEGHO^{エゴ}意識による悲劇が余りにも多すぎるからです。そうした悲劇をなくすために高級靈は働いているのです。それについてシルバーバーチはどのように語っています。

何とかせねばならないことがあることを知りながら、心の安らぎを得ることができるとしようか。地上の同胞が、知るべき眞理も知らされずに、神の御名のもとに間違った教えを聞かされている事實を前にして、わたしたちが安閑^{あんかん}としていられると思われませんか。光^{ひかり}があるべきところに闇があり、自由であるべき魂が煩惱に負けて牢に閉じ込められ、人間の過ちによって引き起こされた混乱^まを目のあたりにして、わたしたち先輩が平氣な顔をしていられると思われませんか。

『シルバーバーチの靈訓 靈的新時代の到來』

p. 72

靈界からみた地上世界は、何とか改善しなければならないことが沢山あり、高級靈たちに心の安らぎなどありません。地球の悲劇を知っておきながら平然となどしてられないと述べております。

わたしたちがじっとしていらなくなるのは、哀れみの情に耐え切れなくなるからです。靈的存在として当然受けるべき恩恵を受けられずにいる人間がひしめいている地上に、何とかして大靈の神意あいを行きわたらせたいと願うからです。大靈は、人間に必要不可欠のものはすべて用意してくださっています。それが平等に行きわたっていないだけのことです。偉大な魂は、他の者が眞理に飢え苦しんでいる時に、自分だけが豊富な知識をもって平氣な顔をしていられないはずです。

『シルバーバーチの靈訓 靈的新時代の到來』

p.72
～
p.73

偉大なる魂は、他の者が眞理に飢え苦しんでいる時に、自分だけが豊富な知識を持って平氣な顔をしていけない。逆を言うならば、靈的眞理を知っておきながら、普及活動をしていない人間は異常な人間だということを明らかにしています。

靈的無知が地球人類を不幸に陥らせ、地球を靈的な光ひかりの射し込まない暗黒の世界にしてきましたが、イエスを総指揮者にした高級靈たちは地球人類を救うために「靈的眞理」により地球人類を救済をすることを200年前に決意しました。それは神意あゐの想いから出發したプロジェクトであり、靈的眞理を地上にもたらして地上人の靈的無知を解決しようと考えたのです。こうしてスピリチュアリズムによる地球人類救済プロジェクトは、靈的眞理を地上に降ろし、それを地球全土に普及させることを目標として展開しています。それは、靈界から見ると地上は無知の程度が酷すぎるか

らであり、その悪弊のレベルが常軌を逸した状況だからです。あらゆる分野が自然法則に反した不調和な文化を築いてしまっています。

靈界から見る地上は、無知の程度がひどすぎます。その無知が生み出す悪弊には、見るに耐えないものがあります。それが地上の悲劇に反映しておりますが、實はそれが、ひいては靈界の悲劇にも反映しているのです。（中略）こうしたことがあまりに多すぎることから、靈的實在について、ある程度の知識を地上に普及させるべしとの決斷が下されたのです。（中略）わたし達は、そうした囚われの状態に置かれ續^{つづ}けている人類に靈的解放をもたらすという目的をもって、一大軍團^{ぐんだん}を組織しました。

『シルバーバーチの靈訓 地上人類への最高の福音』

p.188
～
p.189

靈的に無知な人々は、地上では平均的な人間であっても、靈界から見れば最低限のことさえ身につけていない人間です。一般的な人々は、本來は地上世界で死について、死後世界についてを學び、死後世界への準備をしておくべきことを、幽界、靈界に入ってからやり直さなければなりません。

死後世界に対する最低限の知識も、基本的な靈的眞理も知らない人は靈界上層界から見たとき、大半の人々は靈的存在としての常識的な内容さえ持っていないという事です。すなわち殆どの地球人類は「靈的な問題児」なのです。

シルバーバーチの靈訓では一般的な死後の状況についてを語っていることがありますが、その状況はあまりいいものとは言えません。

こうしている間でも、地上から何百万、何千万という人間がこちらへ送られてきますが、そのほとんどが死後への準備が何もできていないのです。みんな当惑し、混乱し、茫然自失の状態です。それで我々が、いろいろと手を焼くことになります。本当はそちらで靈的教育を始める方が、はるかに面倒が少なくて済むのです。

『古代靈シルバーバーチ 最後の啓示』（ハート出版）

p.79

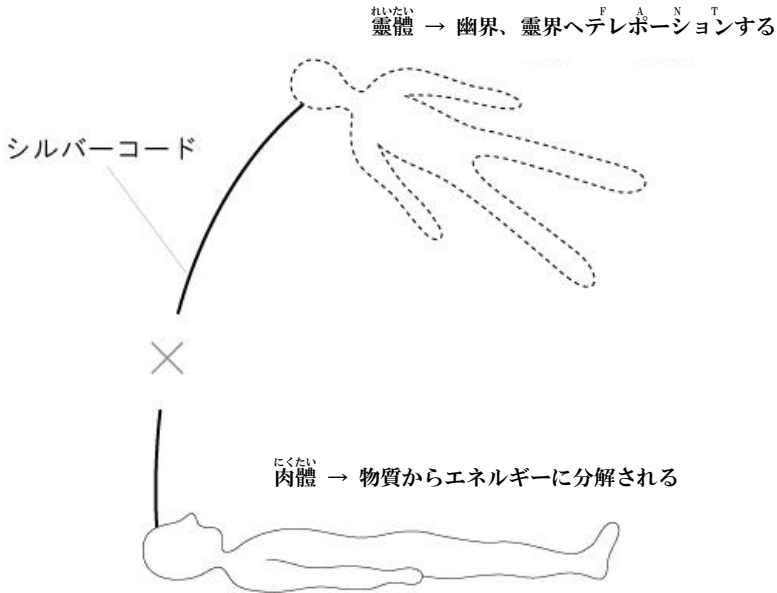
シルバーバーチはこのように地上の方の幽界入りを嘆いていますが、これは一般

EXA PECO

的な他界者の状況であり、地上で靈的真理の學習をして、本質優位の努力、利他、奉仕の實踐、靈的真理の普及、苦しみへの正しい対処、自然法則に適った正しい生活習慣を身につけていた場合、この限りではありません

シルバーコードがすべて切れることが死の定義

スピリチュアリズムでは、死の定義を「シルバーコードが切れる瞬間」と定義しています。チャクラは靈體れいたいと肉體にくたいを繋ぐ接合点ですが、嚴密には肉體にくたいの8つのチャクラそれぞれにオーラれいたい（※靈體れいたい）と肉體にくたいを繋ぐ「コード」が存在します。シルバーコードは「太陽神經叢」と「松果體しょうかたい」に存在し、「ゴールドコード」と呼ばれるコードが「仙骨」、「心臓（※心臓腦）」、「視床下部」に存在し、「ブロンズコード」と呼ばれるコードが「丹田」、「甲状腺」、「前頭葉」に存在します。合計8つのコードがチャクラと呼ばれる場所に存在し、これらのコードすべてが切れた時が肉體にくたいの死と定義することが出来ます。そして肉體にくたいの完全な死は「仙骨」のコードが切れることです。スピリチュアリズムでは、便宜上すべてのコードを「シルバーコード」と呼んでいます。



シルバーコードは各8つのチャクラにあり、シルバーバーチの靈訓では太陽神経叢と松果體を重要視している。波動の法則では心臓のチャクラを重要視している。EXA PIECOと潜在意識を繋いでいるコードが太陽神経叢、EXA PIECOと顯在意識を繋いでいるコードが松果體になる。

2つのコードは精神、身體に直結しているコードなので、切れたら半身不随、植物状態、脳死など不都合が起きるので、シルバーバーチの話は間違っていないが、テレパシー交流という意味では仙骨、心臓、視床下部のシルバーコードが一番大切なコードになる。

チャクラ、經絡、經穴を通して太いものからクモの巢狀の細いものまで、様々なコードがあります。これらのシルバーコードは、一律に切れるのではなく、場所によってそれぞれ異なります。どこかが切れていても、他の部分はしっかりとつながっていることもあります。これらが「自律神經」と呼ばれるシステムになっています。

シルバーコードは、脊髓（※チャクラ）、髓液、ミネラルを通して電氣、電流を通して靈體れいたいと肉體にくたいを繋いでいます。靈體れいたいはホルモンによって電圧調整をしており、リンパ液とホルモンは靈體れいたいの働き、血液と酵素は肉體にくたいの働きと分類することが可能です。それらを自律神經を通して行っており、自律神經の乱れとは、靈體れいたいと肉體にくたいの繋ぎの歪みを表します。これらのコードの内、例えば腦に關連するコードが切れて現代醫學いがくにおいて腦死と判斷される、これが現代地球文化での死の定義とされます。

シルバーコードがどのように切れるかの様々なケース

基本的に脳死によって死と定義するのが現代地球文化ですが、これは本質的には間違いです。例えばシルバーコードの中で松果體しょうかたいに繋がるコードは大腦を通してD I K A G顯在意識の管理、コントロールを司ります。このコードが切れたら死亡しているのと一緒だとして、他のシルバーコードが切れてなくて、生命活動を維持しているにも関わらず臓器移植などをして、靈的に見たら生きているというのに生命を奪って臓器移植をするという殺人を犯しているケースなどもあります。そもそも、脳死か心肺停止のどちらかが肉體にくたいの死と定義し、シルバーコードが切れてなくて蘇生する可能性がある段階でも、火葬をして殺してしまうというのが現代地球文化です。これは非常に恐ろしいことであり、その人にとっては急死に近い状況になり、靈體れいたいと

肉體にくたいの分離の準備がなされていないために、複雑な状況が展開することになります。

これが地球では日常茶飯時で起きており、そのほとんどが死後への準備が何もできていないので、当惑し、混乱し、茫然自失の状態になり、靈界側がそうした人間への世話、介護をするので色々と手を焼いている状況になってしまふのです。

シルバークードの切れ方は一人一人の靈性EXA PIECOの段階で違っています。すばやく切れ

る人、なかなか切れない人、スムーズに切れる人、ぎこちなく切れる人といったように千差万別です。すなわち死に方には、人それぞれ異なる様相があるということな

のです。シルバークードの切れ方、すなわち死に方を決定するのが、本人の靈性EXA PIECOの

進化のレベルであつたり、地上人生における顯在意識の在り方、生き方が反映され

ます。本人の靈性EXA PIECOの状態によって、死に方が様々になるということです。一般的に

言つて、顯在意識のEGHO意識が強いと靈體れいたいと肉體にくたいの結びつきが強くなりシルバーク
 ードが切れるための時間は長くなり、それに比例して苦痛も大きくなります。反対
 に顯在意識のEGHOを最小限、滅却している場合、靈體れいたいと肉體にくたいの結びつきが弱くなり、
 シルバークードの切斷が自然に、何の苦痛もなく進行していきます。そして死はき
 わめて穏やかなプロセスとなり、死の眠りからも素早く覺醒し、靈界入りがスムー
 ズに行われます。

基本的に現代地球文化での死、特に日本人の大半が病院で亡くなります。老弱と
 いう自然死は非常に稀であり、滅多にありません。また、病院で亡くなる人の殆どが
 唯物主義的な考え方に支配されており、死んだら終わりと考えています。そうした
 人間は人生を自我、欲望などのEGHO意識エーゴ意識を増大させて生きてきており、靈的なものに

無關心で物欲に翻弄されてきたような人が大半です。そうなると靈體れいたいと肉體にくたいの結びつきがきわめて強くなっており、そのため死の間際になってもシルバーコードがなかなか切れません。死が近づくと、シルバーコードの切斷が始まりますが、多くの場合、困難が生じます。靈體れいたいと肉體にくたいの分離に長い時間がかかり、シルバーコードの切斷に苦痛がともないます。

次に多い事例が、「事故」、「事件」、「災害」などで急死するような場合です。こうした事例の8割は、本人が決めてきた寿命前に亡くなります。これは本人も予期しないケースであり、靈體れいたいと肉體にくたいの分離の準備が全くなされていないために、複雑な状況が展開することになります。この場合でも本人の靈性EXA PIECO SINQAの進化のレベルや日常生活での靈的意識の持ち方が結果を大きく左右することになります。大半の場合、本

人は突然の出来事に対応できず、茫然自失の状態に陥ります。しばらくの間、「自分

は生きている」と思い込みます。靈體れいたいだけになった自分の姿を見ても依然、地上に生

きていると思ひ込んでいます。しかしその後のプロセスは、靈的成長の進んだ人と

そうでない人では大きな違いが生じます。靈性EXA PIECO SINQAの進化の段階が高い人の場合は周囲

の環境の變化へんかから、自分が不慮の事故で死んだことを悟るようになります。特に生

前から「靈的眞理」を知っていた人は、短時間のうちに自分の死を悟るようになります。

しかしEGHO意識エーゴを増大させるような生活をしてきた人間は、いつまでも自分の死

を自覺することができません。

EXA PIECO SINQA

老衰による自然死や靈性の進化の段階が高い人は、生命力が徐々に衰え、それにと
もなつてシルバーコードも少しずつ自然な形で切れていきます。完熟した果物が

EXA PIECO

木から離れて落ちていくようにスムーズに死のプロセスが進むことになります。更には靈性の段階が高く、日常生活での關心事が物欲から超越しているような人の場合は、地上にいながらにして靈界と同じような利他的な生き方をしています。そうした人の靈體れいたいと肉體にくたいの結びつきは弱くなっていて、地上世界への執着もありませんので、心臓が止まればただちにシルバーコードが切れるようになります。死のプロセスに苦痛を感じることは、ほとんどありません。死にともなう意識の混濁もあまり生じず、わずかに意識がまどろむ状態を経て、すぐに靈界で目を覚ますようになります。このケースは生前に靈的眞理に精通し、實踐しているほど顕著なケースになります。幸福感、至福感に満たされる中で、死のプロセスが進行することもあります。人によっては死の眠りに陥ることもなく、自分の死の状況を明晰な意識で見つめていることもあります。死を受け入れているから起こることなのです。

最惡の死に方は「自殺」であり、スピリチュアリズムでは自殺を斷固として否定します。自殺者の場合は、れいたいにくたい靈體と肉體が特に強く結びついているので、シルバーコードがなかなか切れません。そのため肉體の苦しみにくたいがそのまま靈體れいたいに傳わりつた、激しい苦痛、死ぬような痛みを味わうことになります。この苦しみ、痛みは神から与えられた生命と靈的成長のチャンスカを自ら捨て去った罪に対する罰となっています。言うまでもなく、それは「原因と結果カの法則マ」のもとで引き起こされた結果です。

だいたい地球人の亡くなり方はこの5つのケースに分類されますが、シルバーコードが切れた瞬間が肉體にくたいの寿命という概念がない現代地球文化では、腦死か心肺停止で死亡と診斷されますが、心肺停止で心臓マッサージなどで蘇生するケースはシルバーコードが切れてないことを意味します。更に植物人間だとしても生命活動

はしており、顯在意識に關連するシルバーコードが切れているか、潜在意識に關連するコードが切れており身動きが取れないだけで、靈的にはきちんと意識があります。また、臨死體驗たいけんなどで幽界に一時的に行つたとしても、シルバーコードが切れていなければ地上世界に戻つてこれます。

現に、ヘリコプターで700メートルもの上空からパラシュートが開かなく、海面に落下して死亡したとされる人が、1週間後、棺桶の中で蘇生したというケースなどもあります。湖で溺れて24時間湖の底に沈んでいて心肺停止していても蘇生したというケースも存在します。現代地球文化の一般常識で考えたら奇跡としか言いようがない事例でも、それはシルバーコードが切れてなかつた爲、まだ息を吹き返す可能性があつただけの話です。そのことを現代科學かがくでは認めていません。

生命は永遠であることを知ったことが一番大きいこと

靈的眞理を知った一番大きいことは、「生命は永遠」であり、「死は高時空三元移動」

EXA PIECO

であり、「死後世界は靈性の段階により行くべき階層が決まる」ことを知ったことです。こうした靈的事實は死ぬことは悲劇でも終わりでもなく悲しむことでもないことを表しています。しかし、地球人類は死について、死後世界に対して恐ろしいほど無知であるため、死後に幽界で悲劇が相次ぎ、それが靈界の悲劇にも反映される時代が續いてきました。靈的教育がない地上世界では、十分な魂の成長をしないうちに幽界へ行く人が多いのです。そのため、そういう靈的に問題児の人たちを靈界側で面倒をみたり、監視したり手当てをしたり看護をしたりして、死後世界に適應させてあげないといけないのです。これが本当に大變な苦勞なのです。死後世界で

EXA PIECO
は靈性の成長に應じた界層に必ず行きますが、当人の靈性、道德性、知性のレベル
EXA PIECO
に見合った界層に住むようになります。界層の違いは、そこに住む人の靈性の時空
EXA PIECO
元、段階、振動波の違いによって分けられます。

EXA PIECO
靈性の段階は、善性が強ければ強いほど、慈悲が深ければ深いほど、利己心が少
なければ少ないほど、思いやりの心が多ければ多いほど、それだけ高いレベルの界
層に住むことになります。

これはすなわち、利他性のレベルによって死後の界層が変わるということであり、
生きるとは死後世界への準備をするための學校であるため、死後に通じる教訓とは
EXA PIECO
地上世界で如何に人の役に立つ生き方を実践したのが靈性の指標になります。

靈的眞理が明らかにした「死生觀」による「人生觀」の革命

スピリチュアリズムは、ここ500年の地球の歴史の中で、ようやく死、死後世界の
 本質、正確な情報を地上世界にもたらししました。スピリチュアリズムによつてもた
 らされた靈的眞理は、死、死後世界に關する從來の宗教の見解を根本から覆したば
 かりでなく、地球人類から死に対する恐れや不安を完全に払拭できる情報になつて
 おります。スピリチュアリズムは、地球人類の「死生觀」に根本的なメスを入れる内
 容になつてゐるのです。

スピリチュアリズムが明らかにした死の意味は、死は自然現象であること、シル
 バーコードが切れること、新たな世界に時空元移動すること、死は悲劇ではなく本

來は祝福であり新たな世界での誕生日、死の時期はあらかじめ本質が生まれる前に決めてきていることなどを明らかにしています。

死について、死後世界についての正確な情報、本質的な意味が分かると、地上人生に対する見方、考え方が根本から入れ^か変わります。すなわち「人生觀」に革命が起こるようになります。死ぬことは自然現象の1つであって靈界に行くステップにすぎない以上、死んだ後の世界のことを考慮して地上世界を生きるという人生觀の革命を起こすことになるのです。死後世界を信じない唯物思想の場合、死後のことなど分らない、だから目の前の現象のみで人生を判斷し、^{D I K A G H T}顯在意識のECHO意識を増大させるような生き方、お金に執着した生き方をして、死後に自分で自分を裁く結果になります。こうした利己主義的な生き方が如何に刹那的な生き方なのかを悟るよ

うになるのです。地球人類はスピリチュアリズムによって初めて、地上人生の意味と目的を明確に知ることができるようになりました。地上人生の目的、すなわち「何のために地上に生まれ、死んでいくのか」というすべての生きる原点、生きる意味を明らかにした宗教、思想は地球上にありませんでした。

地上人生の最大の目的は、物質世界におけるたいけん體驗を通して自然法則を學ぶことで

あり、その根本原理が「調和」、「神意」あい、「協調」、「分かち合い」、「慈悲」、「寛容」で

EXA PLECO SINQA

あり、それは「利他」を學び實踐することで靈性の進化の基礎をつくることです。

地上世界は靈的な訓練場所のひとつであり、靈界が大人の學校がっこうに対して地上世界は

子どもが通う學校がっこうと言えます。そして他の天體てんたいでの再生の選択が可能になる段階が

社會人しゃかいとなり、この地球は靈界も地上も、地球圈靈界G I N Oそのものが社會人しゃかいになるための

學校がっこうそのものなのです。靈性EXA PIECO SINQAの進化のために物質世界で奮闘努力する期間が地上人

生の本質的意味なのです。したがって地上人生は常に自己のEGHOエーゴ意識を滅却、最小にする闘いが要求されることになります。唯物主義的な考え方では、死ねばすべては無に帰す、死んだら終わりという考え方が根底にある以上、できるだけ多くのEGHOエーゴを満たさなければ損だという考え方になりますが、そうした生き方はせつかくの地上人生を全て無駄にしてしまう愚かな考え方なのです。

地上人生は物質世界で利他の實踐を通して靈性EXA PIECO SINQAを進化させ、本來の住処である靈

界での生活の準備をするためにあります。利他の實踐を通して、無償の奉仕と自己犠牲を通して靈性EXA PIECO SINQAを進化させるような地上人生を送れば、それが自動的に靈界に行くための準備となります。地上人生は基本的に、苦しみの體驗たいけんを通して自然法則を

學ぶ場所であり、死後世界での本当の喜び、幸福を得るための必要な體驗たいけんです。神意あい

EXA PIECO

と美しさの満ちあふれる本当の喜びと本質の充足感は地上世界には存在しません。高級靈界に行ってからでないかぎり、そうした本質的な幸福を味わうことはで

きないようになっています。死後世界での本当の幸福を獲得するために、物質世界

くろく FUGHEKON FUGHEKIN

で一時的に苦勞くろくするように大靈の自然法則が厳しい環境を用意したのです。です

EXA PIECO SINQA

から靈性の進化には、苦しみ、ECHOエ意識を滅却させるための奮闘努力が不可欠で

す。したがって地球人類は、苦しみや困難を避けようとするのではなく、反対にそれ

らを魂の成長のために必要な體驗たいけんだと甘受し、困難を歓迎しなければなりません

EXA PIECO SINQA

地上人生は物質世界で利他の實踐を通して靈性を進化させ、本来の住処である靈

界での生活の準備をするためにあります。利他の實踐を通して、無償の奉仕と自己

EXA PIECO SINQA

犠牲を通して靈性を進化させるような地上人生を送れば、それが自動的に靈界に行

くための準備となります。地上人生は基本的に、苦しみの體驗たいけんを通して自然法則を學ぶ場所であり、死後世界での本当の喜び、幸福を得るための必要な體驗たいけんです。神意あいと美しさの満ちあふれる本当の喜びと本質EXA PIECOの充足感EXA PIECOは地上世界には存在しません。高級靈界に行ってからでないかぎり、そうした本質的な幸福を味わうことはできないようになっていきます。死後世界での本当の幸福を獲得するために、物質世界で一時的に苦勞くろうするように大靈FOGHEKONの自然法則が厳しい環境を用意したのです。ですから靈性EXA PIECOの進化には、苦しみ、EGHO意識H Yを滅却させるための奮闘努力が不可欠です。したがって地球人類は、苦しみや困難を避けようとするのではなく、反対にそれらを魂の成長のために必要な體驗たいけんだと甘受し、困難を歓迎しなければなりません

そして地上人生への再生前の前世で「原因と結果カ ル マ」をつくってしまった場合、本人

の前世でのカルマの清算のために地上人生において苦しみの體驗たいけんをしなければなら
 ない場合、その苦しみは靈性EXA PLERO SINGAの進化の道をリセットしてくれるためのシステムであ
 り、神の与えた救済システムであり、有り難いものです。「ありがとう」は「有難」
 であり、困難にこそ感謝することが大切です。死後の存続、死後世界についてを知
 り、眞の幸福を知れば、地上世界でどれほど苦しんでも構わないということになり
 ます。多くの人々は何とか苦しみを避けようとしてもがき、宗教などに救いを求め
 ますが、それは間違った生き方です。佛教ぶつこうも、こうした苦しみから逃れるための心
 理療法であり、死後の正しい情報などありません。だから物質世界での苦しみを取
 り除くことを主眼とした間違った思想です。

靈的眞理は、人間が死によって終わる存在ではなく、神の分靈わけみたまとして永遠に生き

續ける存在であることを明らかにしました。靈的知識に基づいた本質的な死生觀は、「人間とは何か？」というテーマに大きな影響を与えました。死について、死後世界についての正しい情報が現代地球文化の科學、醫學、宗教、政治、教育の分野に反映された場合、あらゆる分野が正しい方向にシフトします。しかしそれは、スピリチュアリズムが明らかにした死生觀が正しく地球人類に普及されない限り不可能です。

人間は永遠に生き續ける存在であるという認識を地球上のすべての人間に拡大して考えるとき、人間關係の本質が明らかになります。2000年前のイエスによって人間

關係に対する最も適切で正しい答えが示されています。その答えとは、「全人類は神の子どもであり、地球というソウル・グループの一族の一員であり、神を共通の親とする兄弟姉妹である」ということです。この本質を地球人類は理解できないために、戦争と

いう愚かな行爲が今も世界中で行われています。人間は死後も存在し續ける（つづ）という
 嚴肅な事實を地球人類が深く實感したとき、「靈的眞理」の教える美しい世界が地上
 世界において實現することになります。スピリチュアリズムの死生觀は、これまで
 觀念的にとらえてきた人類愛を明確にしました。地球人類が皆、神の神意（あい）によつて
 結ばれた「靈的同胞」であることを明らかにしたのです。

死について、死後世界についての正しい情報が現代地球文化の科學、かがく醫學、いがく宗教、
 政治、教育に反映された場合、あらゆる問題が解決の方向に向います。戦争という愚
 かなる行爲がなくなります。貧困、飢餓という惡弊が改められます。宗教の束縛によ
 る地縛靈グループの形成を防げます。利己主義という精神の墜落者が減ります。ど
 うぶつ虐待、地球環境破壊という蠻行に根本的メスを入れられるようになります。

更に死についてのテーマは、自殺、人工妊娠中絶、死刑制度、臓器移植、安樂死、延命治療、尊厳死などにも切り込み、全ての分野で間違った行爲が改善されていきます。なので、死についての正しい情報を知った者は、それを正しく普及する努力、工夫をし、あらゆる問題を解決の方向に導くことを心掛ける必要があります。

葬式、墓、残された遺族の心構え、正しい先祖供養

こうした死後世界、死についての正しい情報を得たならば、「葬式」、「墓」、「残された遺族の心構え」、「正しい先祖供養」についても考察する必要があります。結論を先に述べるならば、葬式は靈界に送り出すためのセレモニー、墓はいらない、残された遺族は靈界での再会を目指して靈的成長を目指す、正しい先祖供養とは地縛靈に

なってしまうている可能性のある先祖を高級靈たちによって救済してもらうために禱^{いの}る、これが本質的には正しい在り方です。

スピリチュアリズムによって明らかにされた靈的事實に照らしてみると、これまで宗教によって示されてきた死生觀の大半が間違っていることが判明しました。したがって「正しい死生觀に基づいた葬式や埋葬は存在しなかった」ということになります。地球人類は今、スピリチュアリズムを通して初めて正確な死生觀を知ることになりました。

そして地球には、「火葬」、「土葬」、「木葬」、「水葬」、「鳥葬」など、宗教、民族などの違いにより様々な弔い方が存在しますが、ギリギリ自然法則に適った弔い方は

火葬になります。しかし、本当に調和が取れていた場合、そもそも埋葬する必要がありません。何故、埋葬が必要なのか、ここでシルバーバーチの靈訓の言葉が大切なヒントになります。

イエスの死體したいはどうなったのでしょうか？

「分解ぶんかいされてしまいました。もともと、その現象も含めて、靈の姿が見えるとか声が聞こえるとかの物的現象は大して重要なことではありません。それよりもっと大切なことは、あなた方自身の靈性を開發することです」

『スピリチュアリズムによる靈性進化の道しるべ』

p.242

イエスの場合、ひかり 光の粒子に分解され、にくたい 肉體を地上世界に残していくことはありま
EXA PIECO SINQA せんでした。EXA PIECO SINQA 靈性の進化の段階により分解のされ方がか 變わります。FUGHEKIN 自然法則、その
法則である「微生物」が物質からエネルギーへの分解、エネルギーから物質への組み
立てをしておりますが、ひかり 光、空氣、土、水の「F A N T 時空元移動」をしているのは間違
なく微生物です。そしてイエスという高級靈の場合、EXA PIECO 靈性が高かったため、ひかり 光に完
全に分解され、空氣、土、水に分解されるという工程をすつ飛ばしました。

火葬は空氣に分解する工程なので、それより上位のひかり 光への分解にもっとも近いの
で、自然法則に完全に適っている訳ではありませんが、現代地球文化では火葬が最
も適した弔い方という結論になります。しかし、シルバークーチがいうように、EXA PIECO 靈性
を開發し、向上させることが本來はもっとも大切であり、地上世界ににくたい 肉體を残して

EXA PIECO

いくというのは、地球人類の靈性の段階が未熟だから起こる現象なのです。そして火葬をするにしても、シルバーコードが完全に切れているかどうか確認をしてからが理想であり、最低でも3日間は様子を見て、蘇生する可能性がないと判断してから火葬にしない場合、まだシルバーコードが切れてない場合、相手の靈體に地獄のような苦痛を与えてしまい、死後への悪影響が懸念されます。こればかりは現代地球文化で判別法が確立されていないので、難しい問題になります。時空からの情報では7日間は様子を觀察することを推奨しており、シルバーコードが完全に切れていないかを確認してからでなければ、火葬は場合によって殺人になってしまう可能性があります。なので、ギリギリ自然法則に適った弔い方という意味になります。現代地球文化での一般的な埋葬法である火葬と土葬は、どちらも現代地球文化では「やむを得ない」埋葬法です。では、眞の埋葬法とは、「靈性の進化により究の粒子に

EXA PIECO SIN QUA

らから

分解される」ことであり、次点が空氣に分解させる「火葬」であり、「土葬」は靈的知識に照らした場合、好ましい埋葬法ではありません。

また、墓（埋葬）についてどのように捉えたらいいのか、大半の日本人は、墓はなくてはならないものと考えています。しかし墓は本当に必要なのでしょうか。答えは墓はどちらでも構わないという答えです。スピリチュアリズムが明らかにした靈的事實から、墓に死者がいないことは明白です。墓は不用となった肉體にくたいの捨て場所にすぎません。したがって、わざわざ墓という特別な場所を設けなくても構わないということになります。山や海に捨て去っても、川に流してもいいのです。その意味で「遺灰をガンジス川に流す」というインド宗教の在り方は、靈的事實に近いと言えます。また、勲章だらけで御殿のようなお墓を作っても、お彼岸や命日でさえ本人は

幽界最下層で地縛靈となり、墓には來れないケースがあります。大きな墓を造って故人の生前の功績を示そうなどという考えは完全に靈的無知のなせる所業です。ついでに言うならば墓ばかりでなく仏壇も位牌も必要ないということになります。

地上世界での葬式、埋葬には靈的意味がなく、靈的事實から外れた無駄な行爲であることは明白になりました。そうした旧態依然とした葬祭や埋葬儀式に、どのようにスピリチュアリストは關わり、いまだ靈的事實を知らない一般の人々の葬祭に對してどのような態度をとつたらよいのでしょうか。答えは、靈的眞理を知らない相手に對しては、たとえそれが眞理から外れた価値のない儀式であっても、強固に参加を拒み續けるようなことをしてはなりません。一般の方々のしていることに對して、それを非難したり、無理やりやめさせるようなことをしてはなりません。相手

は何も知らないのだと同情と寛容な思いを持って臨むことが必要です。いずれ時代が進み、靈的眞理が地球上の隅々にまで行きわたるようになれば、靈的眞理と一致しないこれまでの犠式や宗教的習慣は消滅することになります。

そして、正しい先祖供養とは、すでに他界している知人や血縁者の中にも、靈的無知のため幽界地縛靈となつて苦しんでいる者がいる可能性があります。地縛靈とは

ぶっきょう

佛教で言う「成仏しない靈、地獄に堕ちた靈」のことを指します。これまで宗教で

言つてきたような地獄は靈界には存在しません。地獄とは「地縛靈となつて苦しんでいる存在たちの心の世界」であり「地上人生の原因と結果」の反映であり、自分自

かしゃく

身の良心の呵責と激しい後悔が生み出した暗黒の環境に他なりません。大靈の

FUGHEKIN

自然法則はこうした落伍者に対しても、見捨てることなく更生の道、救済の道を示

します。地縛靈となった他界者は、靈界の救済グループの手で救済された場合、靈界で更生の道をたどっていくことになります。しかし、救済の手が差し伸べられずに幽界にいる先祖や血縁者が地縛靈となっている場合には、彼らを救ってあげることが必要となります。正しい先祖供養、すなわちスピリチュアリズムの観点から見た先祖供養とは、「地縛靈となっている先祖を救済する」ということに他なりません。

地縛靈となった先祖靈の救済に対する働きかけは、靈界にいる地縛靈の救済グループにおいてその大半の仕事が進められることになります。地上サイドからあれこれ手出しするようなことは、實はほとんどありません。ましてや靈界の存在を信じていないような僧侶が先祖供養のための念仏を唱えても、それが地縛靈の更生による影響を与えることはありません。低級靈のイタズラをわざわざ引き出すような結

果にしかありません。では、地縛靈となった先祖靈を救済するために、地上人がすべきこと、地縛靈を更生させるために出来る最大のことは、地縛靈に「靈的眞理を語って聞かせる」ということ、次に地縛靈になっている可能性のある対象者に神意^{あい}の波動を送り、「靈界の救済グループの救済ルートを確保する」ことです。靈界の救済グループはその神意^{あい}の思念による磁氣的波動により救済の手が差し伸べられるようになります。靈界人と地上人の二人三脚により地縛靈の救済がスムーズに進むのであり、わたし達は救済ルートを確保し、後は靈界の救済グループにお任せする姿勢が大切になります。

そして最後に、死に対する心構えになります。ここまで繰り返して、死について、死後世界に対しての正確な情報をお傳^{つた}えしてきましたが、それを完全に自分自身のも

のにしているのかどうかは、「神意^あする人の死を前にしても動揺せずに平静さを保つことができる」ようになってこそ、靈的眞理を自分自身のものにしたと言えます。この点において、まさに眞理を知った者としての眞価が問われることになります。

SEP01W

背後靈の導きにより地球人類の中で優先的に靈的眞理を知ったスピリチュアリストは、まずは死に対する正しい心構えを率先して身につけていかなければなりません。「死を素晴らしいと思えること」、これがスピリチュアリストの資格を決定する第一条件です。死を悲劇と勘違いしている大半の地球人の中で靈的視野に立つて死を正しく認識することは、眞理を學んでいる人間としての最低条件です。

地球人類は死の認識が間違っているため、他界した人をおかしいそうだと思って涙

を流します。特に事故死や若くして死んだ場合、それが顯著です。しかし現實には死んだ当の本人は例外なく靈界に行けたことを喜んでいます。地上世界にいるほうが地獄だと感じています。そうした事實を知るならば、死別の悲しみは半減するはずです。他界して幽界から靈界に行けた人は幸せの中に浸っています。地球人が死別を悲しむのは、靈界から見ると的外れで迷惑なことなのです。

※2021年のイエスの幽界降臨、地上再臨により、幽界にいる地縛靈グループが大解放されており、幽界の状況は一變いっぺんしております。イエスのまばゆい光を見て、スピリチュアリストに改心し、靈界の大組織の一員としての働く存在が急増しており、それは徐々に地上世界にも反映されていくことになります。靈界の存在がシルバーバーチの靈訓をバイブルに、次々とスピリチュアリストに改心しているのです。

なので、身内や知り合いが幽界地縛靈になる可能性は以前より激減しており、心配する必要、悲しむ必要は本当にないということです。逆に、イエスの地上再臨の事實やスピリチュアリズム普及會ふきゅうかいの教えに反した生き方をして靈界の大組織の一員として認められない行爲をした場合、生前の靈界のサポート、死後の靈界の救援や救済を一切斷たれてしまうので、そちらのほうが遥かに恐ろしいことです。

亡くなった人を悲しむのは、一種の自己憐憫れんぴんの感情です。要するに大切な人が亡くなったわたしは可哀想な存在だ、なんて不幸なんだと嘆き悲しむ感情です。しかし、死後にもその人は生き續つづけます。なので、そうした想いは亡くなった人の足枷になり、呪いにもなってしまう可能性もあります。實はそうした想いが地縛靈になる原因になるケースも多々あり、幽界から地上世界にいる人間にどうにかして生きて

いることを傳つたえたくて地縛靈になる存在もあります。他界した者への執着は度が過ぎると故人への悪影響になってしまう可能性があるということであり、そうした意味でも死後への正しい知識は必要だと言えます。

靈とは生命であり、生命とは靈です。靈が肉體にくたいに宿ることを生命體せいめいたいといい、死は生命體せいめいたいからシルバーコードが切り離されるだけで、生命に対して何の影響も及ぼしません。死は生命に対して何の手出しも出来ません。死は生命を滅ぼすことは出来ません。死は新たな世界への旅立ちであり、生も新たな世界への旅立ちです。

人はいずれ新たな世界に旅立たなくてはなりません。ずっと同じ世界に生き續つづけることは不可能なのです。靈界の者からすれば、靈界から地上への旅立ちのほう

が悲劇であり、地上世界への旅立ちは「未知への航海」であり、死後に「無知への後悔」になる可能性の高い道です。それでも背後靈（守護靈、指導靈）が地上人生を導き、時に慰め、靈的巡礼の旅への確信をもたらそうと努力してくれています。

S E P O U W

それは死後の世界を見据えての教育であり、死は生前の結果がすべて反映される

E X A P I E C O

結果の世界です。利他、奉仕の實踐による靈性の向上を心掛け、實踐した結果が報

われないことなどありません。必ず報われるとの確信を持って地上人生を生き抜く

E X A P I E C O

べきです。残された遺族は、自分自身が靈性を向上させ、靈界での再会を目指すこ

とが正しい心構えであると言えます。なので死を嘆き悲しむ必要はありません。そ

E X A P I E C O

れよりも靈性の向上のために利他、奉仕、人の役に立つことを實踐すべきです。そ

れが死者への最大の弔いであるのです。

廣瀬仁の語る靈的眞理 靈的思想の全貌（上巻）

2025 年 2 月 14 日 第一刷完成

廣瀬仁

〒442-0807 愛知県豊川市谷川町洞 163-2

メールアドレス mirai.harmony@gmail.com
